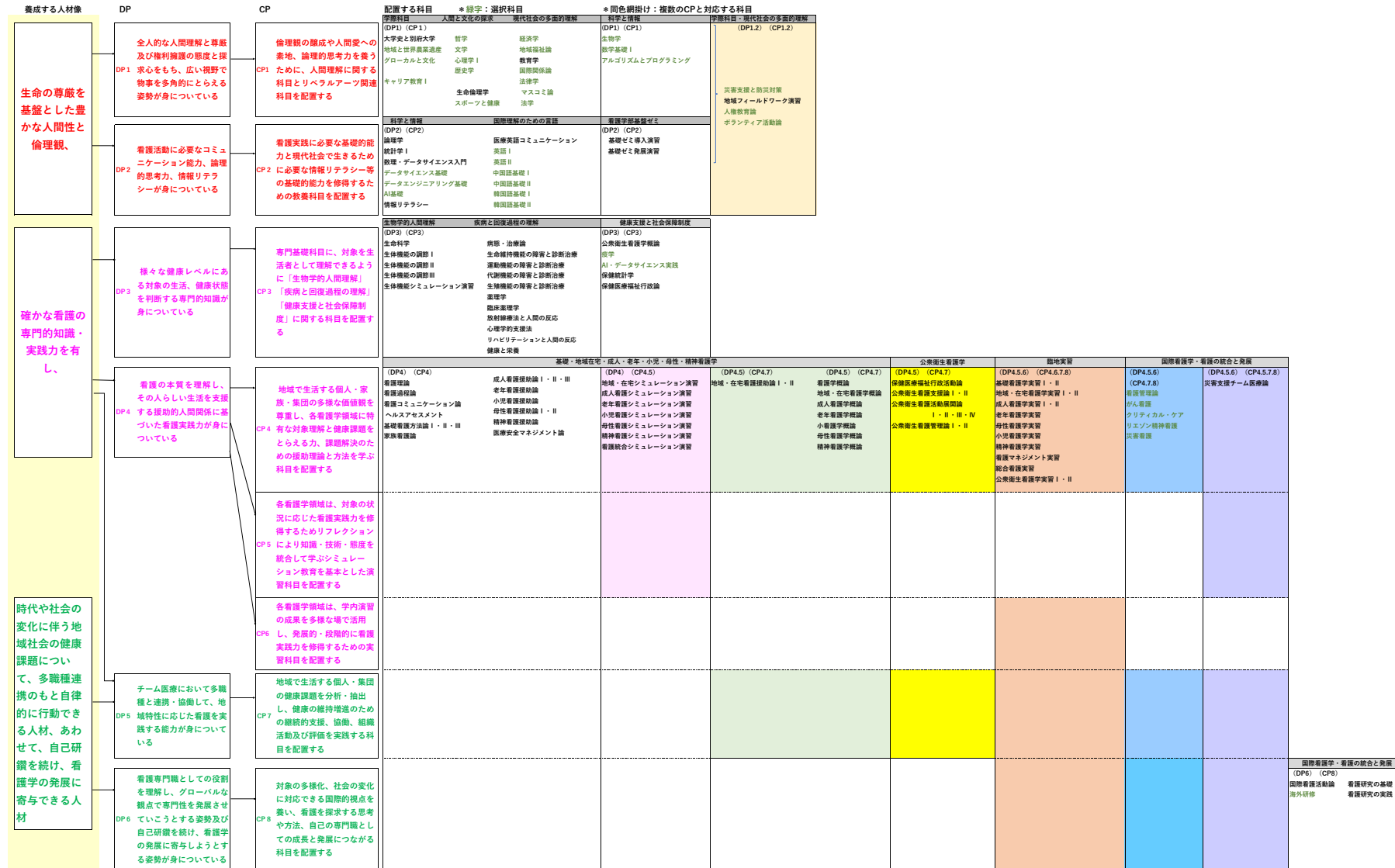


審査意見への対応を記載した書類（6月）資料

資料目次

別紙1：DP・CPと授業科目の対応関係図	2
別紙2：生体機能シミュレーション演習（シラバス）	3
別紙3：公衆衛生看護学概論（シラバス）	5
別紙4：看護学概論（シラバス）	7
別紙5：家族看護論（シラバス）	9
別紙6：成人看護学実習Ⅰ（シラバス）	11
別紙7：小児看護援助論（シラバス）	13
別紙8：小児看護学実習（シラバス）	15
別紙9：母性看護シミュレーション演習（シラバス）	17
別紙10：母性看護学実習（シラバス）	19
別紙11：精神看護援助論（シラバス）	21
別紙12：国際看護活動論（シラバス）	23
別紙13：総合看護実習（シラバス）	25
別紙14：公衆衛生看護活動展開論Ⅰ（シラバス）	27
別紙15：公衆衛生看護管理論Ⅰ（シラバス）	29
別紙16：公衆衛生看護学実習Ⅰ（シラバス）	31
別紙17：公衆衛生看護学実習Ⅱ（シラバス）	33

(別紙1)



- AP**
1. 生命や人権を大切にし、探求心と将来にわたり学び続ける姿勢を有していること
 2. 看護学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、ものごとを論理的に考える資質を有していること
 3. 将来、看護師・保健師として地域の人々の健康のために役立ちたいという強い意志を有していること
 4. 他人の意見を尊重し、他の職種の人とともに役割を果たす態度を有していること
 5. 自分の考えをもち、主体的に動する態度をしていること

図1：DP・CPと授業科目の対応関係図

(別紙2) 新

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名			
	生体機能シミュレーション演習				白石 裕士			
科目区分			対象学科					
専門基礎分野 生物学の人間理解			看護学部 看護学科					
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP				
1年次	後期	1	○	DP3				
授業概要	本演習では、生体機能の調節Ⅰ、生体機能の調節Ⅱ、生体機能の調節Ⅲで学習した身体的基本的な構造と機能の知識を活用し、身体機能の変化した場合、看護の視点から生体機能の調節について理解する。シミュレーションにより身体機能の変化を理解するために全身を観察する。さらに、フィードバック、ディスカッションを繰り返し、看護の対象である生活者としての身体機能の理解を強化し、臨床現場に必要な判断力と基本的スキルの修得に繋げる。この一連の過程を通して、学生は状況判断力、コミュニケーション力と実践力を身につけ、臨地実習のレディネスを高めることができる。							
	到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
1		各器官・臓器の立体的な配置とつながりについて理解できる。			○			
2		生体機能の調節Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ知識を活かし、実践することができる。			○			
3		ディスカッションを繰り返し、対象の生活、健康状態に関する自分の考えを言語化することができる。			○			
4								
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間			担当教員		
	1	シミュレーション演習ガイダンス	復習（2時間） 与えられたテーマについて復習する。			白石 裕士		
	2	筋・骨格系Ⅰ 「骨格標本の観察を通して、人体構造の特徴を学ぼう」	予習（3時間） 講義「生体機能の調節Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の内容を復習する。また、配布資料および映像資料を熟読して演習に備える。 復習（3時間） 授業中の発表ビデオを視聴して復習を行い、レポートを作成する。			白石 裕士		
	3	筋・骨格系Ⅱ 「全身筋肉モデルの観察を通して、人体構造の特徴を学ぼう」	予習（3時間） 講義「生体機能の調節Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の内容を復習する。また、配布資料および映像資料を熟読して演習に備える。 復習（3時間） 授業中の発表ビデオを視聴して復習を行い、レポートを作成する。			白石 裕士		
	4	脳・神経系 「脳・神経系模型を用いて、脳・神経系の構造と機能について理解を深めよう」	予習（3時間） 講義「生体機能の調節Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の内容を復習する。また、配布資料および映像資料を熟読して演習に備える。 復習（3時間） 授業中の発表ビデオを視聴して復習を行い、レポートを作成する。			白石 裕士		
	5	呼吸器 「肺音の聴診を通じて、呼吸器のはたらきについて理解を深めよう」	予習（3時間） 講義「生体機能の調節Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の内容を復習する。また、配布資料および映像資料を熟読して演習に備える。 復習（3時間） 授業中の発表ビデオを視聴して復習を行い、レポートを作成する。			白石 裕士		
	6	循環器Ⅰ 「心音の聴診と心電図から、心臓のはたらきについての理解を深めよう」	予習（3時間） 講義「生体機能の調節Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の内容を復習する。また、配布資料および映像資料を熟読して演習に備える。 復習（3時間） 授業中の発表ビデオを視聴して復習を行い、レポートを作成する。			白石 裕士		
	7	循環器Ⅱ 「血圧の測定・脈拍の触知から、循環器系についての理解を深めよう」	予習（3時間） 講義「生体機能の調節Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の内容を復習する。また、配布資料および映像資料を熟読して演習に備える。 復習（3時間） 授業中の発表ビデオを視聴して復習を行い、レポートを作成する。			白石 裕士		

授業計画	8	消化器 「腹部の血管音と腸蠕動音の聴取・腹部の触診を通じて、腹部臓器の構造と機能をより理解しよう」	予習（3時間） 講義「生体機能の調節Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の内容を復習する。また、配布資料および映像資料を熟読して演習に備える。 復習（3時間） 授業中の発表ビデオを視聴して復習を行い、レポートを作成する。	白石 裕士				
履修条件や関連する科目等	履修条件：生命科学、生体機能の調節Ⅰ、生体機能の調節Ⅱ、生体機能の調節Ⅲを履修していることが望ましい 関連科目：生命科学、生体機能の調節Ⅰ、生体機能の調節Ⅱ、生体機能の調節Ⅲ							
（教科書）	医学書院 e-テキスト「系統看護学講座」[1]解剖生理学							
（参考書）								
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標 1				20%	20%		
	到達目標 2				20%	20%		
	到達目標 3					10%	10%	
	到達目標 4							
（自由記述欄）	レポート40%		プレゼンテーション50%		ディスカッション10%			
	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。							
（学習相談及び学習成果のフィードバック）	(1) 学習相談 場所：研究室の場所はmoodleに掲載しています オフィスアワー：moodleにメールアドレスとともに掲示しています。メールでの質問は常に受け付けます。 (2) 学習成果のフィードバック プレゼンテーションに対するアドバイスを各回の終わりに行う。							
（法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項）								
（学生のメッセージ）	事前学習においては教科書の該当部分および配布資料に目を通し、演習がスムーズに進むように心がけましょう。事後学習は、各課題に対してレポートを作成し提出してください。解剖生理学で得た知識を実感できる貴重な機会です。演習で生じた疑問は、次の演習までに必ず参考書で調べる、もしくはオフィスアワーを利用して質問に来るなどして、残さないようにしましょう。							
（FAX/FAX）	LFS-2-05-910							

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名				
	生体機能シミュレーション演習				白石 裕士				
科目区分			対象学科						
専門基礎分野 生物学の人間理解			看護学部 看護学科						
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP					
1年次	後期	1	○	DP3					
授業概要	本演習では、生体機能の調節Ⅰ、生体機能の調節Ⅱ、生体機能の調節Ⅲで学習した身体的基本的な構造と機能の知識を活用し、身体機能の変化した場合、看護の視点から生体機能の調節について理解する。シミュレーションにより身体機能の変化を理解するために全身を観察する。さらに、フィードバック、ディスカッションを繰り返し、看護の対象である生活者としての身体機能の理解を強化し、臨床現場に必要な判断力と基本的スキルの修得に繋げる。この一連の過程を通して、学生は状況判断力、コミュニケーション力と実践力を身につけ、臨地実習のレディネスを高めることができる。								
	到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		1	各器官・臓器の立体的な配置とつながりについて理解できる。			○			
		2	生体機能の調節Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ知識を活かし、実践することができる。			○			
		3	ディスカッションを行い、自分の考えを言語化することができる。		○	○			
4		チームとしての意見をまとめ学習成果に関してプレゼンテーションを行うことができる。		○	○				
5									
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間		担当教員				
	1	シミュレーション演習ガイダンス	復習（2時間） 与えられたテーマについて復習する。		白石 裕士				
	2	筋・骨格系Ⅰ 「骨格標本の観察を通して、人体構造の特徴を学ぼう」	予習（3時間） 講義「生体機能の調節Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の内容を復習する。また、配布資料および映像資料を熟読して演習に備える。 復習（3時間） 授業中の発表ビデオを視聴して復習を行い、レポートを作成する。		白石 裕士				
	3	筋・骨格系Ⅱ 「全身筋肉モデルの観察を通して、人体構造の特徴を学ぼう」	予習（3時間） 講義「生体機能の調節Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の内容を復習する。また、配布資料および映像資料を熟読して演習に備える。 復習（3時間） 授業中の発表ビデオを視聴して復習を行い、レポートを作成する。		白石 裕士				
	4	脳・神経系 「脳・神経系模型を用いて、脳・神経系の構造と機能について理解を深めよう」	予習（3時間） 講義「生体機能の調節Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の内容を復習する。また、配布資料および映像資料を熟読して演習に備える。 復習（3時間） 授業中の発表ビデオを視聴して復習を行い、レポートを作成する。		白石 裕士				
	5	呼吸器 「肺音の聴診を通じて、呼吸器のはたらきについて理解を深めよう」	予習（3時間） 講義「生体機能の調節Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の内容を復習する。また、配布資料および映像資料を熟読して演習に備える。 復習（3時間） 授業中の発表ビデオを視聴して復習を行い、レポートを作成する。		白石 裕士				
	6	循環器Ⅰ 「心音の聴診と心電図から、心臓のはたらきについての理解を深めよう」	予習（3時間） 講義「生体機能の調節Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の内容を復習する。また、配布資料および映像資料を熟読して演習に備える。 復習（3時間） 授業中の発表ビデオを視聴して復習を行い、レポートを作成する。		白石 裕士				
	7	循環器Ⅱ 「血圧の測定・脈拍の触知から、循環器系についての理解を深めよう」	予習（3時間） 講義「生体機能の調節Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の内容を復習する。また、配布資料および映像資料を熟読して演習に備える。 復習（3時間） 授業中の発表ビデオを視聴して復習を行い、レポートを作成する。		白石 裕士				

授業計画	8	消化器 「腹部の血管音と腸蠕動音の聴取・腹部の触診を通じて、腹部臓器の構造と機能をより理解しよう」	予習（3時間） 講義「生体機能の調節Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の内容を復習する。また、配布資料および映像資料を熟読して演習に備える。 復習（3時間） 授業中の発表ビデオを視聴して復習を行い、レポートを作成する。	白石 裕士				
履修条件や関連科目等	履修条件：生命科学、生体機能の調節Ⅰ、生体機能の調節Ⅱ、生体機能の調節Ⅲを履修していることが望ましい 関連科目：生命科学、生体機能の調節Ⅰ、生体機能の調節Ⅱ、生体機能の調節Ⅲ							
（教科書）	医学書院 e-テキスト「系統看護学講座」[1]解剖生理学							
（参考書）								
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標 1				20%	20%		
	到達目標 2				20%	20%		
	到達目標 3						10%	
	到達目標 4					10%		
到達目標 5								
（自由記述欄）	レポート40% プレゼンテーション50% ディスカッション10%							
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。							
学習相談及び学習成果のフィードバック	(1) 学習相談 場所：研究室の場所はmoodleに掲載しています オフィスアワー：moodleにメールアドレスとともに掲示しています。メールでの質問は常に受け付けます。 (2) 学習成果のフィードバック プレゼンテーションに対するアドバイスを各回の終わりに行う。							
科目に含める必要事項	法令等に定められた授業							
学生のメッセージ	事前学習においては教科書の該当部分および配布資料に目を通し、演習がスムーズに進むように心がけましょう。事後学習は、各課題に対してレポートを作成し提出してください。解剖生理学で得た知識を実感できる貴重な機会です。演習で生じた疑問は、次の演習までに必ず参考書で調べる、もしくはオフィスアワーを利用して質問に来るなどして、残さないようにしましょう。							
ナカマリ	LFS-2-05-910							

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名
	公衆衛生看護学概論				赤星 琴美
科目区分			対象学科		
専門基礎分野	健康支援と社会保障制度		看護学部 看護学科		
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP	
2年次	前期	2	○	DP3	

授業概要
 本講義は、公衆衛生看護の理念、対象、活動方法の特性について基本となる理論や概念を理解し、対象の理解について深く学ぶと共に、公衆衛生看護が対象とする健康課題や活動方法など基本的な考え方を理解する。公衆衛生看護の目的、社会的公正、ヘルスプロモーション、アドボカシー、対象者を生活者として捉えるという視点、環境と生活者の健康との関係、個人・家族・集団・地域との連動、対象者との協働、施策化の意義、グローバル社会における公衆衛生看護活動のあり方を学ぶ。学生は、保健師の定義と法的根拠、保健師の使命、保健師のコンピテンシー、保健師活動の変遷を理解することができる。

到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	1	公衆衛生看護の目的、理念、生活の場である地域に根差した看護の必要性とその意義について理解できる。			○			
	2	公衆衛生看護が対象とする健康課題や活動方法の特性（活用理論・モデル）など基本的な考え方を理解できる。			○			
	3	公衆衛生看護の歴史、諸外国における公衆衛生看護活動について説明できる。			○			
	4	個人・家族・集団・地域との連動、対象者との協働、グローバル社会における公衆衛生看護活動を理解できる。			○			
	5	保健師の定義と法的根拠、保健師の使命、保健師のコンピテンシー、保健師活動の変遷を理解できる。			○			

授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間	担当教員
	1	公衆衛生看護学とは① ～地域における看護活動の必要性～	テキスト第1章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美
	2	公衆衛生看護学とは② ～生活・地域の定義、健康の社会的決定要因～	テキスト第2章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美
	3	公衆衛生看護の場と対象① ～発達段階、健康レベル、個・家族、特定集団・コミュニティなど対象の特性と健康課題における看護活動～	テキスト第2章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美
	4	公衆衛生看護の場と対象② ～行政や地域包括支援センター、産業、学校、在宅、福祉分野などにおける看護活動～	テキスト第2章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美
	5	公衆衛生看護の場と対象③ ～産業、学校などにおける看護活動～	テキスト第2章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美
	6	健康に影響する社会的要因と公衆衛生看護活動(グループワーク) ～公衆衛生看護活動の実事例～	テキスト第2章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美
	7	健康に影響する環境的要因と公衆衛生看護活動(グループワーク) ～公衆衛生看護活動の実事例～	テキスト第2章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美
	8	公衆衛生看護学の歴史	テキスト第4章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美
	9	諸外国における公衆衛生看護活動	テキスト第6章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美
	10	公衆衛生看護活動の基盤となる理念と理論① ～プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション、アドボカシー～	moodle内の教材を確認しておくこと(4h)	赤星 琴美
	11	公衆衛生看護の基盤となる理念と理論② ～ソーシャルキャピタル、住民参加～	moodle内の教材を確認しておくこと(4h)	赤星 琴美
	12	公衆衛生看護の活用理論・モデル① (グループワーク) ～行動変容ステージモデル ヘルスピリーフモデル～	moodle内の教材を確認しておくこと(4h)	赤星 琴美

授業計画	13	公衆衛生看護の活用理論・モデル② ～コミュニティ・アズ・パートナーモデル～	moodle内の教材を確認しておくこと(4h)	赤星 琴美
	14	公衆衛生看護の基本理念と保健師の役割①	テキスト第3章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美
	15	公衆衛生看護の基本理念と保健師の役割②	テキスト第3章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美

履修条件や関連する科目等
 関連科目：保健行政福祉活動論、保健医療福祉行政活動論、公衆衛生看護支援論Ⅰ、公衆衛生看護支援論Ⅱ、公衆衛生看護活動論Ⅰ～Ⅳ、公衆衛生看護管理論Ⅰ、Ⅱ

(テキスト)
 麻原きよみ編 第1巻 公衆衛生看護学原論 第2版 医歯薬出版株式会社

(参考書)
 随時提示する

評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標1		10%				5%	
	到達目標2		10%		10%	5%	5%	
	到達目標3		10%				5%	
	到達目標4		10%		10%	5%	5%	
	到達目標5		5%				5%	

(自由記述欄)
 評価方法

基準等
 ・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。

学習相談及び学習成果のフィードバック
 レポートは評価後、授業中に解説を行い、後日返却します。期末試験に関する答案等は研究室に保管していますので、事前に連絡のうえ内容を確認することができます。【研究室所在】【メールアドレス】moodleにメールアドレスを掲示しています。またmoodleのメッセージ機能からも連絡可能です。【オフィスアワー】moodleにオフィスアワーの時間を掲示しています。必要に応じてはこの時間以外でも相談可能です。事前に上記のメールアドレスへ連絡をとってください。

科目に含める必要事項
 法令等に定められた授業

学生へのメッセージ
 毎回の授業最後にmoodle内でミニツバーパーの提出が求められます。(ICT活用)

ナカリ
 HLS-2-01-910

(別紙3) 旧

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名
	公衆衛生看護学概論				赤星 琴美
科目区分			対象学科		
専門基礎分野	健康支援と社会保障制度		看護学部 看護学科		
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP	
2年次	前期	2	○	DP3	

授業概要
 本講義は、公衆衛生看護の理念、対象、活動方法の特性について基本となる理論や概念を理解し、対象の理解について深く学ぶと共に、公衆衛生看護が対象とする健康課題や活動方法など基本的な考え方を理解する。公衆衛生看護の目的、社会的公正、ヘルスプロモーション、アドボカシー、対象者を生活者として捉えるという視点、環境と生活者の健康との関係、個人・家族・集団・地域との連動、対象者との協働、施策化の意義、グローバル社会における公衆衛生看護活動のあり方を学ぶ。学生は、保健師の定義と法的根拠、保健師の使命、保健師のコンピテンシー、保健師活動の変遷を理解することができる。

到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	1	公衆衛生看護の目的、理念、生活の場である地域に根差した看護の必要性とその意義について理解できる。			○			
	2	公衆衛生看護が対象とする健康課題や活動方法の特性（活用理論・モデル）など基本的な考え方を理解できる。			○	○		
	3	公衆衛生看護の歴史、諸外国における公衆衛生看護活動について説明できる。			○	○		
	4	個人・家族・集団・地域との連動、対象者との協働、グローバル社会における公衆衛生看護活動を理解できる。			○	○		
	5	保健師の定義と法的根拠、保健師の使命、保健師のコンピテンシー、保健師活動の変遷を理解できる。			○			

授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間	担当教員
	1	公衆衛生看護学とは① ～地域における看護活動の必要性～	テキスト第1章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美
	2	公衆衛生看護学とは② ～生活・地域の定義、健康の社会的決定要因～	テキスト第2章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美
	3	公衆衛生看護の場と対象① ～発達段階、健康レベル、個・家族、特定集団・コミュニティなど対象の特性と健康課題における看護活動～	テキスト第2章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美
	4	公衆衛生看護の場と対象② ～行政や地域包括支援センター、産業、学校、在宅、福祉分野などにおける看護活動～	テキスト第2章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美
	5	公衆衛生看護の場と対象③ ～産業、学校などにおける看護活動～	テキスト第2章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美
	6	健康に影響する社会的要因と公衆衛生看護活動(グループワーク) ～公衆衛生看護活動の実事例～	テキスト第2章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美
	7	健康に影響する環境的要因と公衆衛生看護活動(グループワーク) ～公衆衛生看護活動の実事例～	テキスト第2章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美
	8	公衆衛生看護学の歴史	テキスト第4章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美
	9	諸外国における公衆衛生看護活動	テキスト第6章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美
	10	公衆衛生看護活動の基盤となる理念と理論① ～プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション、アドボカシー～	moodle内の教材を確認しておくこと(4h)	赤星 琴美
	11	公衆衛生看護の基盤となる理念と理論② ～ソーシャルキャピタル、住民参加～	moodle内の教材を確認しておくこと(4h)	赤星 琴美
	12	公衆衛生看護の活用理論・モデル① (グループワーク) ～行動変容ステージモデル ヘルスピリーフモデル～	moodle内の教材を確認しておくこと(4h)	赤星 琴美

授業計画	13	公衆衛生看護の活用理論・モデル② ～コミュニティ・アズ・パートナーモデル～	moodle内の教材を確認しておくこと(4h)	赤星 琴美
	14	公衆衛生看護の基本理念と保健師の役割①	テキスト第3章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美
	15	公衆衛生看護の基本理念と保健師の役割②	テキスト第3章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美

履修条件や関連する科目等
 関連科目：保健行政福祉活動論、保健医療福祉行政活動論、公衆衛生看護支援論Ⅰ、公衆衛生看護支援論Ⅱ、公衆衛生看護活動論Ⅰ～Ⅳ、公衆衛生看護管理論Ⅰ、Ⅱ

(テキスト)
 麻原きよみ編 第1巻 公衆衛生看護学原論 第2版 医歯薬出版株式会社

(参考書)
 随時提示する

評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標1		10%				5%	
	到達目標2		10%		10%	5%	5%	
	到達目標3		10%				5%	
	到達目標4		10%		10%	5%	5%	
	到達目標5		5%				5%	

(自由記述欄)
 評価方法

基準等
 ・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。

学習相談及び学習成果のフィードバック
 レポートは評価後、授業中に解説を行い、後日返却します。期末試験に関する答案等は研究室に保管していますので、事前に連絡のうえ内容を確認することができます。【研究室所在】【メールアドレス】moodleにメールアドレスを掲示しています。またmoodleのメッセージ機能からも連絡可能です。【オフィスアワー】moodleにオフィスアワーの時間を掲示しています。必要に応じてはこの時間以外でも相談可能です。事前に上記のメールアドレスへ連絡をとってください。

科目に含める必要事項
 法令等に定められた授業

学生へのメッセージ
 毎回の授業最後にmoodle内でミニツバーパーの提出が求められます。(ICT活用)

ナカリ
 HLS-2-01-910

(別紙4) 新

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名				
	看護学概論				廣 田 真 里				
科目区分			対象学科						
専門分野 基礎看護学			看護学部 看護学科						
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP					
1年次	前期	2	○	DP4, DP5					
授 業 概 要	本講義は、「看護とは何か」「看護師は何をする人か」看護学の土台となる基本的内容を学ぶ事を目的とする。基本的には講義中心であるが、バズセッション等の討議形式で学習を深める。教養科目群の学習を基礎として、看護の歴史の変遷や哲学的背景から、看護学の基本概念となる「人間」「健康」「環境」「看護」について学ぶ。さらに看護実践を支える法的根拠、看護職の職業倫理、保健医療福祉システム等の学びを通して、看護専門職としての役割や責任を理解し倫理的な観点からケアを提供するための基盤を築くことができるようになる。								
	到 達 目 標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		1	看護とは何かについて、自分の言葉で述べることができる。				○		
		2	看護の基本概念であり看護の対象となる「人間」について生活者の視点で述べるることができる。				○		
		3	看護の役割・機能について説明できる。				○		
		4	看護提供の仕組みについて説明できる。					○	
5		看護専門職としての基本的な態度について説明できる。				○			
授 業 計 画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間			担当教員			
	1	「看護とは何か」 看護の定義及び看護の目的 職能団体、看護理論家による看護の定義について	事前：テキスト序章、第1章A.Bを事前に読んで予習する。(2h) 事後：授業内容を踏まえて、「看護」について考えたことをミニレポート(500字程度)にまとめる。(2h)			廣田 真里			
	2	看護の役割と機能 看護の持つ意味と看護師の役割について：事例を通して看護ケアについてグループで考え、看護の役割の拡大について紹介する	事前：テキスト序章、第1章Bを読んで予習し、前回の授業を復習する(2h) 事後：授業中にグループで検討した「看護ケア」について、自分なりの意見をまとめる(2h)			廣田 真里			
	3	看護の対象の理解 (1) ところから 看護の対象としての人間について：生物学的人間の特徴と心の理解に役立つ理論を紹介して理解を促す	事前：生物学的人間理解の「人間の心と体」の既習部分について復習、テキスト第2章を熟読する(2h) 事後：授業内容と生物学的人間理解「人間の心と体」について復習する(2h)			廣田 真里			
	4	看護の対象の理解 (2) 生活者としての人間 人の生活と暮らし：生活の4つの側面、暮らしを支える家族、集団、地域などについての理解を促す	事前：テキスト第2章を熟読する。(2h) 事後：授業で学んだ「生活の4つの側面」を、自己に当てはめて考察する。(2h)			廣田 真里			
	5	看護の対象の理解 (3) 健康と生活 「健康とは」：権利としての健康(WHOの定義、日本国憲法など)を紹介する。プライマリー・ヘルス・ケアについて紹介し、日本における代表的なPHCを紹介して理解を促す	事前：テキスト第3章を熟読する。(2h) 事後：「人々の健康に果たす看護の役割について」をミニレポート(500字程度)にまとめる。(2h)			廣田 真里			
	6	看護看護の提供者 (1) 課題「ナイチンゲールについて調べてみよう！」グループでナイチンゲールの功績についてその時代背景をもとに調べる	事前：ナイチンゲールについて予め調べておく。(2h) 事後：発表資料の作成(2h)			廣田 真里			
	7	看護の提供者 (2) ナイチンゲールの功績について発表会 ナイチンゲールの功績について小グループで調べ、まとめたものを発表する。	事前：webに登録された発表資料を予め読んで、質問を考えておく(2h) 事後：「看護覚え書」のどこか1章を読んで、授業の発表の振り返りを基に感想をレポートする。(2h)			廣田 真里			
	8	看護の提供者 (3) 看護の歴史の変遷 世界の変遷と日本の変遷について紹介し、現在の看護の発展の理解を促す	事前：前回の授業の振り返りと共にテキスト第4章を熟読する。(2h) 事後：日本と世界の看護の変遷について自分なりに表にまとめてみる(2h)			廣田 真里			
	9	看護の提供者 (4) 看護職に関する制度 日本における職業としての看護の始まりから看護教育の発展と高等教育の必要性、看護に関わる諸規則について理解を促す	事前：テキスト第6章を熟読する。(2h) 事後：「私の考える看護の課題」についてミニレポート(500字程度)にまとめる(2h)			廣田 真里			
	10	看護における倫理 倫理にまつわる歴史的経緯と、生命倫理学、看護倫理学における倫理原則等を紹介し、事例を通して看護専門職としての倫理のありようについて理解を促す	事前：テキスト第5章、「看護職の倫理綱領」を熟読する。(2h) 事後：「看護の対象者の尊厳を守るとはどういうことか」についてミニレポート(500字程度)にまとめる(2h)			廣田 真里			

授 業 計 画	11	看護提供の仕組み (1) 看護サービスの評価 看護を取り巻く制度と政策：保険診療、診療報酬や看護の人員配置基準、看護サービスの評価等の理解を促す	事前：保険診療の流れについて調べ、テキスト第6章Cを熟読する(2h) 事後：授業資料(看護政策のながれ、診療報酬と看護人員配置)を参照して授業の復習(2h)					廣田 真里
	12	看護提供の仕組み (2) 地域包括ケアシステム 地域包括ケアシステムについて、小グループで調べて来たものをまとめ、発表する。保健・医療・福祉のチームにおける看護職の役割と機能についての理解を促す。	事前：地域包括ケアシステムについて予め調べてまとめておく(2h) 事後：発表での質疑応答を受けて、資料の修正を行う。(2h)					廣田 真里
	13	看護提供の仕組み (3) 看護サービスの管理 「管理」について学び、組織の意味を踏まえて、看護サービス管理についての理解を促す	事前：テキスト第6章A,B,Dを熟読する。(2h) 事後：授業資料(リーダーシップに必要な能力について)を参照して自己の傾向を考察する。(2h)					廣田 真里
	14	看護提供の仕組み (4) 医療安全と医療の質保証 医療事故、医療過誤の定義、ヒューマンエラー防止対策等を紹介し、基本的な医療安全文化の醸成を促す	事前：テキスト第6章Eを熟読(2h) 事後：授業資料(医療事故事例)を参照して医療事故防止対策についてまとめる(2h)					廣田 真里
	15	看護提供の仕組み (5) 医療安全対策 小グループで「医療安全対策のために自分たちにできること」について討議し、発表する。	事前：前回授業の復習と看護職の医療事故防止対策について調べてまとめておく。(2h) 事後：他グループの発表資料を熟読し、自分なりにできることについて考察する。(2h)					廣田 真里
連 修 条 件 や 関 連 する 科 目 等	関連科目：地域・在宅看護論, 成人看護学概論, 老年看護学概論, 小児看護学概論, 母性看護学概論, 精神看護学概論							
	(教科書)	医学書院e-テキスト「系統看護学講座」基礎看護学[1]看護学概論 医学書院e-テキスト「系統看護学講座」基礎看護学[2]基礎看護技術 I 医学書院e-テキスト「系統看護学講座」健康支援と社会保障制度[4]看護関係法令						
(参考資料)		看護覚え書(現代社) 看護の基本となるもの(日本看護協会出版会)						
	評 価 方 法 と そ の 割 合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢
到達目標 1		5%		10%		5%		
到達目標 2		5%			10%	5%		
到達目標 3		5%		10%		5%		
到達目標 4		5%			5%	5%		
到達目標 5		5%		10%	5%	5%		
(自由記述欄)	筆記試験(25%)、ミニレポート(30%)、発表(20%)、授業態度(25%)で評価する。筆記試験は1回実施し、ミニレポートの内容、発表内容は発表後の提出物で評価する。授業態度は遅刻や居眠り、質問への回答、発表態度、発表を聞く態度を含む。							
	基 準 等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。						
学 習 相 談 や 質 問 受 け 付 け の 場 所		授業中には、学生の反応を見ながら、理解の程度を確認し、理解が難しいようであれば、説明を他の表現で繰り返すなどの工夫をする。さらに学生からの質問をいつでも受け付ける旨をアナウンスする。ミニレポートの提出後にはミニレポートの課題について5~10分程度解説を加えて、レポートについての所感を述べて学生へフィードバックし、次への動機づけとする。 【研究室所在】【メールアドレス】moodleにメールアドレスを掲示しています。またmoodleのメッセージ機能からも連絡可能です。 【オフィスアワー】moodleにオフィスアワーの時間を掲示しています。必要に応じてはこの時間以外でも相談可能です。事前に上記のメールアドレスへ連絡をとってください。						
	科 目 に 含 め る 必 要 事 項							
学 生 の メ ッ セ ー ジ		看護の対象となる多様な人々とのかわりや看護現場での具体例を示すことで興味を引き、イメージしにくい抽象的学習内容や臨床現場を理解しやすいように工夫します。理解しにくいことは気軽に質問して、看護に興味を持ってくださいね。						
	ナカワ	FDN-2-01-910						

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名
	看護学概論				廣 田 真 里
科目区分			対象学科		
専門分野 基礎看護学			看護学部 看護学科		
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP	
1年次	前期	2	○	DP4, DP5	

授業概要
 本講義は、「看護とは何か」「看護師は何をする人か」看護学の土台となる基本的内容を学ぶ科目である。基本的には講義中心であるが、バズセッション等の討議形式で学習を深める。看護に関する歴史の変遷を学びながら、看護学の本質を理解すると同時に、看護学への関心を高め、看護職の役割・機能及び責任等について理解する。看護学の基本概念となる「人間」「健康」「環境」「看護」について、その解釈の歴史の変遷や哲学的背景から学び、看護実践を支える法的根拠、看護職の職業倫理、保健医療福祉システム等の学びを通して、看護専門職としての役割や責任を理解し倫理的な観点からケアを提供するための基盤を築くことができるようになる。

到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	1	看護とは何かについて、自分の言葉で述べることができる。				○		
	2	看護の基本概念であり看護の対象となる「人間」について生活者の視点で述べるることができる。				○		
	3	看護の役割・機能について説明できる。				○		
	4	看護提供の仕組みについて説明できる。					○	
	5	看護専門職としての基本的な態度について説明できる。						○

授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間	担当教員
	1	「看護とは何か」 看護の定義及び看護の目的 職能団体、看護理論家による看護の定義について	事前：テキスト序章、第1章A.Bを事前に読んで予習する。(2h) 事後：授業内容を踏まえて、「看護」について考えたことをミニレポート(500字程度)にまとめる。(2h)	廣 田 真 里
	2	看護の役割と機能 看護の持つ意味と看護師の役割について：事例を通して看護ケアについてグループで考え、看護の役割の拡大について紹介する	事前：テキスト序章、第1章Bを読んで予習し、前回の授業を復習する(2h) 事後：授業中にグループで検討した「看護ケア」について、自分なりの意見をまとめる(2h)	廣 田 真 里
	3	看護の対象の理解 (1) ことからだ 看護の対象としての人間について：生物学的人間の特徴と心の理解に役立つ理論を紹介して理解を促す	事前：生物学的人間理解の「人間の心と体」の既習部分について復習、テキスト第2章を熟読する(2h) 事後：授業内容と生物学的人間理解「人間の心と体」について復習する(2h)	廣 田 真 里
	4	看護の対象の理解 (2) 生活者としての人間 人の生活と暮らし：生活の4つの側面、暮らしを支える家族、集団、地域などについての理解を促す	事前：テキスト第2章を熟読する。(2h) 事後：授業で学んだ「生活の4つの側面」を、自己に当てはめて考察する。(2h)	廣 田 真 里
	5	看護の対象の理解 (3) 健康と生活 「健康とは」：権利としての健康(WHOの定義、日本国憲法など)を紹介する。プライマリー・ヘルス・ケアについて紹介し、日本における代表的なPHCを紹介して理解を促す	事前：テキスト第3章を熟読する。(2h) 事後：「人々の健康に果たす看護の役割について」をミニレポート(500字程度)にまとめる。(2h)	廣 田 真 里
	6	看護看護の提供者 (1) 課題「ナイチンゲールについて調べてみよう！」グループでナイチンゲールの功績についてその時代背景をもとに調べる	事前：ナイチンゲールについて予め調べておく。(2h) 事後：発表資料の作成(2h)	廣 田 真 里
	7	看護の提供者 (2) ナイチンゲールの功績について発表会 ナイチンゲールの功績について小グループで調べ、まとめたものを発表する。	事前：webに登録された発表資料を予め読んで、質問を考えておく(2h) 事後：「看護覚え書」のどこか1章を読んで、授業の発表の振り返りを基に感想をレポートする。(2h)	廣 田 真 里
	8	看護の提供者 (3) 看護の歴史の変遷 世界の変遷と日本の変遷について紹介し、現在の看護の発展の理解を促す	事前：前回の授業の振り返りと共にテキスト第4章を熟読する。(2h) 事後：日本と世界の看護の変遷について自分なりに表にまとめてみる(2h)	廣 田 真 里
	9	看護の提供者 (4) 看護職に関する制度 日本における職業としての看護の始まりから看護教育の発展と高等教育の必要性、看護に関わる諸規則について理解を促す	事前：テキスト第6章を熟読する。(2h) 事後：「私の考える看護の課題」についてミニレポート(500字程度)にまとめる(2h)	廣 田 真 里
10	看護における倫理 倫理にまつわる歴史的経緯と、生命倫理学、看護倫理学における倫理原則等を紹介し、事例を通して看護専門職としての倫理のありようについて理解を促す	事前：テキスト第5章、「看護職の倫理綱領」を熟読する。(2h) 事後：「看護の対象者の尊厳を守るとはどういうことか」についてミニレポート(500字程度)にまとめる(2h)	廣 田 真 里	

授業計画	11	看護提供の仕組み (1) 看護サービスの評価 看護を取り巻く制度と政策：保険診療、診療報酬や看護の人員配置基準、看護サービスの評価等の理解を促す	事前：保険診療の流れについて調べ、テキスト第6章Cを熟読する(2h) 事後：授業資料(看護政策のながれ、診療報酬と看護人員配置)を参照して授業の復習(2h)	廣 田 真 里
	12	看護提供の仕組み (2) 地域包括ケアシステム 地域包括ケアシステムについて、小グループで調べて来たものをまとめ、発表する。保健・医療・福祉のチームにおける看護職の役割と機能についての理解を促す。	事前：地域包括ケアシステムについて予め調べてまとめておく(2h) 事後：発表での質疑応答を受けて、資料の修正を行う。(2h)	廣 田 真 里
	13	看護提供の仕組み (3) 看護サービスの管理 「管理」について学び、組織の意味を踏まえて、看護サービス管理についての理解を促す	事前：テキスト第6章A,B,Dを熟読する。(2h) 事後：授業資料(リーダーシップに必要な能力について)を参照して自己の傾向を考察する。(2h)	廣 田 真 里
	14	看護提供の仕組み (4) 医療安全と医療の質保証 医療事故、医療過誤の定義、ヒューマンエラー防止対策等を紹介し、基本的な医療安全文化の醸成を促す	事前：テキスト第6章Eを熟読(2h) 事後：授業資料(医療事故事例)を参照して医療事故防止対策についてまとめる(2h)	廣 田 真 里
	15	看護提供の仕組み (5) 医療安全対策 小グループで「医療安全対策のために自分たちにできること」について討議し、発表する。	事前：前回授業の復習と看護職の医療事故防止対策について調べてまとめておく。(2h) 事後：他グループの発表資料を熟読し、自分なりにできることについて考察する。(2h)	廣 田 真 里

履修条件や関連する科目等
 関連科目：地域・在宅看護論, 成人看護学概論, 老年看護学概論, 小児看護学概論, 母性看護学概論, 精神看護学概論

(教科書)
 医学書院e-テキスト「系統看護学講座」基礎看護学[1]看護学概論
 医学書院e-テキスト「系統看護学講座」基礎看護学[2]基礎看護技術 I
 医学書院e-テキスト「系統看護学講座」健康支援と社会保障制度[4]看護関係法令

(参考資料)
 看護覚え書(現代社)
 看護の基本となるもの(日本看護協会出版会)

評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標 1	5%		10%		5%	
	到達目標 2	5%			10%	5%	
	到達目標 3	5%			10%	5%	
	到達目標 4	5%				5%	5%
	到達目標 5	5%			10%	5%	5%

(自由記述欄)
 筆記試験(25%)、ミニレポート(30%)、発表(20%)、授業態度(25%)で評価する。筆記試験は1回実施し、ミニレポートの内容、発表内容は発表後の提出物で評価する。授業態度は遅刻や居眠り、質問への回答、発表態度、発表を聞く態度を含む。

基準等
 ・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。

学習相談及び学習成果のフィードバック
 授業中には、学生の反応を見ながら、理解の程度を確認し、理解が難しいようであれば、説明を他の表現で繰り返すなどの工夫をする。さらに学生からの質問をいつでも受け付ける旨をアナウンスする。ミニレポートの提出後にはミニレポートの課題について5~10分程度解説を加えて、レポートについての所感を述べて学生へフィードバックし、次への動機づけとする。
【研究室所在】【メールアドレス】 moodleにメールアドレスを掲示しています。またmoodleのメッセージ機能からも連絡可能です。
【オフィスアワー】 moodleにオフィスアワーの時間を掲示しています。必要に応じてはこの時間以外でも相談可能です。事前に上記のメールアドレスへ連絡をとってください。

科目に含まれる必要事項
 法令等定められた授業

学生のメッセージ
 看護の対象となる多様な人々とのかわりや看護現場での具体例を示すことで興味を引き、イメージしにくい抽象的学習内容や臨床現場を理解しやすいように工夫します。理解しにくいことは気軽に質問して、看護に興味を持ってください。

ナカワ FDN-2-01-910

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名			
	家族看護論				鈴木 智子 河野 修			
科目区分			対象学科					
専門分野 基礎看護学			看護学部 看護学科					
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP				
2年次	後期	1	○	DP4				
授業概要	<p>(概要) 本講義は、対象の健康維持及び回復過程における家族の役割と影響の重要性を理解することを目的とする。家族システム理論やモデル、家族の発達段階、コミュニケーションの重要性、家族のストレスと対処法、家族介入の方法を学び、家族との連携や家族への支援のあり方を学ぶ。さらに特定の疾患や状況において家族のサポートがどのように患者の結果に影響を与えるかをグループで検討する。学生は、家族のニーズを考慮した看護援助を探求する姿勢を身につけることができる。</p> <p>(オムニバス/全8回) (鈴木智子/6回) 急性的な疾患や障害のある患者の家族支援・終末期を取り巻く家族支援、慢性疾患児や発達障害児における保護者支援について事例を用いて学修し、看護学理論を用いた介入方法について学修する。 (河野修/2回) 精神障害の子供、配偶者を持つ家族への支援、精神障害を抱える患者とその家族への支援について事例を基に具体的に学修する。</p>							
	到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
	1	1. 家族看護の概念を理解し、「家族看護とは」について自分の言葉で説明できる。				○		
	2	2. 家族と看護職とのパートナーシップ構築について具体例を挙げ説明できる。				○		
	3	3. 健康の様々なレベルにある家族への支援について探求することができる。				○		
	4							
	5							
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間			担当教員		
	1	オリエンテーション (成績評価の方法、本科目の位置づけ、目標や心構え、本授業の学習方法と事前・事後学修の説明) および、シラバス配布、文献紹介を行う。ルーブリック検証アンケートを実施のための事前説明と実施について説明する。 家族とは何か、家族の発達とは何か、家族の構造・機能とは何かを学修する。	事前学修：身の回りの家族の状況や現代社会の中で生じている家族の問題について考えてくる。シラバスを確認する (0.5h) 事後学修：改めて家族の構造や機能について考えることの重要性について第1章を復習する (2.5h)			鈴木 智子		
	2	家族看護の対象理解 急性的な疾患のある家族への支援 事例をもとに家族への支援について具体的に考える。	事前学修：配布資料を読んでおく (1h) 事後学修：家族看護の対象への支援について第2章をまとめ自分の言葉で整理する (2.5)			鈴木 智子		
	3	家族看護の展開方法 慢性的な疾患や障がい (難病など) のある患者の家族への支援 事例をもとに家族への支援について具体的に考える。	事前学修：配布資料を読んでおく (1h) 事後学修：慢性的な疾患や障がい (難病など) のある患者の家族への支援について自分の言葉で整理する (2.5h)			鈴木 智子		
	4	終末期を取り巻く家族の健康を支援する関わり 医療的ケアの必要な子どもがいる家族員への支援について考える。	事前学修：配布資料を読んでおく (1h) 事後学修：医療的ケアの必要な子どもがいる家族員への支援について自分の言葉で整理する (3h)			鈴木 智子		
	5	慢性疾患児や発達障害児における保護者支援およびまとめ 児の学校および家庭生活における家族支援について考える。	事前学修：配布資料を読んでおく (1h) 事後学修：慢性疾患児や発達障害児における保護者支援について自分の言葉で整理する (2.5h)			鈴木 智子		
	6	精神障害の子ども・配偶者をもつ家族への支援 事例をもとに家族への支援について具体的に考える。	事前学修：配布資料を読んでおく (1h) 事後学修：精神障害の子ども・配偶者をもつ家族への支援について自分の言葉で整理する (2.5h)			河野 修		
	7	精神障害をかかえる患者とその家族への支援 事例をもとに家族への支援について具体的に考える。	事前学修：配布資料を読んでおく (1h) 事後学修：精神障害をかかえる患者とその家族への支援について自分の言葉で整理する (3h)			河野 修		
	8	患者と家族における看護のあり方について、看護学理論と介入方法 病を持つ患者と家族における看護・看護師のあり方について考える。	事前学修：配布資料を読んでおく (1h) 事後学修：病を持つ患者と家族における看護・看護師のあり方について自分の言葉でレポートにして整理する (3h)			鈴木 智子		

履修条件や関連する科目等	関連科目：在宅看護学概論、小児看護学概論、精神看護学概論							
(教科書)	医学書院 e-テキスト「系統看護学講座」別巻 家族看護学							
(参考資料)	随時提示する							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標 1				30%			
	到達目標 2				30%			
	到達目標 3				30%		10%	
	到達目標 4							
	到達目標 5							
(自由記述欄)	レポートおよび日々の学習内容をもとに総合的に評価します。レポート課題は「家族看護論」の学習課題達成に向けて各自テーマを設定し、健康の様々なレベルにある家族への支援について、自分の言葉で表現してください。ルーブリック形式で評価します。							
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。							
学習相談及び学習成果のフィードバック	【研究室所在】【メールアドレス】 moodleにメールアドレスを掲示しています。またmoodleのメッセージ機能からも連絡可能です。【オフィスアワー】 moodleにオフィスアワーの時間を掲示しています。必要に応じてはこの時間以外でも相談可能です。事前に上記のメールアドレスへ連絡をとってください。							
科目に含まれる必要事項	法令等に定められた授業							
学生へのメッセージ	これまでの学修では、看護は「患者」中心で考えてきて、家族は「患者」のケアのために協力してもらう存在として捉えることが多かったと思います。この科目を学ぶことによって、学生の皆さんも家族の一員としての役割や機能があることに気づき、「家族」も重要な看護の対象者であることを理解することによって、思考の幅を広げましょう。 事前学習：各自、自分の家族の状況 (仮想でも可) について振り返って考えておきましょう。 事後学習：3年次・4年次の臨地実習においても、家族支援の視点で看護過程を展開する機会を持ち、家族看護とは何かについて具体的に考えてください。							
ナミング	FAN-2-01-910							

科目コード	科 目 名					担 当 教 員 名										
	家族看護論					鈴木 智子 河野 修										
科目区分					対象学科											
専門分野 基礎看護学					看護学部 看護学科											
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP												
2年次	後期	1	○	DP4												
授業概要	<p>(概要) 本講義は、対象の健康維持及び回復過程における家族の役割と影響の重要性を理解する。家族システム理論やモデル、家族の発達段階、コミュニケーションの重要性、家族のストレスと対処法、家族介入の方法を学び、家族との連携や家族への支援のあり方を学ぶ。さらに特定の疾患や状況において家族のサポートがどのように患者の結果に影響を与えるかをグループで検討し、家族のニーズを考慮した看護援助を探究する姿勢を身につけることができる。</p> <p>(オムニバス/全8回) (鈴木智子/6回) 急性的な疾患や障害のある患者の家族支援・終末期を取り巻く家族支援、慢性疾患児や発達障害児における保護者支援について事例を用いて学修し、看護学理論を用いた介入方法について学修する。 (河野修/2回) 精神障害の子供、配偶者を持つ家族への支援、精神障害を抱える患者とその家族への支援について事例を基に具体的に学修する。</p>															
	到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6							
1		1. 家族看護の概念を理解し、「家族看護とは」について自分の言葉で説明できる。				○										
2		2. 家族と看護職とのパートナーシップ構築について具体例を挙げ説明できる。			○	○										
3		3. 健康の様々なレベルにある家族への支援をイメージし、「家族看護」の在り方について自己の学習課題に基づいて記述できる。		○		○										
4																
5																
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間				担当教員									
	1	オリエンテーション (成績評価の方法、本科目の位置づけ、目標や心構え、本授業の学習方法と事前・事後学修の説明) および、シラバス配布、文献紹介を行う。ループリック検証アンケートを実施のための事前説明と実施について説明する。 家族とは何か、家族の発達とは何か、家族の構造・機能とは何かを学修する。	事前学修：身の回りの家族の状況や現代社会の中で生じている家族の問題について考えてくる。シラバスを確認する (0.5h) 事後学修：改めて家族の構造や機能について考えることの重要性について第1章を復習する (2.5h)				鈴木 智子									
	2	家族看護の対象理解 急性的な疾患のある家族への支援 事例をもとに家族への支援について具体的に考える。	事前学修：配布資料を読んでおく (1h) 事後学修：家族看護の対象への支援について第2章をまとめ自分の言葉で整理する (2.5)				鈴木 智子									
	3	家族看護の展開方法 慢性的な疾患や障がい (難病など) のある患者の家族への支援 事例をもとに家族への支援について具体的に考える。	事前学修：配布資料を読んでおく (1h) 事後学修：慢性的な疾患や障がい (難病など) のある患者の家族への支援について自分の言葉で整理する (2.5h)				鈴木 智子									
	4	終末期を取り巻く家族の健康を支援する関わり 医療的ケアの必要な子どものいる家族員への支援について考える。	事前学修：配布資料を読んでおく (1h) 事後学修：医療的ケアの必要な子どものいる家族員への支援について自分の言葉で整理する (3h)				鈴木 智子									
	5	慢性疾患児や発達障害児における保護者支援およびまとめ 児の学校および家庭生活における家族支援について考える。	事前学修：配布資料を読んでおく (1h) 事後学修：慢性疾患児や発達障害児における保護者支援について自分の言葉で整理する (2.5h)				鈴木 智子									
	6	精神障害の子ども・配偶者をもつ家族への支援 事例をもとに家族への支援について具体的に考える。	事前学修：配布資料を読んでおく (1h) 事後学修：精神障害の子ども・配偶者をもつ家族への支援について自分の言葉で整理する (2.5h)				河野 修									
	7	精神障害をかかえる患者とその家族への支援 事例をもとに家族への支援について具体的に考える。	事前学修：配布資料を読んでおく (1h) 事後学修：精神障害をかかえる患者とその家族への支援について自分の言葉で整理する (3h)				河野 修									
	8	患者と家族における看護のあり方について、看護学理論と介入方法 病を持つ患者と家族における看護・看護師のあり方について考える。	事前学修：配布資料を読んでおく (1h) 事後学修：病を持つ患者と家族における看護・看護師のあり方について自分の言葉でレポートにして整理する (3h)				鈴木 智子									

履修条件や関連する科目等	関連科目：在宅看護学概論、小児看護学概論、精神看護学概論							
(教科書)	医学書院 e-テキスト「系統看護学講座」別巻 家族看護学							
(参考資料)	随時提示する							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標 1				30%			
	到達目標 2				30%			
	到達目標 3				30%		10%	
	到達目標 4							
	到達目標 5							
(自由記述欄)	レポートおよび日々の学習内容をもとに総合的に評価します。レポート課題は「家族看護論」の学習課題達成に向けて各自テーマを設定し、健康の様々なレベルにある家族への支援について、自分の言葉で表現してください。ループリック形式で評価します。毎回の授業で学んだことの提出カード35% (5%×7)、レポート課題65%で総合評価します。							
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。							
学習相談及び学習成果のフィードバック	【研究室所在】【メールアドレス】 moodleにメールアドレスを掲示しています。またmoodleのメッセージ機能からも連絡可能です。【オフィスアワー】 moodleにオフィスアワーの時間を掲示しています。必要に応じてはこの時間以外でも相談可能です。事前に上記のメールアドレスへ連絡をとってください。							
科目に含まれる必要事項	法令等に定められた授業							
学生へのメッセージ	これまでの学修では、看護は「患者」中心で考えてきて、家族は「患者」のケアのために協力してもらう存在として捉えることが多かったと思います。この科目を学ぶことによって、学生の皆さんも家族の一員としての役割や機能があることに気づき、「家族」も重要な看護の対象者であることを理解することによって、思考の幅を広げましょう。 事前学習：各自、自分の家族の状況 (仮想でも可) について振り返って考えておきましょう。 事後学習：3年次・4年次の臨地実習においても、家族支援の視点で看護過程を展開する機会を持ち、家族看護とは何かについて具体的に考えてください。							
ナミング	FAN-2-01-910							

科目コード	科 目 名					担 当 教 員 名		
	成人看護学実習 I					葛 玉栄 青木奈緒子		
科目区分			対象学科					
専門分野 成人看護学			看護学部 看護学科					
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP				
3年次	後期	2	○	DP4, DP5, DP6				
授業概要	本実習では、成人看護学に関する既習知識を活用し、生命の危機状態にあり、恒常性を維持するため緊急的な医療的介入を必要とする対象の健康状態の急激な変化に伴う看護を学ぶ。生命の危機状態にある対象の身体管理の実際、術後合併症予防や、合併症出現のリスクを予測した看護、疼痛管理、創傷管理について学ぶ。学生は生命の危機状態にある成人の健康状態の急激な変化からの回復と健康の促進に向けた看護のあり方を探求することができる。 (葛玉栄・青木奈緒子) (共同)							
到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	1	生命の危機状態にある対象の特徴について身体的・精神的・社会的側面を統合して述べるができる				○		
	2	健康状態の急激な変化により生命の危機状況にある対象のニードを捉えた看護について述べるができる。				○		
	3	手術療法及び重症集中治療を受ける対象の変化を予測した回復促進のための援助、機能変化を考慮した生活指導、心理的援助を看護師と共に計画、実施できる。				○		
	4	周術期の対象の社会復帰に向けての社会資源の活用、多職種連携について述べるができる。					○	
	5	保健医療福祉チームの一員としての自覚を持ち、看護師として責任ある行動がとれる。						○
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間			担当教員		
	1	実習時期：令和9年9月27日～令和10年2月18日 対象：3年次生80名 実習場所：別府医療センター南3、南4、南5病棟 大分医療センター2、3病棟 実習計画に沿って実施 (初日) ①実習施設、実習病棟のオリエンテーション ②受け持ち患者の選定(実習指導看護師と実習担当教員と相談) ③受け持ち患者の情報収集 *毎日のカンファレンステーマは、実習目的・目標に沿って、担当教員の助言をもらいながら、あらかじめ学生が主体的に計画し、進行は学生により実施する。	事前： (実習前)生物学的人間理解、疾病と回復過程の理解の復習、成人看護学の復習、実習病棟で多い疾患についての予習(10h) グループでカンファレンステーマの検討(2h) 自分なりの実習目的の検討			葛 玉栄 青木奈緒子		
	2	1週目 (2日目以降) ①受け持ち患者の情報収集、行動計画に則った患者ケアの実施、検査、処置の見学 ②手術室、ICUに各1日見学(受け持ち患者の手術見学とICUでのケアを見学・実施) ③受け持ち患者のケア計画立案、実施 ④5日目を学内として、情報を整理し、担当教員から指導を受け、翌週からの実習計画を立案する。 *初めてのケアを行う場合は、担当教員や実習指導者の指導の下に実施する。	(実習中) 「生物学的人間理解」、「疾病と回復過程の理解」を根拠にした情報の整理、ケア計画の立案、日々の実習記録の作成、翌日の自己の実習目的の明確化、カンファレンステーマについての予習、受け持ち患者が受ける翌日の検査・処置の予習、実習記録の作成(3h/日)			葛 玉栄 青木奈緒子		
	3	2週目 ①計画した援助計画を実施、受け持ち患者の反応を見ながら、計画を修正し実施する。 ②回復促進の援助を行いながら、社会復帰に向けての多職種との連携を体験する。 ③臨地実習の最終日には、今実習での学びと課題を明確にして実習指導看護師、担当教員双方の参加のもとで、最終カンファレンスを行い、学びを共有する。実習指導看護師及び担当教員は学生が実習の学びを整理できるように助言を行う。				葛 玉栄 青木奈緒子		
	4	2週目 (最終日) 学内で、実習のまとめを個人で行い、担当教員による個人面談を実施し助言を受けながら実習記録を完成させる。	事後： 最終カンファレンスでの助言をもとに、自己の学びの修正、実習記録の整理、ポートフォリオ作成(5h)			葛 玉栄 青木奈緒子		
履修条件や関連科目等	履修条件：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ 関連科目：成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、地域・在宅看護学実習Ⅰ・Ⅱ							
教科書	医学書院 e-テキスト「系統看護学講座」：成人看護学[1]成人看護学総論,成人看護学[2]~[15],人体の構造と機能[1]解剖生理学[2]生化学[3]栄養学,疾病の成り立ちと回復の促進[1]病理学[2]病態生理学[3]薬理学,健康支援と社会保障制度[3]社会保障・社会福祉,「別巻」臨床外科看護総論,臨床外科看護総論,臨床外科看護各論,家族看護学,栄養食事療法,臨床薬理学,看護倫理							

(参考書)							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標 1			10%			
	到達目標 2			20%		10%	
	到達目標 3			20%		10%	
	到達目標 4			10%		5%	
	到達目標 5			10%		5%	
(自由記述欄)	実習記録の提出は期限厳守です。						
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。						
学習相談及び学習成果のフィードバック	実習期間中は、実習終了後にその日の疑問や相談に乗る時間を明示する。また、カンファレンスの時間には必ず、助言を行う。学内日も実習の相談ができる時間を明示し、その時間内であれば、アポイントなしでも相談を受け付けます。実習記録はその日うちに、学生へフィードバックし、翌日の計画立案に支障がないように助言します。実習最終日は、個人面談を行い、当該実習の学びが整理できるように助言します。						
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項							
学生へのメッセージ	当該実習は特に、生命の危機状態にあり、看護の対象は患者本人及びその家族も含まれます。また、重症者が多く、環境的に手術室やICUなど通常とは異なること、また対象の状態の変化も目まぐるしいことが予測され、スピード感をもって実習に臨む必要があります。周囲の状況に流されることなく、落ち着いて、何が起きているのかを把握して日々を確実に体験して、その日のうちに学びの整理をすることをおすすめします。						
ナカ明	ADN-3-02-910						

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名			
	成人看護学実習Ⅰ				葛 玉栄 青木奈緒子			
科目区分			対象学科					
専門分野 成人看護学			看護学部 看護学科					
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP				
3年次	後期	2	○	DP4, DP5, DP6				
授業概要	本実習では、成人看護学に関する既習知識を活用し、生命の危機状態にあり、恒常性を維持するため緊急的な医療的介入を必要とする対象の健康状態の急激な変化に伴う看護を学ぶ。生命の危機状態にある対象の身体管理の実際、術後合併症予防や、合併症出現のリスクを予測した看護、疼痛管理、創傷管理について学ぶ。学生は生命の危機状態にある成人の健康状態の急激な変化からの回復と健康の促進に向けた看護のあり方を探求することができる。 (葛玉栄・青木奈緒子) (共同)							
到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	1	生命の危機状態にある対象の特徴について身体的・精神的・社会的側面を統合して述べるができる				○		
	2	健康状態の急激な変化により生命の危機状況にある対象のニードを捉えた看護について述べるができる。				○		
	3	手術療法及び重症集中治療を受ける対象の変化を予測した回復促進のための援助、機能変化を考慮した生活指導、心理的援助を看護師と共に計画、実施できる。				○		
	4	周術期の対象の社会復帰に向けての社会資源の活用、多職種連携について述べるができる。					○	
	5	保健医療福祉チームの一員としての自覚を持ち、看護師として責任ある行動がとれる。					○	○
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間			担当教員		
	1	実習時期：令和9年9月27日～令和10年2月18日 対象：3年次生80名 実習場所：別府医療センター南3、南4、南5病棟 大分医療センター2、3病棟 実習計画に沿って実施 (初日) ①実習施設、実習病棟のオリエンテーション ②受け持ち患者の選定(実習指導看護師と実習担当教員と相談) ③受け持ち患者の情報収集 *毎日のカンファレンステーマは、実習目的・目標に沿って、担当教員の助言をもらいながら、あらかじめ学生が主体的に計画し、進行は学生により実施する。	事前： (実習前)生物学的人間理解、疾病と回復過程の理解の復習、成人看護学の復習、実習病棟で多い疾患についての予習(10h) グループでカンファレンステーマの検討(2h) 自分なりの実習目的の検討			葛 玉栄 青木奈緒子		
	2	1週目 (2日目以降) ①受け持ち患者の情報収集、行動計画に則った患者ケアの実施、検査、処置の見学 ②手術室、ICUに各1日見学(受け持ち患者の手術見学とICUでのケアを見学・実施) ③受け持ち患者のケア計画立案、実施 ④5日目を学内として、情報を整理し、担当教員から指導を受け、翌週からの実習計画を立案する。 *初めてのケアを行う場合は、担当教員や実習指導者の指導の下に実施する。	(実習中) 「生物学的人間理解」、「疾病と回復過程の理解」を根拠にした情報の整理、ケア計画の立案、日々の実習記録の作成、翌日の自己の実習目的の明確化、カンファレンステーマについての予習、受け持ち患者が受ける翌日の検査・処置の予習、実習記録の作成(3h/日)			葛 玉栄 青木奈緒子		
	3	2週目 ①計画した援助計画を実施、受け持ち患者の反応を見ながら、計画を修正し実施する。 ②回復促進の援助を行いながら、社会復帰に向けての多職種との連携を体験する。 ③臨地実習の最終日には、今実習での学びと課題を明確にして実習指導看護師、担当教員双方の参加のもとで、最終カンファレンスを行い、学びを共有する。実習指導看護師及び担当教員は学生が実習の学びを整理できるように助言を行う。				葛 玉栄 青木奈緒子		
	4	2週目 (最終日) 学内で、実習のまとめを個人で行い、担当教員による個人面談を実施し助言を受けながら実習記録を完成させる。	事後： 最終カンファレンスでの助言をもとに、自己の学びの修正、実習記録の整理、ポートフォリオ作成(5h)			葛 玉栄 青木奈緒子		
履修条件や関連科目等	履修条件：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ 関連科目：成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、地域・在宅看護学実習Ⅰ・Ⅱ							
教科書	医学書院 e-テキスト「系統看護学講座」：成人看護学[1]成人看護学総論,成人看護学[2]~[15],人体の構造と機能[1]解剖生理学[2]生化学[3]栄養学,疾病の成り立ちと回復の促進[1]病理学[2]病態生理学[3]薬理学,健康支援と社会保障制度[3]社会保障・社会福祉,「別巻」臨床外科看護総論,臨床外科看護総論,臨床外科看護各論,家族看護学,栄養食事療法,臨床薬理学,看護倫理							

(参考書)							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標1			10%			
	到達目標2			20%		10%	
	到達目標3			20%		10%	
	到達目標4			10%		5%	
	到達目標5			10%		5%	
(自由記述欄)	実習記録の提出は期限厳守です。						
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。						
学習相談及び学習成果のフィードバック	実習期間中は、実習終了後にその日の疑問や相談に乗る時間を明示する。また、カンファレンスの時間には必ず、助言を行う。学内日も実習の相談ができる時間を明示し、その時間内であれば、アポイントなしでも相談を受け付けます。実習記録はその日うちに、学生へフィードバックし、翌日の計画立案に支障がないように助言します。実習最終日は、個人面談を行い、当該実習の学びが整理できるように助言します。						
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項							
学生へのメッセージ	当該実習は特に、生命の危機状態にあり、看護の対象は患者本人及びその家族も含まれます。また、重症者が多く、環境的に手術室やICUなど通常とは異なること、また対象の状態の変化も目まぐるしいことが予測され、スピード感をもって実習に臨む必要があります。周囲の状況に流されることなく、落ち着いて、何が起きているのかを把握して日々を確実に体験して、その日のうちに学びの整理をすることをおすすめします。						
ナカ明	ADN-3-02-910						

(別紙7) 新

科目コード	科 目 名					担 当 教 員 名			
	小児看護援助論					高野 政子 原田千恵子			
科目区分			対象学科						
専門分野 小児看護学			看護学部 看護学科						
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP					
2年次	前期	2	○	DP4					
授業概要	本演習では、健康障害が小児や家族に及ぼす影響、小児とその家族への効果的な援助を学ぶ。成長段階や発達段階の理解を通じて、身体的・心理的・社会的側面からの日常生活の援助方法を探求する。学生は、小児期にみられる主要な症状に対する看護、治療、検査、処置を含む健康課題に対する援助を理解し、子どもの権利と家族の主体性を尊重したアプローチを考察することができる。 (高野政子・原田千恵子) (共同)								
	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	
到達目標	1	病気や入院が子どもと家族に与える影響について説明できる				○			
	2	主要な症状に対する看護、治療、検査、処置を含む健康課題に対して子どもの権利と家族の主体性を尊重したアプローチを説明できる				○			
	3	子どもの発達段階、健康レベルを考慮した日常生活援助を実践できる				○			
	4								
	5								
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間			担当教員			
	1	1. 健康障がいや入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護 1) 症状、治療、検査、制限がもたらす成長発達に及ぼす影響 ①感染症 ②事故防止 ③治療・検査に伴う不安 2) 発達段階に応じたプレパレーションの必要性 ①感染症 ②事故防止 ③治療・検査に伴う不安	(事後学習) 健康障害や入院が子どもと家族に与える影響、プレパレーションの必要性について整理する(4h)			高野 政子 原田千恵子			
	2	1. 発達段階に応じたプレパレーションの実際 1) 幼児期(初期、後期)、学童期 ①治療、検査、処置に伴う不安の受け止め ②事例の場面設定によるアプローチの検討・実施	(事後学習) 発達段階に応じたプレパレーションの振り返りと考察(4h)			高野 政子 原田千恵子			
	3	1. 急性症状のある子どもと家族への看護の実際 1) 発熱 2) 脱水 3) 下痢・嘔吐 4) 呼吸困難 5) けいれん 6) 生命兆候が危険な状況	(事前学習) 子どもの急性症状について学習する(発熱・脱水・下痢嘔吐・呼吸困難 けいれん 生命兆候が危険な状態)(2h) (事後学習) 子ども特有の急性症状の現れ方、子どもの表現についてレポートする(2h)			高野 政子 原田千恵子			
	4	1. 慢性期にある子どもと家族への看護の実際 1) 喘息、糖尿病の子どもと家族への看護 ①入院中の学習支援 ②復学支援 ③基本的生活習慣 ④セルフケア獲得支援	(事前学習) 子どもの喘息、糖尿病の看護について学習する(4h)			高野 政子 原田千恵子			
	5	1. 慢性期にある子どもと家族への看護の振り返り 1) 喘息、糖尿病の子どもと家族への看護の実際 ①入院中の学習支援 ②復学支援 ③基本的生活習慣 ④セルフケア獲得支援	(事後学習) 学習内容を振り返り、慢性期の子どもと家族への看護について整理する(4h)			高野 政子 原田千恵子			
	6	1. 救急救命処置が必要な子どもと家族へ看護の実際 1) 事故・外傷 2) 虐待 3) 誤嚥物質と処置 4) 熱傷 5) 溺水	(事後学習) 学習内容を振り返り、救急救命処置が必要な子どもと家族への看護について整理する(4h)			高野 政子 原田千恵子			
	7	1. 周手術期にある子どもと家族への看護の実際 1) 計画手術 2) 緊急手術 3) 日帰り手術 4) 手術後の身体状態のアセスメント 5) 退院支援	(事前学習) 1回目、2回目で学習したプレパレーションの内容を復習する(4h)			高野 政子 原田千恵子			
	8	1. 周手術期にある子どもと家族への看護の振り返り 1) 計画手術 2) 緊急手術 3) 日帰り手術 4) 手術後の身体状態のアセスメント 5) 退院支援	(事後学習) 学習内容を振り返り、周手術期にある子どもと家族への看護について整理する(4h)			高野 政子 原田千恵子			
	9	1. 終末期にある子どもと家族への看護 1) 子どもの死の概念 2) 死に対する子どもの反応と援助 3) 子どもへの病気の説明 4) 終末期にある子どもの心身の状態と緩和ケア 5) 子どもの死を看取る家族の反応と援助	(事後学習) 学習内容を振り返り、終末期にある子どもと家族への看護について整理する(4h)			高野 政子 原田千恵子			
10	1. 発達障がいを持つ子どもと家族への看護の実際 1) 発達障害(アスペルガー ADHD) 2) 障害の受容支援 3) 社会資源の活用と援助	(事後学習) 学習内容を振り返り、発達障害をもつ子どもと家族への看護について整理する(4h)			高野 政子 原田千恵子				

授業計画	11	1. 医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護の実際 1) 入院から在宅への移行に向けた支援 2) 多職種との連携と社会資源の活用 3) 在宅療養中の子どもと家族の支援 4) 子どものセルフケア行動の促進	(事後学習) 学習内容を振り返り、医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護について整理する(4h)	高野 政子 原田千恵子				
	12	1. 災害時の子どもと家族への看護の実際 1) 災害による子どもへの影響とストレス 2) 災害時の子どもと家族への援助	(事後学習) 学習内容を振り返り、災害時の子どもと家族への看護について整理する(4h)	高野 政子 原田千恵子				
	13	1. ヤングケアラーと家族を支える援助の探求 1) ヤングケアラーがもつ問題 2) ヤングケアラーの家族がもつ問題	(事後学習) 学習内容を振り返り、ヤングケアラーと家族を支える援助について整理する(4h)	高野 政子 原田千恵子				
	14	1. 医療的ケア児の看護実践者による講演	(事後学習) 講演をもとに医療的ケア児の看護についてレポートする(4h)	高野 政子 原田千恵子				
	15	1. 子どもと家族への看護の学びの共有 1) グループ毎のプレゼンテーション 2) 全体討議	(事前学習) グループで子どもと家族の看護について学んだ内容のプレゼンテーションの準備をする(4h)	高野 政子 原田千恵子				
履修条件や関連する科目等	関連科目: 小児看護学概論 小児看護シミュレーション演習 基礎看護学領域に含まれる全科目							
(教科書)	医学書院 e-テキスト「系統看護学講座」小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学[2]小児臨床看護各論							
(参考書)	参考書は随時指示する							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標1		10%		15%		10%	
	到達目標2				15%		10%	
	到達目標3		10%			20%	10%	
	到達目標4							
到達目標5								
(自由記述欄)								
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。							
学習相談及び学習成果のフィードバック	(1) オフィスアワー・研究室の所在 【メールアドレス】 moodleにメールアドレスを掲示しています。またmoodleのメッセージ機能からも連絡可能です。 【オフィスアワー】 moodleにオフィスアワーの時間を掲示しています。必要に応じてはこの時間以外でも相談可能です。事前に上記のメールアドレスへ連絡を取り、予約を取っていただけましたら幸いです。 (2) 学修成果のフィードバック 期末試験に関する答案等は研究室に保管していますので、事前に連絡のうえ内容を確認することができます。							
科目に含まれる必要事項	法令等に定められた授業							
学生へのメッセージ	1. 予習復習を必ずしてください。 2. オンラインによる動画で事前に小児看護技術を配信し、事前学修を行っていただくことがあります。(ICT活用) 3. 必要に応じて、シンク・ペア・シェア、グループ学習を行う。 4. 毎回の授業最後に moodle 内でミニツッパーパーの提出が求められますので、スマートフォンを持参してください。(ICT活用) 5. 講義に加え講義内容によってはDVD視聴や動画配信によって理解を深めます。(ICT活用) 6. リフレクションシートや課題の評価基準は授業で提示します。 7. Eメールを利用した質問や相談に対応します。(ICT活用) 8. 授業では、教員の病院での実務経験を活かした実践知を具体的に伝える内容も含まれます。							
ナリワザ	PEN-2-02-910							

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名				
	小児看護援助論				古 屋 肇子 原田千恵子				
科目区分			対象学科						
専門分野 小児看護学			看護学部 看護学科						
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP					
2年次	前期	2	○	DP4					
授業概要	本演習では、健康障害が小児や家族に及ぼす影響、小児とその家族への効果的な援助を学ぶ。成長段階や発達段階の理解を通じて、身体的・心理的・社会的側面からの日常生活の援助方法を探求する。学生は、小児期にみられる主要な症状に対する看護、治療、検査、処置を含む健康課題に対する援助を理解し、子どもの権利と家族の主体性を尊重したアプローチを考察することができる。 (古屋肇子・原田千恵子) (共同)								
	到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	1	1	病気や入院が子どもと家族に与える影響について説明できる				○		
	2	2	主要な症状に対する看護、治療、検査、処置を含む健康課題に対して子どもの権利と家族の主体性を尊重したアプローチを説明できる				○		
	3	3	子どもの発達段階、健康レベルを考慮した日常生活援助を実践できる					○	
	4	4							
5	5								
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間	担当教員					
	1	1. 健康障がいや入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護 1) 症状、治療、検査、制限がもたらす成長発達に及ぼす影響 ①感染症 ②事故防止 ③治療・検査に伴う不安 2) 発達段階に応じたプレパレーションの必要性 ①感染症 ②事故防止 ③治療・検査に伴う不安	(事後学習) 健康障害や入院が子どもと家族に与える影響、プレパレーションの必要性について整理する(4h)	古屋 肇子 原田千恵子					
	2	1. 発達段階に応じたプレパレーションの実践 1) 幼児期(初期、後期)、学童期 ①治療、検査、処置に伴う不安の受け止め ②事例の場面設定によるアプローチの検討・実施	(事後学習) 発達段階に応じたプレパレーションの振り返りと考察(4h)	古屋 肇子 原田千恵子					
	3	1. 急性症状のある子どもと家族への看護の実践 1) 発熱 2) 脱水 3) 下痢・嘔吐 4) 呼吸困難 5) けいれん 6) 生命兆候が危険な状況	(事前学習) 子どもの急性症状について学習する(発熱・脱水・下痢嘔吐・呼吸困難 けいれん 生命兆候が危険な状態)(2h) (事後学習) 子ども特有の急性症状の現れ方、子どもの表現についてレポートする(2h)	古屋 肇子 原田千恵子					
	4	1. 慢性期にある子どもと家族への看護の実践 1) 喘息、糖尿病の子どもと家族への看護 ①入院中の学習支援 ②復学支援 ③基本的生活習慣 ④セルフケア獲得支援	(事前学習) 子どもの喘息、糖尿病の看護について学習する(4h)	古屋 肇子 原田千恵子					
	5	1. 慢性期にある子どもと家族への看護の振り返り 1) 喘息、糖尿病の子どもと家族への看護の実践 ①入院中の学習支援 ②復学支援 ③基本的生活習慣 ④セルフケア獲得支援	(事後学習) 学習内容を振り返り、慢性期の子どもと家族への看護について整理する(4h)	古屋 肇子 原田千恵子					
	6	1. 救急救命処置が必要な子どもと家族へ看護の実践 1) 事故・外傷 2) 虐待 3) 誤嚥物質と処置 4) 熱傷 5) 溺水	(事後学習) 学習内容を振り返り、救急救命処置が必要な子どもと家族への看護について整理する(4h)	古屋 肇子 原田千恵子					
	7	1. 周手術期にある子どもと家族への看護の実践 1) 計画手術 2) 緊急手術 3) 日帰り手術 4) 手術後の身体状態のアセスメント 5) 退院支援	(事前学習) 1回目、2回目で学習したプレパレーションの内容を復習する(4h)	古屋 肇子 原田千恵子					
	8	1. 周手術期にある子どもと家族への看護の振り返り 1) 計画手術 2) 緊急手術 3) 日帰り手術 4) 手術後の身体状態のアセスメント 5) 退院支援	(事後学習) 学習内容を振り返り、周手術期にある子どもと家族への看護について整理する(4h)	古屋 肇子 原田千恵子					
	9	1. 終末期にある子どもと家族への看護 1) 子どもの死の概念 2) 死に対する子どもの反応と援助 3) 子どもへの病気の説明 4) 終末期にある子どもの心身の状態と緩和ケア 5) 子どもの死を看取る家族の反応と援助	(事後学習) 学習内容を振り返り、終末期にある子どもと家族への看護について整理する(4h)	古屋 肇子 原田千恵子					
10	1. 発達障がいを持つ子どもと家族への看護の実践 1) 発達障害(アスペルガー ADHD) 2) 障害の受容支援 3) 社会資源の活用と援助	(事後学習) 学習内容を振り返り、発達障害をもつ子どもと家族への看護について整理する(4h)	古屋 肇子 原田千恵子						

授業計画	11	1. 医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護の実践 1) 入院から在宅への移行に向けた支援 2) 多職種との連携と社会資源の活用 3) 在宅療養中の子どもと家族の支援 4) 子どものセルフケア行動の促進	(事後学習) 学習内容を振り返り、医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護について整理する(4h)	古屋 肇子 原田千恵子				
	12	1. 災害時の子どもと家族への看護の実践 1) 災害による子どもへの影響とストレス 2) 災害時の子どもと家族への援助	(事後学習) 学習内容を振り返り、災害時の子どもと家族への看護について整理する(4h)	古屋 肇子 原田千恵子				
	13	1. ヤングケアラーと家族を支える援助の探求 1) ヤングケアラーがもつ問題 2) ヤングケアラーの家族がもつ問題	(事後学習) 学習内容を振り返り、ヤングケアラーと家族を支える援助について整理する(4h)	古屋 肇子 原田千恵子				
	14	1. 医療的ケア児の看護実践者による講演	(事後学習) 講演をもとに医療的ケア児の看護についてレポートする(4h)	古屋 肇子 原田千恵子				
	15	1. 子どもと家族への看護の学びの共有 1) グループ毎のプレゼンテーション 2) 全体討議	(事前学習) グループで子どもと家族の看護について学んだ内容のプレゼンテーションの準備をする(4h)	古屋 肇子 原田千恵子				
履修条件や関連する科目等	関連科目: 小児看護学概論 小児看護シミュレーション演習 基礎看護学領域に含まれる全科目							
(教科書)	医学書院 e-テキスト「系統看護学講座」小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学[2]小児臨床看護各論							
(参考書)	参考書は随時指示する							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標1		10%		15%		10%	
	到達目標2				15%		10%	
	到達目標3		10%			20%	10%	
	到達目標4							
到達目標5								
(自由記述欄)	試験60%、授業への取り組み(20%:授業後のリフレクションシート提出)、レポート課題(20%:授業中に課題について説明を行う)							
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。							
学習相談及び学習成果のフィードバック	(1) オフィスアワー・研究室の所在 【メールアドレス】 moodleにメールアドレスを掲示しています。またmoodleのメッセージ機能からも連絡可能です。 【オフィスアワー】 moodleにオフィスアワーの時間を掲示しています。必要に応じてはこの時間以外でも相談可能です。事前に上記のメールアドレスへ連絡を取り、予約を取っていただけましたら幸いです。 (2) 学修成果のフィードバック 期末試験に関する答案等は研究室に保管していますので、事前に連絡のうえ内容を確認することができます。							
科目に含まれる必要事項								
学生へのメッセージ	1. 予習復習を必ずしてください。 2. オンラインによる動画で事前に小児看護技術を配信し、事前学修を行っていただくことがあります。(ICT活用) 3. 必要に応じて、シンク・ペア・シェア、グループ学習を行う。 4. 毎回の授業最後に moodle 内でミニッツペーパーの提出が求められますので、スマートフォンを持参してください。(ICT活用) 5. 講義に加え講義内容によってはDVD視聴や動画配信によって理解を深めます。(ICT活用) 6. リフレクションシートや課題の評価基準は授業で提示します。 7. Eメールを利用した質問や相談に対応します。(ICT活用) 8. 授業では、教員の病院での実務経験を活かした実践知を具体的に伝える内容も含まれます。							
ナリワザ	PEN-2-02-910							

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名					
	小児看護学実習				高野 政子 原田千恵子					
科目区分			対象学科							
専門分野 小児看護学			看護学部 看護学科							
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP						
3年次	後期	2	○	DP4, DP5, DP6						
授業概要	<p>本実習では、小児看護学に関する既習知識を活用し、健康な乳幼児を対象に、乳幼児期の成長・発達過程を理解し、病気や障害、事故を予防し、より健康的な生活を送れるような支援について学ぶ。また、健康障害により入院・外来治療を受ける小児及びその家族を対象に、成長・発達と健康障害に応じた看護、家族への支援について学ぶ。また、医療的ケア児のケア、家族支援についても学習する。学生は、入院している子どもの成長・発達と健康障害に応じた援助、子どもの権利擁護や小児と家族の尊厳を守る支援の方法を身につけることができる。 (高野政子・原田千恵子) (共同)</p>									
到達目標	No.	到達目標			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	1	【健康な小児の実習】 1) 小児の成長・発達に応じた基本的な生活習慣の獲得にむけた援助、遊びの選択及び事故防止を実施できる						○		
	2	【健康障害をもつ小児の看護】 1) 健康障害をもつ小児および家族の状態について、身体的・精神的・社会的側面を統合して述べるができる						○		
	3	2) 対象児の発達段階や健康障害に応じた日常生活援助、治療・検査・処置の援助、心理的援助、事故の防止や感染予防行動が実施できる						○		
	4	3) 対象児が活用できる社会資源の活用や関係機関・関係職種との連携・協働について説明できる							○	
	5	4) 保健医療福祉チームの一員としての自覚を持ち、看護者として責任ある行動がとれる								○
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間			担当教員				
	1	<p>【実習計画概要】 【健康な小児の理解】 保育園実習 3年次 9月～2月 専門領域の実習の中でローテーションで実施 1グループ：5～6人/1週間(4日間保育園)</p>	<p>【事前学修】既習の小児看護学の授業資料を基に、実習に必要な内容を確認し、復習すること。 【事前学修時間】 2時間 【事後学修】 毎日の実習内容を記録したものをアセスメントし、翌日の実習計画に沿った内容を調べてくること。 【事後学修時間】 2時間</p>			高野 政子 原田千恵子				
	2	<p>【健康障害を持つ小児の看護】 病院実習(小児病棟・小児外来)で1週間の実習を計画 3年次9月～2月 専門領域の実習の中でローテーションで実施 保育園→病院又は病院→保育園あり 1グループ：5～6人 1週間のうちに小児外来実習を1～2日順番に実施 ※医療処置が必要な患児(処置時の安全な体位の保持、プレパレーションによる不安の緩和への援助、機会があれば小児NPと共に家庭訪問等を考えている)</p>	<p>【事前学修】既習の小児看護学の授業資料を基に、実習に必要な内容を確認し、復習すること。 【事前学修時間】 2時間 【事後学修】 毎日の実習内容を記録したものをアセスメントし、翌日の実習計画に沿った内容を調べてくること。 【事後学修時間】 2時間</p>			高野 政子 原田千恵子				
	3	<p>【評価の指標】 【健康な小児の実習】 1) 成長・発達の途上にある健康な小児を全人的に理解するために身体的・精神的・社会的側面において必要なデータを収集し実習記録に記載できる 2) 小児の発達に応じた基本的な生活習慣の獲得にむけた援助を計画・実施できる 3) 小児の成長発達に応じた遊びを選択し計画・実施できる 4) 小児の発達に応じた安全管理の実態と工夫について実習記録に記載できる</p>				高野 政子 原田千恵子				
	4	<p>【健康障害をもつ小児の看護】 1) 成長・発達の特徴や健康障害をもつ対象児の身体的・精神的・社会的側面において必要なデータを収集し実習記録に記載できる 2) 成長・発達の特徴や健康障害をもつ対象児の看護問題を収集したデータに基づいて抽出し、優先順位を判断の根拠と共に実習記録に記載できる 3) 対象児の発達段階や健康障害に応じた日常生活援助が計画・実施できる 4) 対象児に行われる治療・検査・処置に関するプレパレーションやディストラクションを計画・実施できる 5) 対象児に起こりやすい事故の防止や感染予防行動が計画・実施できる 6) 対象児が活用できる社会資源の活用や関係機関・関係職種との連携・協働のあり方について実習記録に記載できる 7) 対象児及び家族に必要な心理的援助を計画・実施できる 8) 保健医療福祉チームの一員として自覚を持ち、対象者の尊厳と権利を守る倫理的行動を心掛け、指導者に報告・連絡・相談を行いながら責任をもって行動できる</p>				高野 政子 原田千恵子				

履修条件や関連科目等	履修条件：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ 関連科目：小児看護学概論 小児看護学援助論 小児看護シミュレーション演習 基礎看護学領域の全科目							
(e-テキスト)教科書	医学書院 e-テキスト「系統看護学講座」小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論、小児看護学[2]小児臨床看護各論							
(参考資料)授業資料	参考書は随時指示する							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標1				10%		10%	
	到達目標2				30%			
	到達目標3						30%	
	到達目標4				10%			
到達目標5						10%		
(自由記述欄)評価方法	評価表を基に、知識・技術・態度を実習および記録物から総合的に評価します。							
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。							
学習相談及び学習成果のフィードバック	<p>(1) オフィスアワー・研究室の所在 【メールアドレス】 moodleにメールアドレスを掲示しています。またmoodleのメッセージ機能からも連絡可能です。 【オフィスアワー】 moodleにオフィスアワーの時間を掲示してます。必要に応じてはこの時間以外でも相談可能です。事前に上記のメールアドレスへ連絡を取り、予約を取っていただけましたら幸いです。</p> <p>(2) 学修成果のフィードバック 実習中および実習後に振り返りを行い、課題についてフィードバックします。</p>							
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項								
学生へのメッセージ	<p>1. 緊急時に備え、教員との連絡手段は必ず指示された通りに確認しておくこと。 2. 事前学修も単位に含まれるので、実習中にいつでも見ることができるよう準備しておくこと。 3. オンラインによる動画で事前に小児看護技術を配信し、事前学修を行っていただくことがあります。(ICT活用) 4. 実習カンファレンスのテーマは事前に準備し、グループへ貢献できるよう主体的に発言すること。 5. 実習では、教員の病院での実務経験を活かした実践知を具体的に伝える内容も含まれます。</p>							
ナリマリ	PEN-3-02-910							

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名			
	小児看護学実習				古 屋 肇 子 原 田 千 恵 子			
科目区分			対象学科					
専門分野 小児看護学			看護学部 看護学科					
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP				
3年次	後期	2	○	DP4, DP5, DP6				
授業概要	<p>本実習では、小児看護学に関する既習知識を活用し、健康な乳幼児を対象に、乳幼児期の成長・発達過程を理解し、病気や障害、事故を予防し、より健康的な生活を送れるような支援について学ぶ。また、健康障害により入院・外来治療を受ける小児及びその家族を対象に、成長・発達と健康障害に応じた看護、家族への支援について学ぶ。また、医療的ケア児のケア、家族支援についても学習する。学生は、入院している子どもの成長・発達と健康障害に応じた援助、子どもの権利擁護や小児と家族の尊厳を守る支援の方法を身につけることができる。 (古屋肇子・原田千恵子) (共同)</p>							
到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	1	【健康な小児の実習】 1) 小児の成長・発達に応じた基本的な生活習慣の獲得にむけた援助、遊びの選択及び事故防止を実施できる				○	○	○
	2	【健康障害をもつ小児の看護】 1) 健康障害をもつ小児および家族の状態について、身体的・精神的・社会的側面を統合して述べるができる				○	○	○
	3	2) 対象児の発達段階や健康障害に応じた日常生活援助、治療・検査・処置の援助、心理的援助、事故の防止や感染予防行動が実施できる				○	○	○
	4	3) 対象児が活用できる社会資源の活用や関係機関・関係職種との連携・協働について説明できる				○	○	○
	5	4) 保健医療福祉チームの一員としての自覚を持ち、看護者として責任ある行動がとれる				○	○	○
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間			担当教員		
	1	【実習計画概要】 【健康な小児の理解】 保育園実習 3年次 9月～2月 専門領域の実習の中でローテーションで実施 1グループ：5～6人/1週間（4日間保育園）	【事前学修】既習の小児看護学の授業資料を基に、実習に必要な内容を確認し、復習すること。 【事前学修時間】 2時間 【事後学修】 毎日の実習内容を記録したものをアセスメントし、翌日の実習計画に沿った内容を調べてくること。 【事後学修時間】 2時間			古屋 肇子 原田千恵子		
	2	【健康障害を持つ小児の看護】 病院実習（小児病棟・小児外来）で1週間の実習を計画 3年次9月～2月 専門領域の実習の中でローテーションで実施 保育園→病院又は病院→保育園あり 1グループ：5～6人 1週間のうちに小児外来実習を1～2日順番に実施 ※医療処置が必要な患児（処置時の安全な体位の保持、プレパレーションによる不安の緩和への援助、機会があれば小児NPと共に家庭訪問等を考えている）	【事前学修】既習の小児看護学の授業資料を基に、実習に必要な内容を確認し、復習すること。 【事前学修時間】 2時間 【事後学修】 毎日の実習内容を記録したものをアセスメントし、翌日の実習計画に沿った内容を調べてくること。 【事後学修時間】 2時間			古屋 肇子 原田千恵子		
	3	【評価の指標】 【健康な小児の実習】 1) 成長・発達の途上にある健康な小児を全人的に理解するために身体的・精神的・社会的側面において必要なデータを収集し実習記録に記載できる 2) 小児の発達に応じた基本的な生活習慣の獲得にむけた援助を計画・実施できる 3) 小児の成長発達に応じた遊びを選択し計画・実施できる 4) 小児の発達に応じた安全管理の実態と工夫について実習記録に記載できる				古屋 肇子 原田千恵子		
	4	【健康障害をもつ小児の看護】 1) 成長・発達の特徴や健康障害をもつ対象児の身体的・精神的・社会的側面において必要なデータを収集し実習記録に記載できる 2) 成長・発達の特徴や健康障害をもつ対象児の看護問題を収集したデータに基づいて抽出し、優先順位を判断の根拠と共に実習記録に記載できる 3) 対象児の発達段階や健康障害に応じた日常生活援助が計画・実施できる 4) 対象児に行われる治療・検査・処置に関するプレパレーションやディストラクションを計画・実施できる 5) 対象児に起こりやすい事故の防止や感染予防行動が計画・実施できる 6) 対象児が活用できる社会資源の活用や関係機関・関係職種との連携・協働のあり方について実習記録に記載できる 7) 対象児及び家族に必要な心理的援助を計画・実施できる 8) 保健医療福祉チームの一員として自覚を持ち、対象者の尊厳と権利を守る倫理的行動を心掛け、指導者に報告・連絡・相談を行いながら責任をもって行動できる				古屋 肇子 原田千恵子		

履修条件や関連する科目等	履修条件：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ 関連科目：小児看護学概論 小児看護学援助論 小児看護シミュレーション演習 基礎看護学領域の全科目							
教科書	医学書院 e-テキスト「系統看護学講座」小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論、小児看護学[2]小児臨床看護各論							
参考書	参考書は随時指示する							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標 1							30%
	到達目標 2							30%
	到達目標 3							15%
	到達目標 4							5%
到達目標 5							20%	
自由記述欄	評価表を基に、知識・技術・態度を実習および記録物から総合的に評価します。							
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。							
学習相談及び学習成果のフィードバック	<p>(1) オフィスアワー・研究室の所在 【メールアドレス】 moodleにメールアドレスを掲示しています。またmoodleのメッセージ機能からも連絡可能です。 【オフィスアワー】 moodleにオフィスアワーの時間を掲示してます。必要に応じてはこの時間以外でも相談可能です。事前に上記のメールアドレスへ連絡を取り、予約を取っていただけましたら幸いです。</p> <p>(2) 学修成果のフィードバック 実習中および実習後に振り返りを行い、課題についてフィードバックします。</p>							
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項								
学生へのメッセージ	<p>1. 緊急時に備え、教員との連絡手段は必ず指示された通りに確認しておくこと。 2. 事前学修も単位に含まれるので、実習中にいつでも見ることができるよう準備しておくこと。 3. オンラインによる動画で事前に小児看護技術を配信し、事前学修を行っていただくことがあります。(ICT 活用) 4. 実習カンファレンスのテーマは事前に準備し、グループへ貢献できるよう主体的に発言すること。 5. 実習では、教員の病院での実務経験を活かした実践知を具体的に伝える内容も含まれます。</p>							
ナパ/ナグ	PEN-3-02-910							

(別紙9) 新

科目コード	科 目 名					担 当 教 員 名		
	母性看護シミュレーション演習					梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ		
科目区分			対象学科					
専門分野 母性看護学			看護学部 看護学科					
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP				
3年次	前期	1	○	DP4				
授業概要	本演習では、母性看護援助論Ⅰ・Ⅱでの知識、技術をもとに、妊娠・分娩期のケア、産後のケア、新生児のケア、助産師との連携等、幅広い場面を再現し、分娩、産褥の状況に合わせた適切な援助及び新生児ケアについて修得することを目的とする。演習方法は、リアルな状況設定とシナリオを用いて、事前討議、シミュレーション、フィードバック、ディスカッションを繰り返し、対象に応じた安全で適切な援助を判断、実施する。この一連の過程を通して、学生は状況判断力、コミュニケーション力と実践力を身につけ、臨地実習のレディネスを高めることができる。							
	(梅野貴恵・野中智恵・渡邊めぐみ) (共同)							
到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	1	妊娠～分娩～産褥期と新生児期にある対象事例のアセスメントができ、母子とその家族の全体像を述べる				○		
	2	妊娠～分娩～産褥期と新生児期にある対象事例へのケアプランを立案し、状況設定に応じた看護を実践できる				○		
	3	母性看護の対象へのケア実践における必要な母性看護技術を対象者の状況に応じて実践する				○		
	4							
	5							
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間			担当教員		
	1	分娩期のケア、産後のケアを看護展開するうえで必要とされるアセスメントの視点(妊娠～分娩期、産褥期)を教授し、母子とその家族の全体像を把握する	事前：Moodleに掲載された資料を熟読しておく(1h)			梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ		
	2	1. 初産婦・経陰分娩予定産婦の事例Aについて、事前学習のアセスメントをグループで共有し、グループディスカッションにより、分娩Ⅰ期、分娩Ⅱ期、分娩直後～帰室後6時間のケア計画を立案する。	事前：初産婦・経陰分娩予定産婦の事例AをMoodleから入手し、各自で妊娠～分娩開始、分娩Ⅰ期、分娩Ⅱ期、分娩直後のまでのアセスメントを行う(1h)。			梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ		
	3	グループで立案したケアプランに沿って、分娩Ⅰ期の観察、CTG装着、安楽への看護、分娩Ⅱ期における看護、家族への支援方法について、グループで役割を決めてシミュレーションする。その後グループでフィードバックを行い、ケア計画を修正する。	事前：グループでシミュレーションできるように、「母性看護援助論Ⅰ」のシミュレーションを振り返り、グループの役割分担を決め、使用物品をリスト化しておく(0.5h)。 事後：シミュレーション画像を視聴し、デブリーフィングシートに記載する(0.5h)。			梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ		
	4	グループで立案したケアプランに沿って、分娩直後～帰室後6時間までの悪露交換、子宮復古状態の観察、排尿時のケアについて、グループで役割を決めてシミュレーションする。その後グループでフィードバックを行い、ケア計画を修正する。	事前：グループでシミュレーションできるように、「母性看護援助論Ⅱ」のシミュレーションを振り返り、グループの役割分担を決め、使用物品をリスト化しておく(0.5h)。 事後：シミュレーション画像を視聴し、デブリーフィングシートに記載する(0.5h)。			梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ		
	5	初産婦・経陰分娩の事例Aについてグループディスカッションにより、産後1日～産後5日目までの母子それぞれのケア計画を立案する。	事前：初産婦・経陰分娩事例Aについて、各自で分娩状況をアセスメントし、産後の回復状況をアセスメントし、産後1日から必要となる看護を記載しておく(1h)。			梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ		
	6	グループで立案したケアプランに沿って、産後1日～産後5日までに行われる母子看護の実際をグループディスカッションする。沐浴指導案、退院指導案(母親の生活、新生児の生活)、授乳指導(抱き方、排気の方法)について指導内容・方法を検討する。(1)	事前：産後の母親に実施される指導内容や方法について、「母性看護援助論Ⅱ」で実施したシミュレーションの振り返りを行っておく(1h)。			梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ		
	7	グループで立案したケアプランに沿って、産後1日～産後5日までに行われる母子看護の実際をグループディスカッションする。産褥・骨盤底筋体操指導、沐浴指導案、退院指導案(母親の生活、新生児の生活)、授乳指導(抱き方、排気の方法)について指導内容・方法を検討する。次回の発表に備えて、役割を決定。(2)	事後：指導場面の実際のプレゼンテーションに備えて、各グループで発表内容を整理しビデオ学習しておく(1h)。			梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ		
	8	グループで作成した保健指導のシナリオに沿って、模擬褥婦・新生児人形を対象にしてシミュレーションを実施する。分担は、当日のくじ引きで決める。各グループの発表後、デブリーフィングを行い、再度シミュレーションを実施する。(1)	事後：指導場面のシミュレーションの自グループの録画を視聴し他グループとの違いなど、デブリーフィングシートに記載する(1h)。			梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ		

授業計画	9	グループで作成した保健指導のシナリオに沿って、模擬褥婦・新生児人形を対象にしてシミュレーションを実施する。各グループの発表後、デブリーフィングを行い、再度シミュレーションを実施する。(2)	事後：指導場面のシミュレーションの自グループの録画を視聴し他グループとの違いなど、デブリーフィングシートに記載する(1h)。	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ				
	10	グループで作成した保健指導のシナリオに沿って、8・9回目で、発表していない他の指導場面を各グループ内で役割を決めてシミュレーションする。その後グループでフィードバックを行いまとめる。	事後：指導場面のシミュレーション全般について デブリーフィングシートに記載する(1h)。	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ				
	11	2. 特定妊婦の経産婦・帝王切開予定妊婦の事例についてグループディスカッションにより、帝王切開直後の看護、産後1日までの母子それぞれのケア計画を立案する。	事前：特定妊婦の経産婦・帝王切開予定妊婦の事例BをMoodleから入手し、各自で特定妊婦の特徴、帝王切開術について調べ、手術後当日、1日目の看護について調べてまとめておく(1h)。	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ				
	12	特定妊婦の経産婦・帝王切開予定妊婦の事例についてグループディスカッションにより、帝王切開術後(産後)2日～産後7日目までの母子それぞれと社会資源の活用に関するケア計画を立案する。	事前：帝王切開後(産後)2日～7日までの看護について調べてまとめておく(1h)。	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ				
	13	グループで立案した帝王切開事例のケアプランに沿って、帝切直後の悪露交換、子宮底の観察、下肢の運動、授乳の支援の看護をシミュレーションする。グループで役割を決めてシミュレーションする。その後グループでフィードバックを行い、ケア計画を修正する。	事前：グループでシミュレーションできるように、第4回のシミュレーションを振り返り、グループの役割分担を決め、使用物品をリスト化しておく(0.5h)。 事後：シミュレーション画像を視聴し、デブリーフィングシートに記載する(0.5h)。	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ				
到達目標	14	グループで作成した帝王切開事例の搾乳指導や社会資源活用等の保健指導のシナリオに沿って、グループで役割を決めてシミュレーションする。その後グループでフィードバックを行い、ケア計画や指導案を修正する。	事前：グループでシミュレーションできるように、第4・7・8・9回のシミュレーションを振り返り、グループの役割分担を決め、使用物品をリスト化しておく(0.5h)。 事後：シミュレーション画像を視聴し、デブリーフィングシートに記載する(0.5h)。	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ				
	15	グループで作成した帝王切開事例の搾乳指導や社会資源の活用等の保健指導のシナリオに沿って、模擬褥婦を対象にしてシミュレーションを実施する。分担は、当日のくじ引きで決める。各グループの発表後、デブリーフィングを行い、再度シミュレーションを実施する。	事後：指導場面の実際のプレゼンテーションに備えて、各グループでビデオ学習しておく(0.5h)。 事後：指導場面のシミュレーション全般について デブリーフィングシートに記載する(0.5h)。	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ				
連携する科目等	関連科目：母性看護学概論 母性看護学援助論Ⅰ 母性看護援助論Ⅱ 基礎看護学領域の全科目 小児看護学領域の全科目							
テキスト	医学書院 e-テキスト「系統看護学講座」母性看護学[1]母性看護学概論 母性看護学[2]母性看護学各論							
参考文献	随時提示する							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標 1				20%	5%	5%	
	到達目標 2				20%	10%	10%	
	到達目標 3				10%	10%	10%	
	到達目標 4							
到達目標 5								
自由記述欄	事前課題は、授業時に確認します。適宜、提出を求めることがあります。事後のデブリーフィングシートは提出(提出日は別途指示)を求めます							
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。							
学習相談及び学習支援	(1)【研究室所在】【メールアドレス】moodleにメールアドレスを掲示しています。またmoodleのメッセージ機能からも連絡可能です。 【オフィスアワー】moodleにオフィスアワーの時間を掲示しています。必要に応じてはこの時間以外でも相談可能です。事前に上記のメールアドレスへ連絡を取り、予約を取っていただけましたら幸いです。 (2) レポートは後日返却します。							
特になし	特になし							
学生の声	助産師としての臨床経験を活かして実践例を示しながら授業します。							
ナバウグ	MTN-3-01-910							

(別紙9) 旧

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名
	母性看護シミュレーション演習				梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ
科目区分			対象学科		
専門分野 母性看護学			看護学部 看護学科		
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP	
3年次	前期	1	○	DP4	

授業概要

1. 初産婦・経陰分娩の分娩Ⅰ期の看護、分娩直後の看護、産褥入院中の母児の看護（沐浴指導、退院指導）の各時期の状況設定に合わせて、グループでアセスメント、計画立案、シミュレーションによって学修する。
 2. 特定妊婦の経産婦・帝王切開事例の手術直後の看護、産後の授乳・搾乳のケア、退院後の社会資源について、グループでアセスメント、計画立案、シミュレーションによって学修する。
 この一連の過程を通して、学生は状況判断力、コミュニケーション力と実践力を身につけ、臨地実習のレディネスを高めることができる。
 (梅野貴恵・野中智恵・渡邊めぐみ) (共同)

到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	1	妊娠～分娩～産褥期と新生児期にある対象事例のアセスメントができ、母子とその家族の全体像を述べる				○		
	2	妊娠～分娩～産褥期と新生児期にある対象事例へのケアプランを立案し、状況設定に応じた看護を実践できる				○		
	3	母性看護の対象へのケア実践における必要な母性看護技術を対象者の状況に応じて実践する				○		
	4	シミュレーション、フィードバック、ディスカッションの各段階をグループで協力して実施する				○	○	
	5	演習の各段階においてグループ内、クラス内で報告、連絡、相談などのマネジメントサイクルを意識する				○	○	

授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間	担当教員
	1	分娩期のケア、産後のケアを看護展開するうえで必要とされるアセスメントの視点（妊娠～分娩期、産褥期）を教授し、母子とその家族の全体像を把握する	事前：Moodleに掲載された資料を熟読しておく（1h）	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ
	2	1. 初産婦・経陰分娩予定産婦の事例Aについて、事前学習のアセスメントをグループで共有し、グループディスカッションにより、分娩Ⅰ期、分娩Ⅱ期、分娩直後～帰室後6時間のケア計画を立案する。	事前：初産婦・経陰分娩予定産婦の事例AをMoodleから入手し、各自で妊娠～分娩開始、分娩Ⅰ期、分娩Ⅱ期、分娩直後のまでのアセスメントを行う（1h）。	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ
	3	グループで立案したケアプランに沿って、分娩Ⅰ期の観察、CTG装着、安楽への看護、分娩Ⅱ期における看護、家族への支援方法について、グループで役割を決めてシミュレーションする。その後グループでフィードバックを行い、ケア計画を修正する。	事前：グループでシミュレーションできるように、「母性看護援助論Ⅰ」のシミュレーションを振り返り、グループの役割分担を決め、使用物品をリスト化しておく（0.5h）。 事後：シミュレーション画像を視聴し、デブリーフィングシートに記載する（0.5h）。	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ
	4	グループで立案したケアプランに沿って、分娩直後～帰室後6時間までの悪露交換、子宮復古状態の観察、排尿時のケアについて、グループで役割を決めてシミュレーションする。その後グループでフィードバックを行い、ケア計画を修正する。	事前：グループでシミュレーションできるように、「母性看護援助論Ⅱ」のシミュレーションを振り返り、グループの役割分担を決め、使用物品をリスト化しておく（0.5h）。 事後：シミュレーション画像を視聴し、デブリーフィングシートに記載する（0.5h）。	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ
	5	初産婦・経陰分娩の事例Aについてグループディスカッションにより、産後1日～産後5日目までの母子それぞれのケア計画を立案する。	事前：初産婦・経陰分娩事例Aについて、各自で分娩状況をアセスメントし、産後の回復状況をアセスメントし、産後1日目から必要となる看護を記載しておく（1h）。	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ
	6	グループで立案したケアプランに沿って、産後1日～産後5日までに行為れる母子看護の実際をグループディスカッションする。沐浴指導案、退院指導案（母親の生活、新生児の生活）、授乳指導（抱き方、排気の方法）について指導内容・方法を検討する。（1）	事前：産後の母親に実施される指導内容や方法について、「母性看護援助論Ⅱ」で実施したシミュレーションの振り返りを行っておく（1h）。	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ
	7	グループで立案したケアプランに沿って、産後1日～産後5日までに行為れる母子看護の実際をグループディスカッションする。産褥・骨盤底筋体操指導、沐浴指導案、退院指導案（母親の生活、新生児の生活）、授乳指導（抱き方、排気の方法）について指導内容・方法を検討する。次回の発表に備えて、役割を決定。（2）	事後：指導場面の実際のプレゼンテーションに備えて、各グループで発表内容を整理しビデオ学習しておく（1h）。	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ
	8	グループで作成した保健指導のシナリオに沿って、模擬褥婦・新生児人形を対象にしてシミュレーションを実施する。分担は、当日のくじ引きで決める。各グループの発表後、デブリーフィングを行い、再度シミュレーションを実施する。（1）	事後：指導場面のシミュレーションの自グループの録画を視聴し他グループとの違いなど、デブリーフィングシートに記載する（1h）。	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ

授業計画	9	グループで作成した保健指導のシナリオに沿って、模擬褥婦・新生児人形を対象にしてシミュレーションを実施する。各グループの発表後、デブリーフィングを行い、再度シミュレーションを実施する。（2）	事後：指導場面のシミュレーションの自グループの録画を視聴し他グループとの違いなど、デブリーフィングシートに記載する（1h）。	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ
	10	グループで作成した保健指導のシナリオに沿って、8・9回目で、発表していない他の指導場面を各グループ内で役割を決めてシミュレーションする。その後グループでフィードバックを行いまとめる。	事後：指導場面のシミュレーション全般について デブリーフィングシートに記載する（1h）。	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ
	11	2. 特定妊婦の経産婦・帝王切開予定妊婦の事例についてグループディスカッションにより、帝王切開直後の看護、産後1日までの母子それぞれのケア計画を立案する。	事前：特定妊婦の経産婦・帝王切開予定妊婦の事例BをMoodleから入手し、各自で特定妊婦の特徴、帝王切開術について調べ、手術後当日、1日目の看護について調べてまとめておく（1h）。	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ
	12	特定妊婦の経産婦・帝王切開予定妊婦の事例についてグループディスカッションにより、帝王切開術後（産後）2日～産後7日目までの母子それぞれと社会資源の活用に関するケア計画を立案する。	事前：帝王切開後（産後）2日～7日までの看護について調べてまとめておく（1h）。	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ
	13	グループで立案した帝王切開事例のケアプランに沿って、帝切直後の悪露交換、子宮底の観察、下肢の運動、授乳の支援の看護をシミュレーションする。グループで役割を決めてシミュレーションする。その後グループでフィードバックを行い、ケア計画を修正する。	事前：グループでシミュレーションできるように、第4回のシミュレーションを振り返り、グループの役割分担を決め、使用物品をリスト化しておく（0.5h）。 事後：シミュレーション画像を視聴し、デブリーフィングシートに記載する（0.5h）。	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ

履修条件や関連する科目等

関連科目：母性看護学概論 母性看護学援助論Ⅰ 母性看護学援助論Ⅱ 基礎看護学領域の全科目
小児看護学領域の全科目

教科書

医学書院 e-テキスト「系統看護学講座」母性看護学[1]母性看護学概論 母性看護学[2]母性看護学各論

参考資料

随時提示する

評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法						
	到達目標 1	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標 2			20%		5%	
	到達目標 3			20%		5%	
	到達目標 4			5%	10%	5%	
	到達目標 5			5%	10%	5%	

自由記述欄

事前課題は、授業時に確認します。適宜、提出を求めることがあります。事後のデブリーフィングシートは提出（提出日は別途指示）を求めます

基準等

・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。

学習相談及び学習支援

(1) 【研究室所在】【メールアドレス】 moodleにメールアドレスを掲示しています。またmoodleのメッセージ機能からも連絡可能です。
 【オフィスアワー】 moodleにオフィスアワーの時間を掲示しています。必要に応じてはこの時間以外でも相談可能です。事前に上記のメールアドレスへ連絡を取り、予約を取っていただけましたら幸いです。
 (2) レポートは後日返却します。

特になし

学生の声

助産師としての臨床経験を活かして実践例を示しながら授業します。

ナバワグ

MTN-3-01-910

(別紙10) 新

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名				
	母性看護学実習				梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ				
科目区分			対象学科						
専門分野 母性看護学			看護学部 看護学科						
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP					
3年次	後期	2	○	DP4, DP5, DP6					
授業概要	<p>本実習は、母性看護学に関する既習知識を活用し、マタニティサイクルにある対象の看護と子育て支援について学ぶ。妊娠・分娩・産褥という生理的な現象のプロセスにおいて、母親及び胎児・新生児がより健康に過ごすことを支援し、女性が持っている力を十分に引き出してセルフケアを促進する看護を学ぶ。また、新しい家族関係移行に対し、母子の愛着形成の促進や育児技術獲得に向けた支援、心理社会的な適応を促す看護を理解する。子育て支援では、育児期にある母子及びその家族を対象とし、育児期にある家族の現状と具体的支援方法について理解し、産褥期以降の継続された母子と家族のケアについて学ぶ。学生は実習を通して、マタニティサイクルにある対象の看護と子育て支援の方法を身につけ、生命の尊厳についての認識や自己の看護観を深めることができる。</p> <p>(梅野貴恵・野中智恵・渡邊めぐみ) (共同)</p>								
	到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	1	マタニティサイクルにある対象の特徴を身体的・心理的・社会的側面を統合して述べるができる					○		
	2	母性看護の対象者とその家族の持っている力を引き出しセルフケアを促進する看護過程展開を実施できる					○		
	3	産後の母子とその家族に対して必要な社会資源の活用について関係機関、関係職種との連携・協働も含めて述べるができる						○	
	4	母親のセルフケア能力、家族のサポートシステムを含めた母親役割獲得、育児技術獲得に向けた援助及びファミリーセンタード・ケアが実施できる						○	
	5	保健医療福祉チームの一員としての自覚と生命への畏敬の念を持ち、看護者として責任ある行動がとれる						○	○
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間			担当教員			
	1	時期： 3年後期 9月～2月 1グループ2週間 7クール グループ： 1グループ4～6人 実習の構成： ①別府医療センター北2病棟実習+外来2日間 ②子育て支援（別府市主催）2人ずつ3か所に分かれて実習	事前：受け持ち対象となる妊娠期、産褥期の対象理解に関する自己学習を行う。子育て支援事業、乳幼児（3歳まで）の成長・発達について自己学習を行う。（8h）			梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ			
	2	・実習記録はmoodleを活用したwebにて学生指導（担当教員とのみやり取りできるようにセキュリティをかける）				梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ			
	3	〈初日〉 ①実習病棟、産婦人科外来のオリエンテーション ②受け持ち妊産褥婦の選定（実習指導助産師と実習担当教員と相談） ③受け持ち妊産褥婦の情報収集 毎日のカンファレンステーマは、実習目的・目標に沿って、担当教員の助言をもらいながら、あらかじめ学生が主体的に計画し、進行は学生により実施する。				梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ			
	4	1 週目 〈2日目以降〉 ①受け持ち妊産褥婦の情報収集、行動計画に則った妊産褥婦ケアの見学、一部実施 ②産婦人科外来に2名ずつローテーションで、2日間、妊婦健康診査を見学する ③受け持ち妊産褥婦のケア計画立案、実施（外来日でも朝の挨拶、環境整備は行い、ケアは外来日の午後に実施する） ④5日目を学内として、ケア計画を整理し、見学又は実施したケアをまとめ、担当教員から指導を受ける。 ＊初めてのケアを行う場合は、担当教員や実習指導者の指導の下に実施する。	(実習中) 受け持ち妊産褥婦の情報の整理、ケア計画の立案、日々の実習記録の作成、翌日の自己の実習目的の明確化と翌日のケアの予習、カンファレンステーマについての予習（3h/日）			梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ			
	5	2 週目 ①受け持ち妊産褥婦がいる場合は、計画した援助計画を実施、受け持ち妊産褥婦の反応を見ながら、計画を修正し実施する。 ②退院指導の一部を指導者の指導の下で実施する。 ③病院実習の最終日には、今実習での学びと課題を明確にして実習指導助産師、担当教員双方の参加のもとで、最終カンファレンスを行い、学びを共有する。実習指導助産師及び担当教員は学生が実習の学びを整理できるように助言を行う。	2 週目 最終カンファレンスの前日までに、病棟実習・外来実習で学んだ内容をレポートし教員へ提出し、指導を受ける（3h/日）			梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ			

授業計画	6	2 週目 ①水曜日・木曜日の2日間は、2人ずつ子育て支援センターで実習する。支援員の指導をうけ、子育て中の母子とコミュニケーションを図り育児の悩み等を把握する。 ②5日目を学内日として、3施設での実習の学びを学内カンファレンスによって共有する。	子育て支援センターでの実習も日々の実習記録にまとめる（2h/日） 事後： 最終カンファレンスでの助言や学内カンファレンスをもとに、自己の学びの修正、実習記録の整理、ポートフォリオ作成（5h）	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ			
履修条件や関連科目等	履修条件：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ 関連科目：母性看護学概論 母性看護援助論Ⅱ 母性看護シミュレーション演習 基礎看護学領域の全科目 小児看護学領域の全科目						
教科書	医学書院 e-テキスト「系統看護学講座」母性看護学[1]母性看護学概論 母性看護学[2]母性看護学各論						
参考書							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標 1			10%		10%	
	到達目標 2			10%		10%	
	到達目標 3			10%	10%		
	到達目標 4				10%	10%	
	到達目標 5			10%		10%	
評価方法	評価票による実習目標の達成状況と実習記録物、実習態度で評価します。実習の欠席・遅刻・早退は減点の対象となります。						
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。						
学習相談及び学習成果のフィードバック	(1) 【研究室所在】【メールアドレス】 moodleにメールアドレスを掲示しています。またmoodleのメッセージ機能からも連絡可能です。 【オフィスアワー】 moodleにオフィスアワーの時間を掲示しています。必要に応じてはこの時間以外でも相談可能です。事前上記のメールアドレスへ連絡を取り、予約を取っていただけましたら幸いです。 (2) レポートは授業中または授業後に返却します。タイムリーにアドバイスができるようにmoodleを活用して実施します。						
科目に含める必要事項	法令等に定められた授業						
学生へのメッセージ	助産師としての臨床経験を活かして実践例を示しながら授業します。						
ナラビア	MTN-3-02-910						

(別紙10) 旧

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名				
	母性看護学実習				梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ				
科目区分			対象学科						
専門分野 母性看護学			看護学部 看護学科						
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP					
3年次	後期	2	○	DP4, DP5, DP6					
授業概要	<p>本実習は、母性看護学に関する既習知識を活用し、マタニティサイクルにある対象の看護と子育て支援について学ぶ。妊娠・分娩・産褥という生理的な現象のプロセスにおいて、母親及び胎児・新生児がより健康に過ごすことを支援し、女性が持っている力を十分に引き出してセルフケアを促進する看護を学ぶ。また、新しい家族関係移行に対し、母子の愛着形成の促進や育児技術獲得に向けた支援、心理社会的な適応を促す看護を理解する。子育てでは、育児期にある母子及びその家族を対象とし、育児期にある家族の現状と具体的支援方法について理解し、産褥期以降の継続された母子と家族のケアについて学ぶ。学生は実習を通して、マタニティサイクルにある対象の看護と子育て支援の方法を身につけ、生命の尊厳についての認識や自己の看護観を深めることができる。</p> <p>(梅野貴恵・野中智恵・渡邊めぐみ) (共同)</p>								
	到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	1	マタニティサイクルにある対象の特徴を身体的・心理的・社会的側面を統合して述べるができる	○		○				
	2	母性看護の対象者とその家族の持っている力を引き出しセルフケアを促進する看護過程展開を実施できる				○			
	3	産後の母子とその家族に対して必要な社会資源の活用について関係機関、関係職種との連携・協働も含めて述べるができる					○		
	4	母親のセルフケア能力、家族のサポートシステムを含めた母親役割獲得、育児技術獲得に向けた援助及びファミリーセンタード・ケアが実施できる		○			○		
	5	保健医療福祉チームの一員としての自覚と生命への畏敬の念を持ち、看護者として責任ある行動がとれる					○	○	
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間	担当教員					
	1	時期： 3年後期 9月～2月 1グループ2週間 7クール グループ： 1グループ4～6人 実習の構成： ①別府医療センター北2病棟実習+外来2日間 ②子育て支援（別府市主催）2人ずつ3か所に分かれて実習	事前：受け持ち対象となる妊娠期、産褥期の対象理解に関する自己学習を行う。子育て支援事業、乳幼児（3歳まで）の成長・発達について自己学習を行う。（8h）	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ					
	2	・実習記録はmoodleを活用したwebにて学生指導（担当教員とのみやり取りできるようにセキュリティをかける）		梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ					
	3	〈初日〉 ①実習病棟、産婦人科外来のオリエンテーション ②受け持ち妊産褥婦の選定（実習指導助産師と実習担当教員と相談） ③受け持ち妊産褥婦の情報収集 毎日のカンファレンステーマは、実習目的・目標に沿って、担当教員の助言をもらいながら、あらかじめ学生が主体的に計画し、進行は学生により実施する。		梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ					
	4	1週目 〈2日目以降〉 ①受け持ち妊産褥婦の情報収集、行動計画に則った妊産褥婦ケアの見学、一部実施 ②産婦人科外来に2名ずつローテーションで、2日間、妊婦健康診査を見学する ③受け持ち妊産褥婦のケア計画立案、実施（外来日でも朝の挨拶、環境整備は行い、ケアは外来日の午後に実施する） ④5日目を学内として、ケア計画を整理し、見学又は実施したケアをまとめ、担当教員から指導を受ける。 ＊初めてのケアを行う場合は、担当教員や実習指導者の指導の下に実施する。	(実習中) 受け持ち妊産褥婦の情報の整理、ケア計画の立案、日々の実習記録の作成、翌日の自己の実習目的の明確化と翌日のケアの予習、カンファレンステーマについての予習（3h/日）	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ					
	5	2週目 ①受け持ち妊産褥婦がいる場合は、計画した援助計画を実施、受け持ち妊産褥婦の反応を見ながら、計画を修正し実施する。 ②退院指導の一部を指導者の指導の下で実施する。 ③病院実習の最終日には、今実習での学びと課題を明確にして実習指導助産師、担当教員双方の参加のもとで、最終カンファレンスを行い、学びを共有する。実習指導助産師及び担当教員は学生が実習の学びを整理できるように助言を行う。	2週目 最終カンファレンスの前日までに、病棟実習・外来実習で学んだ内容をレポートし教員へ提出し、指導を受ける（3h/日）	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ					

授業計画	6	2週目 ①水曜日・木曜日の2日間は、2人ずつ子育て支援センターで実習する。支援員の指導をうけ、子育て中の母子とコミュニケーションを図り育児の悩み等を把握する。 ②5日目を学内日として、3施設での実習の学びを学内カンファレンスによって共有する。	子育て支援センターでの実習も日々の実習記録にまとめる（2h/日） 事後： 最終カンファレンスでの助言や学内カンファレンスをもとに、自己の学びの修正、実習記録の整理、ポートフォリオ作成（5h）	梅野 貴恵 野中 智恵 渡邊めぐみ			
履修条件や関連する科目等	履修条件：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ 関連科目：母性看護学概論 母性看護援助論Ⅱ 母性看護シミュレーション演習 基礎看護学領域の全科目 小児看護学領域の全科目						
（教科書）	医学書院 e-テキスト「系統看護学講座」母性看護学[1]母性看護学概論 母性看護学[2]母性看護学各論						
（参考書）							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標1			○		○	
	到達目標2			○		○	
	到達目標3			○	○		
	到達目標4			○	○	○	
	到達目標5			○		○	
（評価方法）	評価票による実習目標の達成状況と実習記録物、実習態度で評価します。 実習の欠席・遅刻・早退は減点の対象となります。						
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。						
学習相談及び学習成果のフィードバック	(1) 【研究室所在】【メールアドレス】moodleにメールアドレスを掲示しています。またmoodleのメッセージ機能からも連絡可能です。 【オフィスアワー】moodleにオフィスアワーの時間を掲示しています。必要に応じてはこの時間以外でも相談可能です。事前に上記のメールアドレスへ連絡を取り、予約を取っていただけましたら幸いです。 (2) レポートは授業中または授業後に返却します。タイムリーにアドバイスができるようにmoodleを活用して実施します。						
科目に含める必要事項	法令等に定められた授業						
学生へのメッセージ	助産師としての臨床経験を活かして実践例を示しながら授業します。						
ナリワザ	MTN-3-02-910						

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名						
	精神看護援助論				上野 恭子 栗林 好子 河野 修						
科目区分			対象学科								
専門分野 精神看護学			看護学部 看護学科								
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP							
3年次	前期	2	○	DP4							
授業概要	<p>(概要) 本講義は、精神看護学概論の知識と医学モデルに準じた障害や疾患の理解を基に代表的な精神疾患患者の援助方法を学修する。精神障害者の急性期症状出現時から回復期と社会復帰、地域生活を辿り、それぞれの時期の主な援助の考え方と方法について学ぶ。さらに精神障害者の家族への支援、ライフサイクルに特徴的な障害患者に対する看護を学修する。学生は、今後の「精神看護シミュレーション演習」と「精神看護学実習」で学修する上で基盤的で具体的な知識となるだけでなく、身体疾患患者のメンタルヘルスを考える際の知識を身につけることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (上野恭子/3回) 精神看護の基本的技法の理解と精神障がい者の家族の問題と看護、リエゾン精神看護について学修し理解を深める。 (栗林好子/8回) ・精神症状の理解と看護精神科治療時の看護師の役割と援助各種精神療法地域生活を支える看護を学ぶ。さらに、気分[感情]障害・神経症性障害、ストレス関連障害と支援、ライフサイクルと精神の障害について学修する。 (河野修/4回) ・入院初期の精神的安定を促す看護・回復期・社会復帰を目指す患者の看護を学修するとともに、オレム - アンダーウッドのセルフケア理論を活用した看護の考え方を学修する。さらに、精神作用物質使用による精神および行動の障害について学修する。</p>										
	No.	到達目標				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	1	精神症状のアセスメント法と主な疾患患者への看護方法の基本を説明できる							○		
	2	精神を病むものの生活のしづらさを生活障害として理解し、その軽減のためのアプローチ法を説明できる。							○		
	3	精神障害者が地域生活を行うための精神科リハビリテーションの種類や関連する専門職、諸制度について理解し、入院時からどのような看護が必要かを説明できる。							○		
4	精神障害者の家族が抱く苦悩を理解し、彼らへの支援に関する知識を理解できる。							○			
5											
授業計画	No.	授 業 内 容		授業時間外の学修の内容と時間		担当教員					
	1	ガイダンス 精神看護の基本的技法 ・患者－看護師関係における治療的關係（ペプロウの対人関係論より） ・安全感と看護 ・治療的コミュニケーション		シラバスをよく読み、授業内容と注意事項を理解しておくこと。精神看護学概論の資料等を復習しておく。(4h)		上野 恭子					
	2	精神症状の理解と看護 ・思考、感情、意欲、知覚、意識、記憶、局所症状、自我意識の障害		テキスト第1巻「精神科疾患のあらわれ方」の該当する症状の部分とすでに受講した関連科目「病態・治療論」の授業ノートに合わせて復習しておく(4h)		栗林 好子					
	3	精神科治療時の看護師の役割と援助 ・精神科薬物療法（アドヒアランス） ・電気痙攣療法		テキスト第1巻「精神科での治療」の該当する箇所を読んでおく。授業後に特に薬物療法について授業ノート等にまとめておく。(4h)		栗林 好子					
	4	・各種精神療法（心理教育、SST、認知行動療法、マインドフルネスなど） ・リラクセーション ・ほか		テキスト第1巻「精神科での治療」の該当する箇所を読んでおく。リラクセーションについては、各自体験しておく。(4h)		栗林 好子					
	5	入院初期の精神的安定を促す看護 ・発病初期・急性期の統合失調症患者の看護 ・入院時の人権擁護の方法を含む		統合失調症について、関連授業「病態・治療論」や「精神看護学概論」の資料やのノートを見て確認しておくこと。また、テキスト第1巻の「精神障害と法制度」を読んで授業に臨むこと。授業後に復習としてノートにまとめておく。(4h)		河野 修					
	6	回復期・社会復帰を目指す患者の看護 ・寛かい期や慢性期の統合失調症患者の看護 ・リカバリーモデル ・ストレングス、エンパワメント、レジリエンスを高める関わり		テキスト第2巻「回復を支援する」「地域におけるケアと支援」を読んでおく。授業後に復習としてノートにまとめておく。(4h)		河野 修					
	7	オレム - アンダーウッドのセルフケア理論の活用		精神看護学概論のセルフケアモデルの内容を振り返り、授業後に知識を確実のものにしておく。「精神看護シミュレーション演習」で実際に行う。(4h)		河野 修					
	8	地域生活を支える看護 精神障害者（統合失調症を中心に）の地域生活支援と諸制度 ・障害者総合支援、社会復帰施設、精神科訪問看護、デイケア、就労支援、WRAPなど精神障害者の生活支援に関連した制度やサービスなどの社会資源とその活用		テキスト第1巻「社会のなかの精神障害－精神障害と法制度」を熟読しておく。授業後に法律と制度を関連付けてまとめておく。(4h)		栗林 好子					

授業計画	9	精神障害者（統合失調症を中心に）の家族への問題と看護	授業内容をまとめておく。(4h)	上野 恭子				
	10	さまざまな精神疾患患者の看護 気分[感情]障害患者の看護	テキスト第1巻の該当する箇所と関連授業の資料等を読んで確認しておく。授業後に看護行為の根拠（判断/看護診断のポイント）を考えながらにまとめておく。(4h)	栗林 好子				
	11	神経症性障害、ストレス関連障害 ・不安障害、強迫症性障害 ・急性ストレス反応、心的外傷後ストレス障害、適応障害など	テキスト第1巻の該当する箇所と関連授業の資料等を読んで確認しておく。授業後に看護行為の根拠（判断/看護診断のポイント）を考えながらにまとめておく。(4h)	栗林 好子				
	12	精神作用物質使用による精神および行動の障害 ・アディクション（アルコール症） ・薬物（覚せい剤等）による行動の異常 ・家族支援 自助グループ	テキスト第1巻の該当する箇所と関連授業の資料等を読んで確認しておく。授業後に看護行為の根拠（判断/看護診断のポイント）を考えながらにまとめておく。(4h)	河野 修				
	13	ライフサイクルと精神の障害 ・発達障害（ASD,ADHDなど） ・パーソナリティ障害 ・摂食障害など	テキスト第1巻の該当する箇所と関連授業の資料等を読んで確認しておく。授業後に看護行為の根拠（判断/看護診断のポイント）を考えながらにまとめておく。(4h)	栗林 好子				
履修条件や関連する科目等	関連科目：病態・治療論 精神看護学概論 精神看護シミュレーション演習 精神看護学実習 基礎看護学領域の全科目 保健医療福祉行政論							
	医学書院 e-テキスト「系統看護学講座」精神看護学[1]精神看護の基礎 精神看護学[2]精神看護の展開							
	必要時、授業内で適宜紹介する。							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標 1		25%					
	到達目標 2		25%					
	到達目標 3		25%					
	到達目標 4		25%					
到達目標 5								
自由記述欄	期末試験では、15回分の学修成果を評価します。							
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。							
学習相談及び学修成果のフィードバック	(1) オフィスアワー・研究室 在室時は皆さんの質問に対応しますが、できるだけ事前にお問い合わせください。 (2) 学修成果のフィードバック 期末試験に関する答案等は研究室に保管していますので、事前に連絡のうえ、内容を確認することができます。							
科目を含める必要事項	特になし							
学生のメッセージ	(1) 提示された授業時間外学修を行い、授業で理解を深められるように準備しておく。 (2) 授業中に書き留めるノート（授業ノート）は自分のICTを活用してもよい。ただし、キーボードのタッチ音などで、授業の妨げ、他学生の集中妨害にならないように配慮すること。 (3) ここで学んだことを利用して、実際に「精神かごシミュレーション演習」で演習をすることになります。また、3年次の「精神看護学実習」でも活用できます。しっかり復習し、まとめておいてください。							
ナリウツ	PSN-2-02-910							

科目コード		科 目 名				担 当 教 員 名						
		精神看護援助論				上野 恭子 栗林 好子 河野 修						
科目区分		対象学科										
専門分野 精神看護学		看護学部 看護学科										
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP								
3年次	前期	2	○	DP4								
授業概要	(概要) 本講義は、精神看護学概論の知識と医学モデルに準じた障害や疾患の理解を基に代表的な精神疾患患者の援助方法を学修する。精神障害者の急性期症状出現時から回復期と社会復帰、地域生活を辿り、それぞれの時期の主な援助の考え方と方法について学ぶ。さらに精神障害者の家族への支援、ライフサイクルに特徴的な障害患者に対する看護を学修する。学生は、今後の「精神看護シミュレーション演習」と「精神看護学実習」で学修する上で基盤的で具体的な知識となるだけでなく、身体疾患患者のメンタルヘルスを考える際の知識を身につけることができる。 (オムニバス方式/全15回) (上野恭子/3回) 精神看護の基本的技法の理解と精神障がい者の家族の問題と看護、リエゾン精神看護について学修し理解を深める。 (栗林好子/8回) ・精神症状の理解と看護精神科治療時の看護師の役割と援助各種精神療法地域生活を支える看護を学ぶ。さらに、気分[感情]障害・神経症性障害、ストレス関連障害と支援、ライフサイクルと精神の障害について学修する。 (河野修/4回) ・入院初期の精神的安定を促す看護・回復期・社会復帰を目指す患者の看護を学修するとともに、オレム - アンダーウッドのセルフケア理論を活用した看護の考え方を学修する。さらに、精神作用物質使用による精神および行動の障害について学修する。											
	到達目標	No.	到達目標				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		1	精神症状のアセスメント法と主な疾患患者への看護方法の基本を説明できる							○		
		2	精神を病むものの生活のしづらさを生活障害として理解し、その軽減のためのアプローチ法を説明できる。							○		
		3	精神障害者が地域生活を行うための精神科リハビリテーションの種類や関連する専門職、諸制度について理解し、入院時からどのような看護が必要かを説明できる。							○		
4		精神障害者の家族が抱く苦悩を理解し、彼らへの支援に関する知識を理解できる。								○		
5												
授業計画	No.	授 業 内 容		授業時間外の学修の内容と時間		担当教員						
	1	ガイダンス 精神看護の基本的技法 ・患者－看護師関係における治療的関係（ペプロウの対人関係論より） ・安全感と看護 ・治療的コミュニケーション		シラバスをよく読み、授業内容と注意事項を理解しておくこと。精神看護学概論の資料等を復習しておく。(4h)		上野 恭子						
	2	精神症状の理解と看護 ・思考、感情、意欲、知覚、意識、記憶、局所症状、自我意識の障害		テキスト第1巻「精神科疾患のあらわれ方」の該当する症状の部分をとすでに受講した関連科目「病態・治療論」の授業ノートに合わせて復習しておく(4h)		栗林 好子						
	3	精神科治療時の看護師の役割と援助 ・精神科薬物療法（アドヒアランス） ・電気痙攣療法		テキスト第1巻「精神科での治療」の該当する箇所を読んでおく。授業後に特に薬物療法について授業ノート等にまとめておく。(4h)		栗林 好子						
	4	・各種精神療法（心理教育、SST、認知行動療法、マインドフルネスなど） ・リラクゼーション ・ほか		テキスト第1巻「精神科での治療」の該当する箇所を読んでおく。リラクゼーションについては、各自体験しておく。(4h)		栗林 好子						
	5	入院初期の精神的安定を促す看護 ・発病初期・急性期の統合失調症患者の看護 ・入院時の人権擁護の方法を含む		統合失調症について、関連授業「病態・治療論」や「精神看護学概論」の資料やのノートを見て確認しておくこと。また、テキスト第1巻の「精神障害と法制度」を読んで授業に臨むこと。授業後に復習としてノートにまとめておく。(4h)		河野 修						
	6	回復期・社会復帰を目指す患者の看護 ・寛かい期や慢性期の統合失調症患者の看護 ・リカバリーモデル ・ストレングス、エンパワメント、レジリエンスを高める関わり		テキスト第2巻「回復を支援する」「地域におけるケアと支援」を読んでおく。授業後に復習としてノートにまとめておく。(4h)		河野 修						
	7	オレム - アンダーウッドのセルフケア理論の活用		精神看護学概論のセルフケアモデルの内容を振り返り、授業後に知識を確実のものにしておく。「精神看護シミュレーション演習」で実際に行う。(4h)		河野 修						
8	地域生活を支える看護 精神障害者（統合失調症を中心に）の地域生活支援と諸制度 ・障害者総合支援、社会復帰施設、精神科訪問看護、デイケア、就労支援、WRAPなど精神障害者の生活支援に関連した制度やサービスなどの社会資源とその活用		テキスト第1巻「社会のなかの精神障害－精神障害と法制度」を熟読しておく。授業後に法律と制度を関連付けてまとめておく。(4h)		栗林 好子							

授業計画	9	精神障害者（統合失調症を中心に）の家族への問題と看護	授業内容をまとめておく。(4h)	上野 恭子				
	10	さまざまな精神疾患患者の看護 気分[感情]障害患者の看護	テキスト第1巻の該当する箇所と関連授業の資料等を読んで確認しておく。授業後に看護行為の根拠（判断/看護診断のポイント）を考えながらにまとめておく。(4h)	栗林 好子				
	11	神経症性障害、ストレス関連障害 ・不安障害、強迫症性障害 ・急性ストレス反応、心的外傷後ストレス障害、適応障害など	テキスト第1巻の該当する箇所と関連授業の資料等を読んで確認しておく。授業後に看護行為の根拠（判断/看護診断のポイント）を考えながらにまとめておく。(4h)	栗林 好子				
	12	精神作用物質使用による精神および行動の障害 ・アディクション（アルコール症） ・薬物（覚せい剤等）による行動の異常 ・家族支援 自助グループ	テキスト第1巻の該当する箇所と関連授業の資料等を読んで確認しておく。授業後に看護行為の根拠（判断/看護診断のポイント）を考えながらにまとめておく。(4h)	河野 修				
	13	ライフサイクルと精神の障害 ・発達障害（ASD,ADHDなど） ・パーソナリティ障害 ・摂食障害など	テキスト第1巻の該当する箇所と関連授業の資料等を読んで確認しておく。授業後に看護行為の根拠（判断/看護診断のポイント）を考えながらにまとめておく。(4h)	栗林 好子				
履修条件や関連する科目等	関連科目：病態・治療論 精神看護学概論 精神看護シミュレーション演習 精神看護学実習 基礎看護学領域の全科目 保健医療福祉行政論							
	医学書院 e-テキスト「系統看護学講座」精神看護学[1]精神看護の基礎 精神看護学[2]精神看護の展開							
(教科書)								
(参考書)	必要時、授業内で適宜紹介する。							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標 1		25%					
	到達目標 2		25%					
	到達目標 3		25%					
	到達目標 4		25%					
到達目標 5								
(自由記述欄)	期末試験では、15回分の学修成果を評価します。							
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。							
学習相談及び学修成果のフィードバック	(1) オフィスアワー・研究室 在室時は皆さんの質問に対応しますが、できるだけ事前にアポイントを取ってください。 (2) 学修成果のフィードバック 期末試験に関する答案等は研究室に保管していますので、事前に連絡のうえ、内容を確認することができます。							
法等に定められ授業科目に含まれる必要事項	特になし							
学生のメッセージその他	(1) 提示された授業時間外学修を行い、授業で理解を深められるように準備しておく。 (2) 授業中に書き留めるノート（授業ノート）は自分のICTを活用してもよい。ただし、キーボードのタッチ音などで、授業の妨げ、他学生の集中妨害にならないように配慮すること。 (3) ここで学んだことを利用して、実際に「精神かごシミュレーション演習」で演習をすることになります。また、3年次の「精神看護学実習」でも活用できます。しっかり復習し、まとめておいてください。							
ナリツク	PSN-2-02-910							

(別紙12) 新

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名				
	国際看護活動論				桑野 紀子 原田千恵子				
科目区分			対象学科						
専門分野 国際看護学			看護学部 看護学科						
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP					
4年次	後期	1		DP6					
授業概要	<p>(概要)本講義では、国際的な医療支援や人道活動、開発援助における看護の役割、異なる文化や環境での看護実践の実際を学び、グローバルな視点で看護を考えることを目的とする。異なる社会状況や健康保険システムの理解を通じて、それぞれの地域のニーズに応じた看護を理解する。学生は、言語や文化の違いを越えた看護ケアの重要性、国際法、倫理、安全性なども理解し、国際看護活動の実践における法的・倫理的枠組みを考察することができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (桑野紀子/4回) グローバルヘルスについて、開発途上国の健康課題について、開発途上国における国際看護展開、国際的看護活動で看護専門職に求められる能力について学修する。 (原田千恵子/4回) 国際協力のしくみについて、異文化・多文化を考慮した看護について学修する (原田千恵子/4回)</p>								
	到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	1	グローバル化の概念やグローバル化が健康に与える影響について学び、世界の健康問題を理解する。							○
	2	世界の保健医療を支える組織や機関について学び、開発途上国の健康課題について理解する。							○
	3	訪日外国人、在留外国人、在外日本人の保健医療とその課題について理解する。							○
	4	異文化・多文化を考慮した看護を考え、看護職である自分自身の果たす役割について述べるができる。							○
	5								
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間	担当教員					
	1	グローバルヘルスについて グローバル化が健康に与える影響 世界の健康問題の現状と課題	事前：テキストを熟読し、履修上の疑問点を明確にする (2h) 事後：身近に起きているグローバル化が健康に与える影響について考察する (2h)	桑野 紀子					
	2	開発途上国の健康課題について 貧困と健康格差 リプロダクティブヘルスに関する課題 母子保健対策	事前：テキストを熟読、母性看護学概論との関連を考えながら母子保健対策について考察する (2h) 事後：リプロダクティブヘルス、母子保健の課題について自分の考えをまとめることができる (2h)	桑野 紀子					
	3	開発途上国における国際看護の展開 事例紹介を通して情報収集、分析および問題の明確化	事前：事例の事前配布資料を熟読する (2h) 事後：事例紹介を通して展開した看護過程をまとめる (2h)	桑野 紀子					
	4	国際的看護活動で看護専門職に求められる能力について 国際協力における看護の実際 国際的看護活動の実際	事前：テキストを熟読し、国際的看護活動で看護職に求められる能力について考察し、履修上の疑問点を明確にしておく (2h) 事後：国際協力や国際的看護活動の実際を知り、看護職である私たちにできることを考察する (2h)	桑野 紀子					
	5	国際協力の仕組みについて 国際救援・保健医療協力分野で活躍する国際機関について SDGs とユニバーサルヘルスカバレッジ (UHC) について	事前：保健医療に関わるSDGsの目標について熟読しておく。JICAのHPからユニバーサルヘルスカバレッジ (UHC) の箇所について熟読し、履修上の疑問点を明確にしておく (2h) 事後：SDGsの目標達成のために私たちにできることを考察する (2h)	原田千恵子					
	6	異文化・多文化を考慮した看護① 訪日外国人・在留外国人、在外日本人の保健医療について 外国人が日本で経験する医療文化の違いについて	事前：「国民衛生の動向」を基に、近年の外国人動向について調べておく。様々な背景や文化を持つ外国人が日本で医療を受ける上で困難と感ずるであろう内容を考察しておく (2h) 事後：事例課題 (レポート提出) (2h)	原田千恵子					
7	異文化・多文化を考慮した看護② 保険医療現場において言葉や文化の違いを考慮した外国人への看護実践について 外国人患者の診療を支援する他職種 (医療通訳) や病院の体制について 事例課題をグループ毎に発表、学びの共有	事前：事前に渡した事例課題をグループごとに考え、プレゼンテーションの内容を熟考、学習を深め、準備を進める (2h) 事後：事例課題 (レポート提出) (2h)	原田千恵子						

8	異文化・多文化を考慮した看護③ 在日外国人のゲストスピーカーを招いて日本での患者体験についての語り (質疑応答の時間あり)	事前：英語でのスピーチも考えられるため、医療英語、医療コミュニケーションの復習をしておくよ。質疑応答に英語で対応できるように準備しておく (2h) 事後：ゲストスピーカーの話聞いて学びをまとめる。(2h)	原田千恵子					
履修条件や関連する科目等	関連科目：医療英語コミュニケーション、国際関係論、海外研修							
教科書	医学書院 e-テキスト「系統看護学講座」看護の統合と実践[3]災害看護・国際看護							
参考文献	南裕子監修「国際看護学、グローバル・ナーシングに向けての展開」中山書房 森叔江、山田智恵理、正木治恵編集「国際看護、国際社会の中で看護の力を発揮するために」南江堂 近藤麻里「知って考えて実践する国際看護」医学書院							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標 1				50%			
	到達目標 2					20%	5%	
	到達目標 3							
	到達目標 4				20%		5%	
到達目標 5								
評価方法	初回の講義で、国際看護活動論の課題レポートを提示します。第7回の講義では事例課題をグループごとに行いプレゼンテーションしてもらいます。事例課題は事前に講義の中で提示します。講義中のグループでの討議の姿勢や発表態度も評価対象とします。国際看護活動論の課題レポートは調査をしっかりと行い、情報に基づいて自分の言葉で考察してください。レポートの評価基準をしっかりと読んで臨んでください。							
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。							
学習相談及び学習成果のフィードバック	課題レポートや事例課題について質問があるときは、授業内またはオフィスパワーを活用し質問に来てください。 【オフィスパワー】 moodleにオフィスパワーの時間を掲示しています。必要に応じてはこの時間以外でも相談可能です。事前に上記のメールアドレスへ連絡をとってください。							
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	特になし							
学生のメッセージ	日頃から、国際的な時事問題や医療、看護に関心を持って積極的に情報をとるように習慣づけてください。別府には多くの訪日外国人、在留外国人、留学生が住まれています。医療現場で外国人患者の看護を実践する機会も少なくないことが予想されます。異文化・多文化理解を深め、外国人患者のその人らしい生活を支援する方法について学んでください。海外研修での異文化体験を共有する機会にもなります。また、海外研修の参加を考えている方は、是非この講義で異文化理解を深めてください。							
ナリガ	INN-2-01-910							

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名				
	国際看護活動論				桑野 紀子 原田千恵子				
科目区分			対象学科						
専門分野 国際看護学			看護学部 看護学科						
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP					
4年次	後期	1		DP6					
授業概要	<p>(概要)本講義では、国際的な医療支援や人道活動、開発援助における看護の役割、異なる文化や環境での看護実践の実際を学び、グローバルな視点で看護を考えることを目的とする。異なる社会状況や健康保険システムの理解を通じて、それぞれの地域のニーズに応じた看護を理解する。学生は、言語や文化の違いを越えた看護ケアの重要性、国際法、倫理、安全性なども理解し、国際看護活動の実践における法的・倫理的枠組みを考察することができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (桑野紀子/4回) グローバルヘルスについて、開発途上国の健康課題について、開発途上国における国際看護展開、国際的看護活動で看護専門職に求められる能力について学修する。 (原田千恵子/4回) 国際協力のしくみについて、異文化・多文化を考慮した看護について学修する (原田千恵子/4回)</p>								
	到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	1	グローバル化の概念やグローバル化が健康に与える影響について学び、世界の健康問題を理解する。							○
	2	世界の保健医療を支える組織や機関について学び、開発途上国の健康課題について理解する。							○
	3	訪日外国人、在留外国人、在外日本人の保健医療とその課題について理解する。					○	○	
	4	異文化・多文化を考慮した看護を考え、看護職である自分自身の果たす役割について述べるができる。					○	○	
	5								
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間			担当教員			
	1	グローバルヘルスについて グローバル化が健康に与える影響 世界の健康問題の現状と課題	事前：テキストを熟読し、履修上の疑問点を明確にする (2h) 事後：身近に起きているグローバル化が健康に与える影響について考察する (2h)			桑野 紀子			
	2	開発途上国の健康課題について 貧困と健康格差 リプロダクティブヘルスに関する課題 母子保健対策	事前：テキストを熟読、母性看護学概論との関連を考えながら母子保健対策について考察する (2h) 事後：リプロダクティブヘルス、母子保健の課題について自分の考えをまとめることができる (2h)			桑野 紀子			
	3	開発途上国における国際看護の展開 事例紹介を通して情報収集、分析および問題の明確化	事前：事例の事前配布資料を熟読する (2h) 事後：事例紹介を通して展開した看護過程をまとめる (2h)			桑野 紀子			
	4	国際的看護活動で看護専門職に求められる能力について 国際協力における看護の実際 国際的看護活動の実際	事前：テキストを熟読し、国際的看護活動で看護職に求められる能力について考察し、履修上の疑問点を明確にしておく (2h) 事後：国際協力や国際的看護活動の実際を知り、看護職である私たちにできることを考察する (2h)			桑野 紀子			
	5	国際協力の仕組みについて 国際救援・保健医療協力分野で活躍する国際機関について SDGs とユニバーサルヘルスカバレッジ (UHC) について	事前：保健医療に関わるSDGsの目標について熟読しておく。JICAのHPからユニバーサルヘルスカバレッジ (UHC) の箇所について熟読し、履修上の疑問点を明確にしておく (2h) 事後：SDGsの目標達成のために私たちにできることを考察する (2h)			原田千恵子			
	6	異文化・多文化を考慮した看護① 訪日外国人・在留外国人、在外日本人の保健医療について 外国人が日本で経験する医療文化の違いについて	事前：「国民衛生の動向」を基に、近年の外国人動向について調べておく。様々な背景や文化を持つ外国人が日本で医療を受ける上で困難と感ずるであろう内容を考察しておく (2h) 事後：事例課題 (レポート提出) (2h)			原田千恵子			
	7	異文化・多文化を考慮した看護② 保険医療現場において言葉や文化の違いを考慮した外国人への看護実践について 外国人患者の診療を支援する他職種 (医療通訳) や病院の体制について 事例課題をグループ毎に発表、学びの共有	事前：事前に渡した事例課題をグループごとに考え、プレゼンテーションの内容を熟考、学習を深め、準備を進める (2h) 事後：事例課題 (レポート提出) (2h)			原田千恵子			

	8	異文化・多文化を考慮した看護③ 在日外国人のゲストスピーカーを招いて日本での患者体験についての語り (質疑応答の時間あり)	事前：英語でのスピーチも考えられるため、医療英語、医療コミュニケーションの復習をしておくよ。質疑応答に英語で対応できるように準備しておく (2h) 事後：ゲストスピーカーの話聞いて学びをまとめる。(2h)	原田千恵子				
履修条件や関連する科目等	関連科目：医療英語コミュニケーション、国際関係論、海外研修							
教科書	医学書院 e-テキスト「系統看護学講座」看護の統合と実践[3]災害看護・国際看護							
参考文献	南裕子監修「国際看護学、グローバル・ナーシングに向けての展開」中山書房 森叔江、山田智恵理、正木治恵編集「国際看護、国際社会の中で看護の力を発揮するために」南江堂 近藤麻里「知って考えて実践する国際看護」医学書院							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標 1				50%			
	到達目標 2					20%	5%	
	到達目標 3							
	到達目標 4				20%		5%	
	到達目標 5							
評価方法	初回の講義で、国際看護活動論の課題レポートを提示します。第7回の講義では事例課題をグループごとに行いプレゼンテーションしてもらいます。事例課題は事前に講義の中で提示します。講義中のグループでの討議の姿勢や発表態度も評価対象とします。国際看護活動論の課題レポートは調査をしっかりと行い、情報に基づいて自分の言葉で考察してください。レポートの評価基準をしっかりと読んで臨んでください。							
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。							
学習相談及び学習成果のフィードバック	課題レポートや事例課題について質問があるときは、授業内またはオフィスパワーを活用し質問に来てください。 【オフィスパワー】 moodleにオフィスパワーの時間を掲示しています。必要に応じてはこの時間以外でも相談可能です。事前に上記のメールアドレスへ連絡をとってください。							
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	特になし							
学生のメッセージ	日頃から、国際的な時事問題や医療、看護に関心を持って積極的に情報をとるよう習慣づけてください。別府には多くの訪日外国人、在留外国人、留学生が住まれています。医療現場で外国人患者の看護を実践する機会も少なくないことが予想されます。異文化・多文化理解を深め、外国人患者のその人らしい生活を支援する方法について学んでください。海外研修での異文化体験を共有する機会にもなります。また、海外研修の参加を考えている方は、是非この講義で異文化理解を深めてください。							
ナリガ	INN-2-01-910							

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名
	総合看護実習				梅野 貴恵 藤内 美保 鈴木 智子 松永 智子 高野 政子 上野 恭子 本松美和子 深野 久美 田中 佳子 岩崎 景子 首藤八千子 青木奈緒子 野津美香子 栗林 好子 吉村 幸永 吉田まつみ 原田千恵子 野中 智恵 渡邊めぐみ 河野 修
科目区分			対象学科		
専門分野 看護の統合と発展			看護学部 看護学科		
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP	
4年次	前期	3	○	DP4, DP5, DP6	

授業概要

本実習は、これまで学修してきたすべての看護学実習を基盤とし、個々の学生が学んだ知識・技術・態度を統合して導き出した課題を明確にし、課題解決に取り組む実習であり、看護専門職としてのレディネスを高めることを目標とする。この実習では、学生の目標に沿った実習施設で、学生は看護専門職としての能力を自己評価し、さらに深めたい学習課題を明確にして、主体的・自律的に、個別の実習の計画・実施・評価を行う。この実習を通して学生は、将来のキャリアを見据え、看護専門職としての自己の看護観が明確になり、看護専門職としての役割、責務、態度、自律性について自己の成長をふまえて考察することができる。(梅野貴恵・藤内美保・鈴木智子・松永智子・高野政子・上野恭子・本松美和子・深野久美・田中佳子・岩崎景子・首藤八千子・青木奈緒子・野津美香子・栗林好子・吉村幸永・吉田まつみ・原田千恵子・野中智恵・渡邊めぐみ・河野修)(共同)

到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	1	将来のキャリアを見据え、深めたい自己の学習課題を明らかにできる						○
	2	選択した領域の実習目標を考慮し、自己の学習課題に即した実習計画を主体性をもって計画できる						○
	3	個別に作成した実習計画にそって、主体的に看護を実施できる。				○		
	4	実習計画および実施内容を評価し、自己の看護専門職としての能力を客観性をもって判断することができる。				○		
	5	保健医療福祉チームの一員としての自覚を持ち、看護者として責任ある行動がとれる					○	

授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間	担当教員
	1	実習1日目：学内準備 1) 担当教員は、学生個々に、実習の目的・目標・具体的な実習計画・評価表の作成を支援する。	事前準備：実習オリエンテーション 下記の準備ができていることを確認 ・学生は、これまでに経験したすべての臨地実習での学びを統合し、安全かつ的確に看護を提供するために必要な知識、技術、役割遂行能力、他職種との連携・協働などの資質や態度について深く洞察し、各自が課題と判断した能力を獲得できるように、主体的に実習計画を立てる。 ・担当教員は、その実習計画の実現可能性を探り、学生を中心として計画を完成させる。(3h)	梅野貴恵・松永智子・藤内美保・鈴木智子・高野政子・上野恭子・本松美和子・深野久美・田中佳子・岩崎景子・首藤八千子・青木奈緒子・野津美香子・栗林好子・吉村幸永・吉田まつみ・原田千恵子・野中智恵・渡邊めぐみ・河野修
	2	実習2日目～4日目：臨地実習 1) 各領域における実習施設で、学生個々の計画に沿った実習を実施 2) 毎日、担当教員とのプレカンファレンス及びポストカンファレンスを実施	実習記録の整理、学習内容の考察 (3h/日)	梅野貴恵・松永智子・藤内美保・鈴木智子・高野政子・上野恭子・本松美和子・深野久美・田中佳子・岩崎景子・首藤八千子・青木奈緒子・野津美香子・栗林好子・吉村幸永・吉田まつみ・原田千恵子・野中智恵・渡邊めぐみ・河野修
	3	実習5日目：学内実習 1) 個々の実習の1週目の達成状況の評価 2) 必要な計画の修正	実習記録の整理、学習内容の考察 (3h/日)	梅野貴恵・松永智子・藤内美保・鈴木智子・高野政子・上野恭子・本松美和子・深野久美・田中佳子・岩崎景子・首藤八千子・青木奈緒子・野津美香子・栗林好子・吉村幸永・吉田まつみ・原田千恵子・野中智恵・渡邊めぐみ・河野修
	4	実習6日目～9日目：臨地実習 1) 軌道修正した計画における実習を実施 2) 毎日、担当教員とのプレカンファレンス及びポストカンファレンスを実施	実習記録の整理、学習内容の考察 (3h/日)	梅野貴恵・松永智子・藤内美保・鈴木智子・高野政子・上野恭子・本松美和子・深野久美・田中佳子・岩崎景子・首藤八千子・青木奈緒子・野津美香子・栗林好子・吉村幸永・吉田まつみ・原田千恵子・野中智恵・渡邊めぐみ・河野修
	5	実習10日目：学内実習 1) 個々の実習の2週目の達成状況の評価 2) 3週目の実習の課題の明確化 3) 必要な計画の修正	実習記録の整理、学習内容の考察 (3h/日)	梅野貴恵・松永智子・藤内美保・鈴木智子・高野政子・上野恭子・本松美和子・深野久美・田中佳子・岩崎景子・首藤八千子・青木奈緒子・野津美香子・栗林好子・吉村幸永・吉田まつみ・原田千恵子・野中智恵・渡邊めぐみ・河野修

授業計画	6	実習11日目～13日目：臨地実習 1) 軌道修正した計画における実習を実施 2) 毎日、担当教員とのプレカンファレンス及びポストカンファレンスを実施	実習記録の整理、学習内容の考察 (3h/日)	梅野貴恵・松永智子・藤内美保・鈴木智子・高野政子・上野恭子・本松美和子・深野久美・田中佳子・岩崎景子・首藤八千子・青木奈緒子・野津美香子・栗林好子・吉村幸永・吉田まつみ・原田千恵子・野中智恵・渡邊めぐみ・河野修
	7	実習14日目：臨地での評価会議 1) 実習指導看護師とともに、実習の目標達成度について詳細を話し合	実習記録の整理、学習内容の考察 (3h/日)	梅野貴恵・松永智子・藤内美保・鈴木智子・高野政子・上野恭子・本松美和子・深野久美・田中佳子・岩崎景子・首藤八千子・青木奈緒子・野津美香子・栗林好子・吉村幸永・吉田まつみ・原田千恵子・野中智恵・渡邊めぐみ・河野修
	8	実習15日目：学内実習 1) 担当教員との評価面接 2) 提出物の記録	実習記録の整理、学習内容の考察 (3h/日)	梅野貴恵・松永智子・藤内美保・鈴木智子・高野政子・上野恭子・本松美和子・深野久美・田中佳子・岩崎景子・首藤八千子・青木奈緒子・野津美香子・栗林好子・吉村幸永・吉田まつみ・原田千恵子・野中智恵・渡邊めぐみ・河野修

履修条件や関連科目等

履修条件：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、地域・在宅看護学実習Ⅰ、地域・在宅看護学実習Ⅱ、成人看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱ、老年看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習
関連科目：基盤ゼミ導入演習、基盤ゼミ発展演習

教科書

医学書院 e-テキスト「系統看護学講座」：選択した実習のテーマに沿ってテキストを活用

(授業資料)

評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標 1			10%		10%	
	到達目標 2			10%		10%	
	到達目標 3			10%		10%	
	到達目標 4			10%		10%	
	到達目標 5			10%		10%	

(自由記述欄)

学生個々が設定した個別の評価表に基づく

基準等

・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。

学習相談及び学習成果のフィードバック

実習中は、担当教員が臨地で指導します。その他は、各自アポイントを取って、指導を受けてください。

法令等に定められた事項

学生へのメッセージ

この実習では、個々が感じている看護実践能力に関する課題を明確にし、その課題解決のために可能な目標と実習計画を立て、実施し評価していきます。教員は、そのことの実現可能性を共に検討し、実習計画の作成・実施を支援し、個々の課題解決のために円滑に学修を進めていくことができるように関わります。3週間の実習が終了した時の成長をイメージして、目の階段を上っていきましょう。

ナラビア

GNN-3-01-910

科目コード		科 目 名			担 当 教 員 名				
		総合看護実習			梅野 貴恵 藤内 美保 鈴木 智子 松永 智子 上野 恭子 本松美和子 深野 久美 古屋 肇子 田中 佳子 岩崎 景子 首藤八千子 青木奈緒子 野津美香子 栗林 好子 吉村 幸永 吉田まつみ 原田千恵子 野中 智恵 渡邊めぐみ 河野 修				
科目区分		対象学科							
専門分野 看護の統合と発展		看護学部 看護学科							
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP					
4年次	前期	3	○	DP4, DP5, DP6					
授業概要	<p>本実習は、これまで学修してきたすべての看護学実習を基盤とし、個々の学生が学んだ知識・技術・態度を統合して導き出した課題を明確にし、課題解決に取り組む実習であり、看護専門職としてのレディネスを高めることを目標とする。</p> <p>この実習では、学生の目標に沿った実習施設で、学生は看護専門職としての能力を自己評価し、さらに深めたい学習課題を明確にして、主体的・自律的に、個別の実習の計画・実施・評価を行う。</p> <p>この実習を通して学生は、将来のキャリアを見据え、看護専門職としての自己の看護観が明確になり、看護専門職としての役割、責務、態度、自律性について自己の成長をふまえて考察することができる。</p> <p>(梅野貴恵・藤内美保・鈴木智子・松永智子・上野恭子・本松美和子・深野久美・古屋肇子・田中佳子・岩崎景子・首藤八千子・青木奈緒子・野津美香子・栗林好子・吉村幸永・吉田まつみ・原田千恵子・野中智恵・渡邊めぐみ・河野修) (共同)</p>								
	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	
	1	将来のキャリアを見据え、深めたい自己の学習課題を明らかにできる							○
	2	選択した領域の実習目標を考慮し、自己の学習課題に即した実習計画を主体性をもって計画できる							○
	3	個別に作成した実習計画にそって、主体的に看護を実施できる。				○			
	4	実習計画および実施内容を評価し、自己の看護専門職としての能力を客観性をもって判断することができる。						○	
5	保健医療福祉チームの一員としての自覚を持ち、看護者として責任ある行動がとれる						○		
到達目標	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間		担当教員				
	1	<p>実習1日目：学内準備</p> <p>1) 担当教員は、学生個々に、実習の目的・目標・具体的な実習計画・評価表の作成を支援する。</p>	<p>事前準備：実習オリエンテーション 下記の準備ができていることを確認 ・学生は、これまでに経験したすべての臨地実習での学びを統合し、安全かつ的確に看護を提供するために必要な知識、技術、役割遂行能力、他職種との連携・協働などの資質や態度について深く洞察し、各自が課題と判断した能力を獲得できるように、主体的に実習計画を立てる。 ・担当教員は、その実習計画の実現可能性を探り、学生を中心として計画を完成させる。(3h)</p>		梅野貴恵・松永智子・藤内美保・鈴木智子・上野恭子・本松美和子・深野久美・古屋肇子・田中佳子・岩崎景子・首藤八千子・青木奈緒子・野津美香子・栗林好子・吉村幸永・吉田まつみ・原田千恵子・野中智恵・渡邊めぐみ・河野修				
	2	<p>実習2日目～4日目：臨地実習</p> <p>1) 各領域における実習施設で、学生個々の計画に沿った実習を実施</p> <p>2) 毎日、担当教員とのプレカンファレンス及びポストカンファレンスを実施</p>	実習記録の整理、学習内容の考察 (3h/日)		梅野貴恵・松永智子・藤内美保・鈴木智子・上野恭子・本松美和子・深野久美・古屋肇子・田中佳子・岩崎景子・首藤八千子・青木奈緒子・野津美香子・栗林好子・吉村幸永・吉田まつみ・原田千恵子・野中智恵・渡邊めぐみ・河野修				
	3	<p>実習5日目：学内実習</p> <p>1) 個々の実習の1週目の達成状況の評価</p> <p>2) 必要な計画の修正</p>	実習記録の整理、学習内容の考察 (3h/日)		梅野貴恵・松永智子・藤内美保・鈴木智子・上野恭子・本松美和子・深野久美・古屋肇子・田中佳子・岩崎景子・首藤八千子・青木奈緒子・野津美香子・栗林好子・吉村幸永・吉田まつみ・原田千恵子・野中智恵・渡邊めぐみ・河野修				
	4	<p>実習6日目～9日目：臨地実習</p> <p>1) 軌道修正した計画における実習を実施</p> <p>2) 毎日、担当教員とのプレカンファレンス及びポストカンファレンスを実施</p>	実習記録の整理、学習内容の考察 (3h/日)		梅野貴恵・松永智子・藤内美保・鈴木智子・上野恭子・本松美和子・深野久美・古屋肇子・田中佳子・岩崎景子・首藤八千子・青木奈緒子・野津美香子・栗林好子・吉村幸永・吉田まつみ・原田千恵子・野中智恵・渡邊めぐみ・河野修				
	5	<p>実習10日目：学内実習</p> <p>1) 個々の実習の2週目の達成状況の評価</p> <p>2) 3週目の実習の課題の明確化</p> <p>3) 必要な計画の修正</p>	実習記録の整理、学習内容の考察 (3h/日)		梅野貴恵・松永智子・藤内美保・鈴木智子・上野恭子・本松美和子・深野久美・古屋肇子・田中佳子・岩崎景子・首藤八千子・青木奈緒子・野津美香子・栗林好子・吉村幸永・吉田まつみ・原田千恵子・野中智恵・渡邊めぐみ・河野修				

授業計画	6	<p>実習11日目～13日目：臨地実習</p> <p>1) 軌道修正した計画における実習を実施</p> <p>2) 毎日、担当教員とのプレカンファレンス及びポストカンファレンスを実施</p>	実習記録の整理、学習内容の考察 (3h/日)	梅野貴恵・松永智子・藤内美保・鈴木智子・上野恭子・本松美和子・深野久美・古屋肇子・田中佳子・岩崎景子・首藤八千子・青木奈緒子・野津美香子・栗林好子・吉村幸永・吉田まつみ・原田千恵子・野中智恵・渡邊めぐみ・河野修					
	7	<p>実習14日目：臨地での評価会議</p> <p>1) 実習指導看護師とともに、実習の目標達成度について詳細を話し合</p>	実習記録の整理、学習内容の考察 (3h/日)	梅野貴恵・松永智子・藤内美保・鈴木智子・上野恭子・本松美和子・深野久美・古屋肇子・田中佳子・岩崎景子・首藤八千子・青木奈緒子・野津美香子・栗林好子・吉村幸永・吉田まつみ・原田千恵子・野中智恵・渡邊めぐみ・河野修					
	8	<p>実習15日目：学内実習</p> <p>1) 担当教員との評価面接</p> <p>2) 提出物の記録</p>	実習記録の整理、学習内容の考察 (3h/日)	梅野貴恵・松永智子・藤内美保・鈴木智子・上野恭子・本松美和子・深野久美・古屋肇子・田中佳子・岩崎景子・首藤八千子・青木奈緒子・野津美香子・栗林好子・吉村幸永・吉田まつみ・原田千恵子・野中智恵・渡邊めぐみ・河野修					
履修条件や関連科目等	履修条件：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、地域・在宅看護学実習Ⅰ、地域・在宅看護学実習Ⅱ、成人看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱ、老年看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習 関連科目：基盤ゼミ導入演習、基盤ゼミ発展演習								
教科書	医学書院 e-テキスト「系統看護学講座」：選択した実習のテーマに沿ってテキストを活用								
(授業資料)	評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発 表	授業の取組み姿勢	その他
		到達目標 1							20%
		到達目標 2							20%
		到達目標 3							20%
		到達目標 4							20%
		到達目標 5							20%
(自由記述欄)	学生個々が設定した個別の評価表に基づく								
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。								
学習相談及び学習成果のフィードバック	実習中は、担当教員が臨地で指導します。その他は、各自アポイントを取って、指導を受けてください。								
科目に含まれた事項									
学生へのメッセージ	<p>この実習では、個々が感じている看護実践能力に関する課題を明確にし、その課題解決のために可能な目標と実習計画を立て、実施し評価していきます。</p> <p>教員は、そのことの実現可能性を共に検討し、実習計画の作成・実施を支援し、個々の課題解決のために円滑に学修を進めていくことができるように関わります。</p> <p>3週間の実習が終了した時の成長をイメージして、目の前の階段を上っていきましょう。</p>								
ナ/リ/ク	GNN-3-01-910								

(別紙14) 新

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名																																																		
	公衆衛生看護活動展開論 I				赤星 琴美 榮田 絹代 高本佳代子																																																		
科目区分			対象学科																																																				
専門分野 公衆衛生看護学			看護学部 看護学科																																																				
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP																																																			
3年次	前期	2	○	DP4, DP5																																																			
授業概要	<p>本講義は、疾病や傷害の有無に関わらず、地域に生活する「各ライフステージの人々」、「あらゆる健康レベルの人々」を対象に、個人・家族・対象者が属する生活集団全体を視野に入れ、健康障害の発生を未然に防ぐことを重視した公衆衛生看護活動の考え方と活動方法を理解する。母子、成人、高齢者における健康課題とその保健医療福祉対策を法令や制度の歴史の変遷、社会資源と関連させながら理解し、健康への支援を行う公衆衛生看護活動を学ぶ。保健活動において基本となる個から集団・地域、集団・地域から個の支援のつながり、各保健事業のつながり、多機関のつながりを学び、包括的な視野で保健活動を展開できる知識を習得することができる。また、公衆衛生看護活動における地区・組織活動の意義を理解し、グループ・地域組織の育成から地域活動への発展に向けた支援および協働活動の特徴と方法を理解することができる。</p> <p>(共同(一部)/全15回) (赤星琴美/12回)</p> <p>母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動、システムを構築・管理する公衆衛生看護活動について、健康課題とその保健医療福祉対策を法令や制度の歴史の変遷、社会資源と関連させながら理解する。個から集団・地域、集団・地域から個の支援のつながり、各保健事業のつながり、多機関のつながりを学び、包括的な視野で保健活動を展開できる知識を習得する。</p> <p>(赤星琴美・榮田絹代・高本佳代子/3回)(共同)</p> <p>母子保健計画・地区活動、成人保健活動、高齢者保健活動の展開についてグループワークによって学修する。</p>																																																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>到達目標</th> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> <th>DP4</th> <th>DP5</th> <th>DP6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>地域で生活する個人・家族、集団、地域を対象としたライフステージ別(母子、成人、高齢者)保健活動について説明できる。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域で生活する個人・家族、集団、地域を対象とした地区・組織活動の意義を理解し、グループ・地域組織の育成から地域活動への発展に向けた支援および協働活動の特徴と方法を説明できる。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>個から集団、地域、集団、地域から個の支援のつながり、各保健事業のつながり、多機関のつながりについて説明できる。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	1	地域で生活する個人・家族、集団、地域を対象としたライフステージ別(母子、成人、高齢者)保健活動について説明できる。				○			2	地域で生活する個人・家族、集団、地域を対象とした地区・組織活動の意義を理解し、グループ・地域組織の育成から地域活動への発展に向けた支援および協働活動の特徴と方法を説明できる。				○	○		3	個から集団、地域、集団、地域から個の支援のつながり、各保健事業のつながり、多機関のつながりについて説明できる。				○	○		4								5						
No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6																																																
1	地域で生活する個人・家族、集団、地域を対象としたライフステージ別(母子、成人、高齢者)保健活動について説明できる。				○																																																		
2	地域で生活する個人・家族、集団、地域を対象とした地区・組織活動の意義を理解し、グループ・地域組織の育成から地域活動への発展に向けた支援および協働活動の特徴と方法を説明できる。				○	○																																																	
3	個から集団、地域、集団、地域から個の支援のつながり、各保健事業のつながり、多機関のつながりについて説明できる。				○	○																																																	
4																																																							
5																																																							
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間			担当教員																																																	
	1	ライフステージ別保健活動 母子保健活動① 母子保健の理念と歴史の変遷、関係法規と子育て支援に関する施策	テキスト第1章1を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美																																																	
	2	ライフステージ別保健活動 母子保健活動② 母子保健対策、乳幼児健康診査	テキスト第1章1を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美																																																	
	3	ライフステージ別保健活動 母子保健活動③ 児童虐待予防	テキスト第1章1を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美																																																	
	4	ライフステージ別保健活動 母子保健活動④ 母子保健計画、地区活動の展開 (グループワーク)	テキスト第1章1を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美 榮田 絹代 高本佳代子																																																	
	5	ライフステージ別保健活動 成人保健活動① 成人保健の理念と歴史の変遷、関係法規と成人保健に関する施策	テキスト第1章2を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美																																																	
	6	ライフステージ別保健活動 成人保健活動② 成人期の生活習慣病の現状と生活習慣病対策の概要	テキスト第1章2を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美																																																	
	7	ライフステージ別保健活動 成人保健活動③ 特定健康診査・特定保健指導	テキスト第1章2を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美																																																	
	8	ライフステージ別保健活動 成人保健活動④ 生活習慣病予防活動の展開	テキスト第1章2を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美																																																	
	9	ライフステージ別保健活動 成人保健活動④ 生活習慣病予防活動の展開 (グループワーク)	テキスト第1章2を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美 榮田 絹代 高本佳代子																																																	

授業計画	10	ライフステージ別保健活動 高齢者保健活動① 高齢者保健の理念と歴史の変遷、関係法規と高齢者保健に関する施策	テキスト第1章3を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美			
	11	ライフステージ別保健活動 高齢者保健活動② 社会的孤立の実態と住民主体のフレイル予防	テキスト第1章3を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美			
	12	ライフステージ別保健活動 高齢者保健活動③ 孤立予防・フレイル予防をめざした高齢者保健活動の展開	テキスト第1章3を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美			
	13	ライフステージ別保健活動 高齢者保健活動④ 孤立予防・フレイル予防をめざした高齢者保健活動の展開(グループワーク)	テキスト第1章3を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美 榮田 絹代 高本佳代子			
	14	システムを構築・管理する公衆衛生看護活動① 切れ目のない母子保健システム	テキスト第4章1を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美			
15	システムを構築・管理する公衆衛生看護活動② 地域包括ケアシステム	テキスト第4章2を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美				
履修条件や関連する科目等	関連科目：公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護支援論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護活動論Ⅰ～Ⅳ、公衆衛生看護管理Ⅰ・Ⅱ、保険医療福祉行政論、保健医療福祉行政活動論						
(テキスト)	岡本玲子編 第3巻 公衆衛生看護活動Ⅰ 第2版 2022 医歯薬出版株式会社						
(参考文献)	日本看護協会監修「保健師業務要覧 第4版」(2019年)日本看護協会出版会 公衆衛生がみえる 2022-2023/医学情報科学研究所(編集)/メディックメディア 国民衛生の動向 2022-2023 第69巻第9号/厚生労働統計協会/厚生労働統計協会						
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標1	15%		10%	5%	5%	
	到達目標2	15%		10%	5%	5%	
	到達目標3	15%		5%	5%	5%	
	到達目標4						
	到達目標5						
(自由記述欄)							
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。						
学習相談及び学習成果のフィードバック	レポートは評価後、授業中に解説を行い、後日返却します。 期末試験に関する答案等は研究室に保管していますので、事前に連絡のうえ内容を確認することができます。 【研究室所在】【メールアドレス】moodleにメールアドレスを掲示しています。またmoodleのメッセージ機能からも連絡可能です。 【オフィスアワー】moodleにオフィスアワーの時間を掲示しています。必要に応じてはこの時間以外でも相談可能です。事前に上記のメールアドレスへ連絡を取り、予約を取っていただけましたら幸いです。						
法令等に定められた授業科目に含むべき事項							
その他	毎回の授業最後にmoodle内でミニツペーパーの提出が求められます。(ICT活用) ※保健師課程を選択した履修生は必修の科目です。						
ナバツグ	PUN-2-03-910						

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名																																																	
	公衆衛生看護活動展開論 I				赤星 琴美 榮田 絹代 高本佳代子																																																	
科目区分			対象学科																																																			
専門分野 公衆衛生看護学			看護学部 看護学科																																																			
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP																																																		
3年次	前期	2	○	DP4, DP5																																																		
授業概要	<p>本講義は、疾病や傷害の有無に関わらず、地域に生活する「各ライフステージの人々」、「あらゆる健康レベルの人々」を対象に、個人・家族・対象者が属する生活集団全体を視野に入れ、健康障害の発生を未然に防ぐことを重視した公衆衛生看護活動の考え方と活動方法を理解する。母子、成人、高齢者における健康課題とその保健医療福祉対策を法令や制度の歴史の変遷、社会資源と関連させながら理解し、健康への支援を行う公衆衛生看護活動を学ぶ。保健活動において基本となる個から集団・地域、集団・地域から個の支援のつながり、各保健事業のつながり、多機関のつながりを学び、包括的な視野で保健活動を展開できる知識を習得することができる。また、公衆衛生看護活動における地区・組織活動の意義を理解し、グループ・地域組織の育成から地域活動への発展に向けた支援および協働活動の特徴と方法を理解することができる。</p> <p>(共同(一部)/全15回) (赤星琴美/12回)</p> <p>母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動、システムを構築・管理する公衆衛生看護活動について、健康課題とその保健医療福祉対策を法令や制度の歴史の変遷、社会資源と関連させながら理解する。個から集団・地域、集団・地域から個の支援のつながり、各保健事業のつながり、多機関のつながりを学び、包括的な視野で保健活動を展開できる知識を習得する。</p> <p>(赤星琴美・榮田絹代・高本佳代子/3回)(共同)</p> <p>母子保健計画・地区活動、成人保健活動、高齢者保健活動の展開についてグループワークによって学修する。</p>																																																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>到達目標</th> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> <th>DP4</th> <th>DP5</th> <th>DP6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>地域で生活する個人・家族、集団、地域を対象としたライフステージ別(母子、成人、高齢者)保健活動について説明できる。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域で生活する個人・家族、集団、地域を対象とした地区・組織活動の意義を理解し、グループ・地域組織の育成から地域活動への発展に向けた支援および協働活動の特徴と方法を説明できる。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>個から集団、地域、集団、地域から個の支援のつながり、各保健事業のつながり、多機関のつながりについて説明できる。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	1	地域で生活する個人・家族、集団、地域を対象としたライフステージ別(母子、成人、高齢者)保健活動について説明できる。			○	○			2	地域で生活する個人・家族、集団、地域を対象とした地区・組織活動の意義を理解し、グループ・地域組織の育成から地域活動への発展に向けた支援および協働活動の特徴と方法を説明できる。			○	○	○		3	個から集団、地域、集団、地域から個の支援のつながり、各保健事業のつながり、多機関のつながりについて説明できる。			○	○	○		4								5						
No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6																																															
1	地域で生活する個人・家族、集団、地域を対象としたライフステージ別(母子、成人、高齢者)保健活動について説明できる。			○	○																																																	
2	地域で生活する個人・家族、集団、地域を対象とした地区・組織活動の意義を理解し、グループ・地域組織の育成から地域活動への発展に向けた支援および協働活動の特徴と方法を説明できる。			○	○	○																																																
3	個から集団、地域、集団、地域から個の支援のつながり、各保健事業のつながり、多機関のつながりについて説明できる。			○	○	○																																																
4																																																						
5																																																						
到達目標	No. 授 業 内 容						担当教員																																															
	1	ライフステージ別保健活動 母子保健活動① 母子保健の理念と歴史の変遷、関係法規と子育て支援に関する施策	テキスト第1章1を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美																																																
	2	ライフステージ別保健活動 母子保健活動② 母子保健対策、乳幼児健康診査	テキスト第1章1を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美																																																
	3	ライフステージ別保健活動 母子保健活動③ 児童虐待予防	テキスト第1章1を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美																																																
	4	ライフステージ別保健活動 母子保健活動④ 母子保健計画、地区活動の展開 (グループワーク)	テキスト第1章1を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美 榮田 絹代 高本佳代子																																																
	5	ライフステージ別保健活動 成人保健活動① 成人保健の理念と歴史の変遷、関係法規と成人保健に関する施策	テキスト第1章2を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美																																																
	6	ライフステージ別保健活動 成人保健活動② 成人期の生活習慣病の現状と生活習慣病対策の概要	テキスト第1章2を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美																																																
	7	ライフステージ別保健活動 成人保健活動③ 特定健康診査・特定保健指導	テキスト第1章2を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美																																																
	8	ライフステージ別保健活動 成人保健活動④ 生活習慣病予防活動の展開	テキスト第1章2を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美																																																
	9	ライフステージ別保健活動 成人保健活動④ 生活習慣病予防活動の展開 (グループワーク)	テキスト第1章2を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美 榮田 絹代 高本佳代子																																																

授業計画	10	ライフステージ別保健活動 高齢者保健活動① 高齢者保健の理念と歴史の変遷、関係法規と高齢者保健に関する施策	テキスト第1章3を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美				
	11	ライフステージ別保健活動 高齢者保健活動② 社会的孤立の実態と住民主体のフレイル予防	テキスト第1章3を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美				
	12	ライフステージ別保健活動 高齢者保健活動③ 孤立予防・フレイル予防をめざした高齢者保健活動の展開	テキスト第1章3を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美				
	13	ライフステージ別保健活動 高齢者保健活動④ 孤立予防・フレイル予防をめざした高齢者保健活動の展開(グループワーク)	テキスト第1章3を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美 榮田 絹代 高本佳代子				
	14	システムを構築・管理する公衆衛生看護活動① 切れ目のない母子保健システム	テキスト第4章1を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美				
15	システムを構築・管理する公衆衛生看護活動② 地域包括ケアシステム	テキスト第4章2を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)	赤星 琴美					
履修条件や関連する科目等	関連科目：公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護支援論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護活動論Ⅰ～Ⅳ、公衆衛生看護管理Ⅰ・Ⅱ、保険医療福祉行政論、保健医療福祉行政活動論							
(テキスト)	岡本玲子編 第3巻 公衆衛生看護活動Ⅰ 第2版 2022 医歯薬出版株式会社							
(授業参考書)	日本看護協会監修「保健師業務要覧 第4版」(2019年)日本看護協会出版会 公衆衛生がみえる 2022-2023/医学情報科学研究所(編集)/メディックメディア 国民衛生の動向 2022-2023 第69巻第9号/厚生労働統計協会/厚生労働統計協会							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標1		15%		10%	5%	5%	
	到達目標2		15%		10%	5%	5%	
	到達目標3		15%		5%	5%	5%	
	到達目標4							
(自由記述欄)								
	基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。						
学習相談及び学習成果のフィードバック	レポートは評価後、授業中に解説を行い、後日返却します。 期末試験に関する答案等は研究室に保管していますので、事前に連絡のうえ内容を確認することができます。 【研究室所在】【メールアドレス】moodleにメールアドレスを掲示しています。またmoodleのメッセージ機能からも連絡可能です。 【オフィスアワー】moodleにオフィスアワーの時間を掲示しています。必要に応じてはこの時間以外でも相談可能です。事前に上記のメールアドレスへ連絡を取り、予約を取っていただけましたら幸いです。							
法令等に定められた授業科目に含むべき事項								
その他	毎回の授業最後にmoodle内でミニツペーパーの提出が求められます。(ICT活用) ※保健師課程を選択した履修生は必修の科目です。							
ナバツガ	PUN-2-03-910							

科目コード	科 目 名					担 当 教 員 名		
	公衆衛生看護管理論Ⅰ					赤星 琴美		
科目区分			対象学科					
専門分野 公衆衛生看護学			看護学部 看護学科					
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP				
4年次	前期	2	○	DP4, DP5				
授業概要	本講義は、公衆衛生看護管理の構成要素、専門的自律と人材育成方法について学ぶ。 具体的には保健師活動における公衆衛生看護管理の目的と機能、事例管理、事業・業務管理、地区管理、情報管理、健康危機管理、組織・運営管理、人材育成・人材管理、予算管理、地域ケアの質の保証、保健師教育について学ぶ。また、個々の課題を集団の健康課題として捉え、地域の健康課題に対する解決・改善に向けた事業を展開するための情報収集、アセスメント、計画立案、関係部署、期間、住民への説明・調整・協議・交渉、予算案の作成、実施、評価について理解することができる。							
	到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
1		公衆衛生看護管理の目的、基本的な考え方を理解し、公衆衛生看護管理機能の定義と特徴、必要性について説明できる。				○	○	
2		公衆衛生看護管理の仕組み、方法について説明できる。				○	○	
3		健康課題解決に向けた保健活動の展開および事業化・施策化の必要性とそのプロセスを説明できる。				○	○	
4		管理期・統括保健師の役割・機能を説明でき、保健師としてどのように成長していくのか考えられる。				○	○	
5								
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間			担当教員		
	1	公衆衛生看護管理の定義と活動の基礎	テキスト第5章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美		
	2	公衆衛生看護管理の実際① ～事例管理、業務管理～	テキスト第5章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美		
	3	公衆衛生看護管理の実際② ～地区管理～	テキスト第5章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美		
	4	公衆衛生看護管理の実際③ ～予算管理、情報管理～	テキスト第5章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美		
	5	公衆衛生看護管理の実際④ ～人材育成、人事管理、組織・運営管理～	テキスト第5章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美		
	6	公衆衛生看護管理の実際⑤ ～PDCAに基づく保健活動の展開～	テキスト第5章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美		
	7	公衆衛生看護管理の実際⑥ ～地域ケアの質の保証～	テキスト第5章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美		
	8	管理期・統括保健師の役割・機能 ～組織の中での管理期にある保健師の活動、統括保健師の役割・機能～ ～大分県の保健師活動、ならびに人材育成の実際～	テキスト第3・5章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美		
	9	地域の健康課題解決に向けた公衆衛生看護管理① ～地域における児童虐待防止対策～	moodle内の教材を確認しておくこと(2h) 公衆衛生看護展開論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護展開論Ⅰ～Ⅳでの学習内容を復習しておく。(2h)			赤星 琴美		
	10	地域の健康課題解決に向けた公衆衛生看護管理② ～地域における難病患者と家族への支援対策～	moodle内の教材を確認しておくこと(2h) 公衆衛生看護展開論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護展開論Ⅰ～Ⅳでの学習内容を復習しておく。(2h)			赤星 琴美		
11	保健活動計画① ～保健計画策定・施策化の意義、プロセス～	moodle内の教材を確認しておくこと(2h) 公衆衛生看護展開論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護展開論Ⅰ～Ⅳでの学習内容を復習しておく。(2h)			赤星 琴美			

授業計画	12	保健活動計画② ～保健活動の計画立案・実施・評価の展開～(グループワーク)	moodle内の教材を確認しておくこと(2h) 公衆衛生看護展開論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護展開論Ⅰ～Ⅳでの学習内容を復習しておく。(2h)	赤星 琴美				
	13	保健活動計画③ ～保健活動の計画立案・実施・評価の展開～(グループワーク)	moodle内の教材を確認しておくこと(2h) 公衆衛生看護展開論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護展開論Ⅰ～Ⅳでの学習内容を復習しておく。(2h)	赤星 琴美				
	14	保健活動計画④ ～保健活動の計画立案・実施・評価の展開～(グループワーク)	moodle内の教材を確認しておくこと(2h) 公衆衛生看護展開論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護展開論Ⅰ～Ⅳでの学習内容を復習しておく。(2h)	赤星 琴美				
	15	保健活動計画⑤ ～保健事業計画の発表～	moodle内の教材を確認しておくこと(2h) 公衆衛生看護展開論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護展開論Ⅰ～Ⅳでの学習内容を復習しておく。(2h)	赤星 琴美				
履修条件や関連する科目等	関連科目：公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学支援論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護学活動展開論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、公衆衛生看護管理論Ⅱ、保健医療福祉行政活動論、保健医療福祉行政活動論							
(テキスト)	麻原きよみ編 第1巻 公衆衛生看護学原論 第2版 2022 医歯薬出版株式会社							
(参考資料)	日本看護協会監修「新版 保健師業務要覧 第4版」(2022年)日本看護協会出版会 「国民衛生の動向 2023/2024年版」(2023年)厚生統計協会 公衆衛生がみえる 2022-2023/医学情報科学研究所(編集)/メディックメディア							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標1		15%				5%	
	到達目標2		15%		5%	5%	5%	
	到達目標3		10%		5%	5%	5%	
	到達目標4		10%		5%	5%	5%	
	到達目標5							
(自由記述欄)								
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。							
学習相談及び学習成果のフィードバック	レポートは評価後、授業中に解説を行い、後日返却します。 期末試験に関する答案等は研究室に保管していますので、事前に連絡のうえ内容を確認することができます。 【研究室所在】【メールアドレス】moodleにメールアドレスを掲示しています。またmoodleのメッセージ機能からも連絡可能です。 【オフィスアワー】moodleにオフィスアワーの時間を掲示しています。必要に応じてはこの時間以外でも相談可能です。事前に上記のメールアドレスへ連絡を取り、予約を取っていただけましたら幸いです。							
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	特になし							
学生へのメッセージ	毎回の授業最後にmoodle内でミニッツペーパーの提出が求められます。(ICT活用) ※保健師課程選択者は必修の履修科目です							
ナリワリ	PUN-2-07-910							

科目コード	科 目 名					担 当 教 員 名		
	公衆衛生看護管理論Ⅰ					赤星 琴美		
科目区分			対象学科					
専門分野 公衆衛生看護学			看護学部 看護学科					
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP				
4年次	前期	2	○	DP4, DP5				
授業概要	本講義は、公衆衛生看護管理の構成要素、専門的自律と人材育成方法について学ぶ。具体的には保健師活動における公衆衛生看護管理の目的と機能、事例管理、事業・業務管理、地区管理、情報管理、健康危機管理、組織・運営管理、人材育成・人材管理、予算管理、地域ケアの質の保証、保健師教育について学ぶ。また、個々の課題を集団の健康課題として捉え、地域の健康課題に対する解決・改善に向けた事業を展開するための情報収集、アセスメント、計画立案、関係部署、期間、住民への説明・調整・協議・交渉、予算案の作成、実施、評価について理解することができる。							
	到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
1		公衆衛生看護管理の目的、基本的な考え方を理解し、公衆衛生看護管理機能の定義と特徴、必要性について説明できる。			○	○	○	
2		公衆衛生看護管理の仕組み、方法について説明できる。			○	○	○	
3		健康課題解決に向けた保健活動の展開および事業化・施策化の必要性とそのプロセスを説明できる。			○	○	○	
4		管理期・統括保健師の役割・機能を説明でき、保健師としてどのように成長していくのか考えられる。			○	○	○	
5								
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間			担当教員		
	1	公衆衛生看護管理の定義と活動の基礎	テキスト第5章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美		
	2	公衆衛生看護管理の実際① ～事例管理、業務管理～	テキスト第5章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美		
	3	公衆衛生看護管理の実際② ～地区管理～	テキスト第5章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美		
	4	公衆衛生看護管理の実際③ ～予算管理、情報管理～	テキスト第5章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美		
	5	公衆衛生看護管理の実際④ ～人材育成、人事管理、組織・運営管理～	テキスト第5章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美		
	6	公衆衛生看護管理の実際⑤ ～PDCAに基づく保健活動の展開～	テキスト第5章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美		
	7	公衆衛生看護管理の実際⑥ ～地域ケアの質の保証～	テキスト第5章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美		
	8	管理期・統括保健師の役割・機能 ～組織の中での管理期にある保健師の活動、統括保健師の役割・機能～ ～大分県の保健師活動、ならびに人材育成の実際～	テキスト第3・5章を熟読しておくこと(2h) moodle内の教材を確認しておくこと(2h)			赤星 琴美		
	9	地域の健康課題解決に向けた公衆衛生看護管理① ～地域における児童虐待防止対策～	moodle内の教材を確認しておくこと(2h) 公衆衛生看護展開論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護展開論Ⅰ～Ⅳでの学習内容を復習しておく。(2h)			赤星 琴美		
	10	地域の健康課題解決に向けた公衆衛生看護管理② ～地域における難病患者と家族への支援対策～	moodle内の教材を確認しておくこと(2h) 公衆衛生看護展開論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護展開論Ⅰ～Ⅳでの学習内容を復習しておく。(2h)			赤星 琴美		
11	保健活動計画① ～保健計画策定・施策化の意義、プロセス～	moodle内の教材を確認しておくこと(2h) 公衆衛生看護展開論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護展開論Ⅰ～Ⅳでの学習内容を復習しておく。(2h)			赤星 琴美			

授業計画	12	保健活動計画② ～保健活動の計画立案・実施・評価の展開～(グループワーク)	moodle内の教材を確認しておくこと(2h) 公衆衛生看護展開論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護展開論Ⅰ～Ⅳでの学習内容を復習しておく。(2h)	赤星 琴美				
	13	保健活動計画③ ～保健活動の計画立案・実施・評価の展開～(グループワーク)	moodle内の教材を確認しておくこと(2h) 公衆衛生看護展開論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護展開論Ⅰ～Ⅳでの学習内容を復習しておく。(2h)	赤星 琴美				
	14	保健活動計画④ ～保健活動の計画立案・実施・評価の展開～(グループワーク)	moodle内の教材を確認しておくこと(2h) 公衆衛生看護展開論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護展開論Ⅰ～Ⅳでの学習内容を復習しておく。(2h)	赤星 琴美				
	15	保健活動計画⑤ ～保健事業計画の発表～	moodle内の教材を確認しておくこと(2h) 公衆衛生看護展開論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護展開論Ⅰ～Ⅳでの学習内容を復習しておく。(2h)	赤星 琴美				
履修条件や関連する科目等	関連科目：公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学支援論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護学活動展開論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、公衆衛生看護管理論Ⅱ、保健医療福祉行政活動論、保健医療福祉行政活動論							
(テキスト)	麻原きよみ編 第1巻 公衆衛生看護学原論 第2版 2022 医歯薬出版株式会社							
(参考資料)	日本看護協会監修「新版 保健師業務要覧 第4版」(2022年)日本看護協会出版会 「国民衛生の動向 2023/2024年版」(2023年)厚生統計協会 公衆衛生がみえる 2022-2023/医学情報科学研究所(編集)/メディックメディア							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標1		15%				5%	
	到達目標2		15%		5%	5%	5%	
	到達目標3		10%		5%	5%	5%	
	到達目標4		10%		5%	5%	5%	
	到達目標5							
(自由記述欄)								
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。							
学習相談及び学習成果のフィードバック	レポートは評価後、授業中に解説を行い、後日返却します。 期末試験に関する答案等は研究室に保管していますので、事前に連絡のうえ内容を確認することができます。 【研究室所在】【メールアドレス】moodleにメールアドレスを掲示しています。またmoodleのメッセージ機能からも連絡可能です。 【オフィスアワー】moodleにオフィスアワーの時間を掲示しています。必要に応じてはこの時間以外でも相談可能です。事前に上記のメールアドレスへ連絡を取り、予約を取っていただけましたら幸いです。							
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	特になし							
学生へのメッセージ	毎回の授業最後にmoodle内でミニッツペーパーの提出が求められます。(ICT活用) ※保健師課程選択者は必修の履修科目です							
ナリワリ	PUN-2-07-910							

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名				
	公衆衛生看護学実習Ⅰ				赤星 琴美 榮田 絹代 高本佳代子				
科目区分			対象学科						
専門分野 公衆衛生看護学			看護学部 看護学科						
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP					
4年次	前期	3	○	DP4, DP5, DP6					
授業概要	本実習は、保健所や市町村の保健センターにて保健師の役割と保健活動の実践を学ぶ。地域看護診断に基づいた健康課題を理解し、地域の健康課題を包括的にとらえ、課題を解決するための公衆衛生看護活動の方法と実際の活動について学ぶ。また、地域で生活する人びとの健康レベルを把握し、疾病予防や健康の保持増進を目的として行われる家庭訪問や健康教育や健康相談の実践を学ぶ。さらに、事例管理、事業・業務管理、地区管理、情報管理、健康危機管理、組織・運営管理、人材育成・人材管理、予算管理の実践について学ぶ。具体的には、保健相談や健康診断、地域イベントの企画など、幅広い保健師の業務に参加し、地域住民とのコミュニケーションや協力関係の構築を基に、地域の健康ニーズに合ったアプローチ方法を身につけることができる。(赤星琴美・榮田絹代・高本佳代子) (共同)								
	到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		1	保健行政機関(保健所、市町村)の機能と役割、それぞれの組織・構造・専門職種と協働して行う保健師活動の目的や役割が説明できる。					○	
		2	地域住民および保健・医療・福祉の関係機関との連携・協働の実践を学び、地域における協働活動のあり方を説明できる。					○	
		3	保健所管轄地域の健康に関する情報を収集し、地域の健康問題を解決する方法やその過程を理解する。				○		
4		地域の健康問題に対して、保健所および市町村で実施している保健事業(各種会議を含む)への参加および個別への支援により、公衆衛生看護活動の基盤となる知識や技術、態度を身につける。				○			
5	公衆衛生看護活動を展開するうえでの管理的な活動について理解する。					○	○		
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間			担当教員			
	1	【1週目(保健所)】*実習計画に沿って実習を行う。 ＜初日＞ ①実習地のオリエンテーションを受ける。 ②地域診断により抽出した健康課題と実習計画を発表する。 ③地域の集団援助活動、個別援助活動に参加する。 ＜2日目～5日目＞ ①地域の集団援助活動、個別援助活動に参加する。 ②健康課題に関する対象(領域)に対する個別援助活動(家庭訪問、健康相談、保健指導等)を実施する。 ＜カンファレンス＞ 3日目：中間カンファレンスを行い、実習目標の達成状況の確認、目標達成のために今後の実習に必要なことを討議する。 最終日：保健所実習最終カンファレンスを行い、実習を通しての学びを発表する。	実習前：(10h) ①公衆衛生看護科目および関連科目の復習をする。特に、保健所、保健センターに関する法律、活動の対象や活動内容、関係機関・関係職種について理解しておく。 ②参加する事業等の目的・法的根拠・対象(発育・発達、病態など含)を復習する。 ③実習市の各領域の社会資源、保健体系についてノートに整理する。 ④抽出した健康課題に対して、実習計画を立案する。 ⑤実施予定の健康教育の企画案を作成する。			赤星 琴美 榮田 絹代 高本佳代子			
	2	【2週目(市町村)】*実習計画に沿って実習を行う。 ＜初日＞ ①実習地のオリエンテーションを受ける。 ②地域診断により抽出した健康課題と実習計画を発表する。 ③地域の集団援助活動、個別援助活動に参加する。 ＜2～5日目＞ ①地域の集団援助活動、個別援助活動に参加する。 ②健康課題に関する対象(領域)に対する個別援助活動(家庭訪問、健康相談、保健指導等)を実施する。 ＜カンファレンス＞ 5日目：中間カンファレンスを行い、実習目標の達成状況の確認、目標達成のために今後の実習に必要なことを討議する。	実習中：(毎日1h) ①実習記録を整理する。 ②参加する保健事業等や家庭訪問の対象者について、必要な情報収集を行う。 ③実習まとめ資料を作成する。			赤星 琴美 榮田 絹代 高本佳代子			
	3	【3週目(市町村)】*実習計画に沿って実習を行う。 ＜6～10日目＞ ①地域の集団援助活動、個別援助活動に参加する。 ②健康課題に関する対象(領域)に対する個別援助活動(家庭訪問、健康相談、保健指導等)を実施する。 ＜カンファレンス＞ 最終日： ①市町村実習最終カンファレンスを行い、実習を通しての学びを発表する。 ②保健所・市町村実習統合の最終カンファレンスを行い、実習全体を通して目的・目標の達成等についても討議する。	実習後：(2h) ①実習記録を整理し、不足している学習を適宜行う。			赤星 琴美 榮田 絹代 高本佳代子			
履修条件や関連する科目等	関連科目：公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論、保健医療福祉行政活動論、公衆衛生看護支援論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生活動展開論Ⅰ～Ⅳ、公衆衛生看護管理論Ⅰ・Ⅱ								

(テキスト)	医歯薬出版：第1巻 公衆衛生看護学原論 第2版 第2巻 公衆衛生看護の方法と技術 第3巻 公衆衛生看護活動Ⅰ 第2版 第4巻 公衆衛生看護活動Ⅱ 2024年版 学校保健・産業保健第2版							
(参考資料)	日本看護協会監修「保健師業務要覧 第4版」(2019年)日本看護協会出版会 「国民衛生の動向 2023/2024年版」(2023年)厚生統計協会							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標1				10%			
	到達目標2				10%			
	到達目標3				10%	10%	10%	
	到達目標4				10%	10%	10%	
到達目標5				10%		10%		
(自由記述欄)	実習態度、事業等参加状況、健康教育実践状況、実習記録、最終提出物、カンファレンス参加状況、地域診断まとめて、評価を行います。							
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。							
学習相談及び学習成果のフィードバック	実習記録、最終提出物は後日返却します。							
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	特になし							
学生へのメッセージ	住民の方々と多く関わる実習です。自らの体調を整えて多くの人と接することができるよう準備をしてください。また、自分自身が感染源にならないことも大切です。健康管理に気を付けて過ごしてください。 保健所と市町村保健師活動、地域看護診断、健康教育、健康相談、家庭訪問等、保健活動に伴う法的根拠については、必ず事前学習してから実習に臨んでください。 ※保健師課程選択者は必修の履修科目です							
ナカリゲ	PUN-3-01-910							

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名				
	公衆衛生看護学実習Ⅰ				赤星 琴美 榮田 絹代 高本佳代子				
科目区分			対象学科						
専門分野 公衆衛生看護学			看護学部 看護学科						
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP					
4年次	前期	3	○	DP4, DP5, DP6					
授業概要	本実習は、保健所や市町村の保健センターにて保健師の役割と保健活動の実践を学ぶ。地域看護診断に基づいた健康課題を理解し、地域の健康課題を包括的にとらえ、課題を解決するための公衆衛生看護活動の方法と実際の活動について学ぶ。また、地域で生活する人びとの健康レベルを把握し、疾病予防や健康の保持増進を目的として行われる家庭訪問や健康教育や健康相談の実践を学ぶ。さらに、事例管理、事業・業務管理、地区管理、情報管理、健康危機管理、組織・運営管理、人材育成・人材管理、予算管理の実践について学ぶ。具体的には、保健相談や健康診断、地域イベントの企画など、幅広い保健師の業務に参加し、地域住民とのコミュニケーションや協力関係の構築を基に、地域の健康ニーズに合ったアプローチ方法を身につけることができる。(赤星琴美・榮田絹代・高本佳代子) (共同)								
	到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		1	保健行政機関(保健所、市町村)の機能と役割、それぞれの組織・構造・専門職種と協働して行う保健師活動の目的や役割が説明できる。			○			
		2	地域住民および保健・医療・福祉の関係機関との連携・協働の実践を学び、地域における協働活動のあり方を説明できる。					○	
		3	保健所管轄地域の健康に関する情報を収集し、地域の健康問題を解決する方法やその過程を理解する。			○	○		
		4	地域の健康問題に対して、保健所および市町村で実施している保健事業(各種会議を含む)への参加および個別への支援により、公衆衛生看護活動の基盤となる知識や技術、態度を身につける。		○	○			
5		公衆衛生看護活動を展開するうえでの管理的な活動について理解する。					○	○	
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間			担当教員			
	1	【1週目(保健所)】*実習計画に沿って実習を行う。 ＜初日＞ ①実習地のオリエンテーションを受ける。 ②地域診断により抽出した健康課題と実習計画を発表する。 ③地域の集団援助活動、個別援助活動に参加する。 ＜2日目～5日目＞ ①地域の集団援助活動、個別援助活動に参加する。 ②健康課題に関する対象(領域)に対する個別援助活動(家庭訪問、健康相談、保健指導等)を実施する。 ＜カンファレンス＞ 3日目：中間カンファレンスを行い、実習目標の達成状況の確認、目標達成のために今後の実習に必要なことを討議する。 最終日：保健所実習最終カンファレンスを行い、実習を通しての学びを発表する。	実習前：(10h) ①公衆衛生看護科目および関連科目の復習をする。特に、保健所、保健センターに関する法律、活動の対象や活動内容、関係機関・関係職種について理解しておく。 ②参加する事業等の目的・法的根拠・対象(発育・発達、病態など含)を復習する。 ③実習市の各領域の社会資源、保健体系についてノートに整理する。 ④抽出した健康課題に対して、実習計画を立案する。 ⑤実施予定の健康教育の企画案を作成する。			赤星 琴美 榮田 絹代 高本佳代子			
	2	【2週目(市町村)】*実習計画に沿って実習を行う。 ＜初日＞ ①実習地のオリエンテーションを受ける。 ②地域診断により抽出した健康課題と実習計画を発表する。 ③地域の集団援助活動、個別援助活動に参加する。 ＜2～5日目＞ ①地域の集団援助活動、個別援助活動に参加する。 ②健康課題に関する対象(領域)に対する個別援助活動(家庭訪問、健康相談、保健指導等)を実施する。 ＜カンファレンス＞ 5日目：中間カンファレンスを行い、実習目標の達成状況の確認、目標達成のために今後の実習に必要なことを討議する。	実習中：(毎日1h) ①実習記録を整理する。 ②参加する保健事業等や家庭訪問の対象者について、必要な情報収集を行う。 ③実習まとめ資料を作成する。			赤星 琴美 榮田 絹代 高本佳代子			
	3	【3週目(市町村)】*実習計画に沿って実習を行う。 ＜6～10日目＞ ①地域の集団援助活動、個別援助活動に参加する。 ②健康課題に関する対象(領域)に対する個別援助活動(家庭訪問、健康相談、保健指導等)を実施する。 ＜カンファレンス＞ 最終日： ①市町村実習最終カンファレンスを行い、実習を通しての学びを発表する。 ②保健所・市町村実習統合の最終カンファレンスを行い、実習全体を通して目的・目標の達成等についても討議する。	実習後：(2h) ①実習記録を整理し、不足している学習を適宜行う。			赤星 琴美 榮田 絹代 高本佳代子			
履修条件や関連する科目等	関連科目：公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論、保健医療福祉行政活動論、公衆衛生看護支援論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生活動展開論Ⅰ～Ⅳ、公衆衛生看護管理論Ⅰ・Ⅱ								

(テキスト)教科書	医歯薬出版：第1巻 公衆衛生看護学原論 第2版 第2巻 公衆衛生看護の方法と技術 第3巻 公衆衛生看護活動Ⅰ 第2版 第4巻 公衆衛生看護活動Ⅱ 2024年版 学校保健・産業保健第2版							
(授業資料)参考文献	日本看護協会監修「保健師業務要覧 第4版」(2019年)日本看護協会出版会 「国民衛生の動向 2023/2024年版」(2023年)厚生統計協会							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標1				10%			
	到達目標2				10%			
	到達目標3				10%	10%	10%	
	到達目標4				10%	10%	10%	
	到達目標5				10%		10%	
(自由記述欄)評価方法	実習態度、事業等参加状況、健康教育実践状況、実習記録、最終提出物、カンファレンス参加状況、地域診断まとめて、評価を行います。							
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。							
学習相談及び学習成果のフィードバック	実習記録、最終提出物は後日返却します。							
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	特になし							
学生へのメッセージ	住民の方々と多く関わる実習です。自らの体調を整えて多くの人と接することができるよう準備をしてください。また、自分自身が感染源にならないことも大切です。健康管理に気を付けて過ごしてください。 保健所と市町村保健師活動、地域看護診断、健康教育、健康相談、家庭訪問等、保健活動に伴う法的根拠については、必ず事前学習してから実習に臨んでください。 ※保健師課程選択者は必修の履修科目です							
ナカリゲ	PUN-3-01-910							

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名			
	公衆衛生看護学実習Ⅱ				榮田 絹代 赤星 琴美 高本佳代子			
科目区分			対象学科					
専門分野 公衆衛生看護学			看護学部 看護学科					
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP				
4年次	前期	2	○	DP4, DP5, DP6				
到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	1	施設の概要を理解し、産業保健活動・学校保健活動の意義や法的根拠を述べられる。					○	
	2	産業における保健師の役割と活動内容、活動展開に必要な方法と技術を説明できる。				○		
	3	学校における養護教諭の役割及び、活動展開に必要な方法と技術を説明できる。				○		
	4	関係機関や関係職種との連携、産業保健・学校保健と地域との連携を説明できる。					○	○
5								
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間			担当教員		
	1	【1週目（産業）】 *実習計画に沿って実習を行う。 <初日> ①実習地のオリエンテーションを受ける。 ②実習地の健康支援活動に参加する。 <2日目～5日目> ①実習地の健康支援活動に参加する。 ②健康課題に関する対象（領域）に対する個別援助活動（健康相談、保健指導等）を実施する。 <カンファレンス> 3日目：中間カンファレンスを行い、実習目標の達成状況の確認、目標達成のために今後の実習に必要なことを討議する。 最終日：産業保健実習最終カンファレンスを行い、実習を通しての学びを発表する。	実習前：（8 h） ①公衆衛生看護科目および関連科目の復習をする。特に、産業保健に関する法律、活動の対象や活動内容、関係機関・関係職種について理解しておく。 ②参加する事業等の目的・法的根拠を復習する。 実習中：（毎日1 h） ①実習記録を整理する。 ②参加する保健事業等や健康相談の対象者について、必要な情報収集を行う。 ③実習まとめ資料を作成する。 実習後：（2 h） ①実習記録を整理し、不足している学習を適宜行う。			赤星 琴美 榮田 絹代 高本佳代子		
2	【2週目（学校）】 *実習計画に沿って実習を行う。 <初日> ①実習地のオリエンテーションを受ける。 ②実習地の健康支援活動に参加する。 <2～5日目> ①実習地の健康支援活動に参加する。 ②健康課題に関する対象（領域）に対する個別援助活動（健康相談、保健指導等）、を実施する。 <カンファレンス> 3日目：中間カンファレンスを行い、実習目標の達成状況の確認、目標達成のために今後の実習に必要なことを討議する。 最終日：産業保健実習最終カンファレンスを行い、実習を通しての学びを発表する。	実習前：（8 h） ①公衆衛生看護科目および関連科目の復習をする。特に、学校保健に関する法律、活動の対象や活動内容、関係機関・関係職種について理解しておく。 ②参加する保健活動の目的・法的根拠を復習する。 ③実施予定の健康教育の指導案を作成する。 実習中：（毎日1 h） ①実習記録を整理する。 ②参加する保健活動や健康相談の対象者について、必要な情報収集を行う。 ③実習まとめ資料を作成する。 実習後：（2 h） ①実習記録を整理し、不足している学習を適宜行う。			赤星 琴美 榮田 絹代 高本佳代子			
履修条件や関連する科目等	関連科目：公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論、保健医療福祉行政活動論、公衆衛生看護学支援論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生活動展開論Ⅰ～Ⅳ、公衆衛生看護管理論Ⅰ・Ⅱ							
教科書	医歯薬出版：第1巻 公衆衛生看護学原論 第2版 第2巻 公衆衛生看護の方法と技術 第2版 第3巻 公衆衛生看護活動Ⅰ 第2版 第4巻 公衆衛生看護活動Ⅱ 2024年版 学校保健・産業保健							
参考資料	衛藤隆・岡田加奈子編「学校保健マニュアル」(2017年) 南山堂 和田攻監修 森見爾総編集「産業保健マニュアル」(2017年) 南山堂 中央労働災害防止協会編「令和4年度 労働衛生のしおり」 厚生労働統計協会：国民衛生の動向							

評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標1			10%		10%	
	到達目標2			10%	10%	10%	
	到達目標3			10%	10%	10%	
	到達目標4			10%		10%	
	到達目標5						
（自由記述欄）評価方法	実習態度、事業等参加状況、カンファレンス参加状況、実習記録、最終提出物で、評価を行います。						
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。						
学習相談及び学習成果のフィードバック	実習記録、最終提出物は後日返却します。						
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項							
学生へのメッセージ	従業員・児童・生徒の方々と多く関わる実習です。自らの体調を整えて多くの人と接することができるよう準備をしてください。また、自分自身が感染源にならないことも大切です。健康管理に気を付けて過ごしてください。健康教育、保健相談等、保健活動に伴う法的根拠については、必ず事前学習してから実習に臨んでください。 ※保健師課程選択者は必修の履修科目です						
ナパリナグ	PUN-3-02-910						

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名			
	公衆衛生看護学実習Ⅱ				榮田 絹代 赤星 琴美 高本佳代子			
科目区分			対象学科					
専門分野 公衆衛生看護学			看護学部 看護学科					
対象学年	開講期間	単位数	主要授業科目	科目に関連するDP				
4年次	前期	2	○	DP4, DP5, DP6				
到達目標	No.	到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	1	施設の概要を理解し、産業保健活動・学校保健活動の意義や法的根拠を述べられる。			○			
	2	産業における保健師の役割と活動内容、活動展開に必要な方法と技術を説明できる。			○	○		
	3	学校における養護教諭の役割及び、活動展開に必要な方法と技術を説明できる。			○	○		
	4	関係機関や関係職種との連携、産業保健・学校保健と地域との連携を説明できる。					○	
	5							
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間			担当教員		
	1	【1週目（産業）】 *実習計画に沿って実習を行う。 <初日> ①実習地のオリエンテーションを受ける。 ②実習地の健康支援活動に参加する。 <2日目～5日目> ①実習地の健康支援活動に参加する。 ②健康課題に関する対象（領域）に対する個別援助活動（健康相談、保健指導等）を実施する。 <カンファレンス> 3日目：中間カンファレンスを行い、実習目標の達成状況の確認、目標達成のために今後の実習に必要なことを討議する。 最終日：産業保健実習最終カンファレンスを行い、実習を通しての学びを発表する。	実習前：（8 h） ①公衆衛生看護科目および関連科目の復習をする。特に、産業保健に関する法律、活動の対象や活動内容、関係機関・関係職種について理解しておく。 ②参加する事業等の目的・法的根拠を復習する。 実習中：（毎日1 h） ①実習記録を整理する。 ②参加する保健事業等や健康相談の対象者について、必要な情報収集を行う。 ③実習まとめ資料を作成する。 実習後：（2 h） ①実習記録を整理し、不足している学習を適宜行う。			赤星 琴美 榮田 絹代 高本佳代子		
	2	【2週目（学校）】 *実習計画に沿って実習を行う。 <初日> ①実習地のオリエンテーションを受ける。 ②実習地の健康支援活動に参加する。 <2～5日目> ①実習地の健康支援活動に参加する。 ②健康課題に関する対象（領域）に対する個別援助活動（健康相談、保健指導等）、を実施する。 <カンファレンス> 3日目：中間カンファレンスを行い、実習目標の達成状況の確認、目標達成のために今後の実習に必要なことを討議する。 最終日：産業保健実習最終カンファレンスを行い、実習を通しての学びを発表する。	実習前：（8 h） ①公衆衛生看護科目および関連科目の復習をする。特に、学校保健に関する法律、活動の対象や活動内容、関係機関・関係職種について理解しておく。 ②参加する保健活動の目的・法的根拠を復習する。 ③実施予定の健康教育の指導案を作成する。 実習中：（毎日1 h） ①実習記録を整理する。 ②参加する保健活動や健康相談の対象者について、必要な情報収集を行う。 ③実習まとめ資料を作成する。 実習後：（2 h） ①実習記録を整理し、不足している学習を適宜行う。			赤星 琴美 榮田 絹代 高本佳代子		
履修条件や関連する科目等	関連科目：公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論、保健医療福祉行政活動論、公衆衛生看護学支援論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生活動展開論Ⅰ～Ⅳ、公衆衛生看護管理論Ⅰ・Ⅱ							
教科書	医歯薬出版：第1巻 公衆衛生看護学原論 第2版 第2巻 公衆衛生看護の方法と技術 第2版 第3巻 公衆衛生看護活動Ⅰ 第2版 第4巻 公衆衛生看護活動Ⅱ 2024年版 学校保健・産業保健							
参考資料	衛藤隆・岡田加奈子編「学校保健マニュアル」(2017年) 南山堂 和田攻監修 森見爾総編集「産業保健マニュアル」(2017年) 南山堂 中央労働災害防止協会編「令和4年度 労働衛生のしおり」 厚生労働統計協会：国民衛生の動向							

評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標1			10%		10%	
	到達目標2			10%	10%	10%	
	到達目標3			10%	10%	10%	
	到達目標4			10%		10%	
	到達目標5						
（自由記述欄）評価方法	実習態度、事業等参加状況、カンファレンス参加状況、実習記録、最終提出物で、評価を行います。						
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。						
学習相談及び学習成果のフィードバック	実習記録、最終提出物は後日返却します。						
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項							
学生へのメッセージ	従業員・児童・生徒の方々と多く関わる実習です。自らの体調を整えて多くの人と接することができるよう準備をしてください。また、自分自身が感染源にならないことも大切です。健康管理に気を付けて過ごしてください。健康教育、保健相談等、保健活動に伴う法的根拠については、必ず事前学習してから実習に臨んでください。 ※保健師課程選択者は必修の履修科目です						
ナパリナグ	PUN-3-02-910						